14.4
914

栃木縣勢要覽

栃木縣統計課編

昭和十三年版

0032158002

0032158-002

14. 4－914

栃木県勢要覧

栃木県総務部統計課・編

栃木県

昭和１１，１３年版

昭１１至１３

AFB

14•4
914

兵利學校遺構

栃木縣勢要覽

【表紙說明】日光東照宮陽明門壁畫の一部へ近く竣工すべき栃木縣廳舍全景を配せるもの

14·4
914

目次

一、總說
位置……一
地勢……一
氣象……二
表一、氣象
沿革……三
二、土地・戶口
土地……五
表二、土地總面積
表三、民有々租地種別
戶口……六
表四、都市區劃及戶口
表五、町村區劃及戶口
表六、人口動態
表七、現在戶數職業別
表八、現在人口年齡別及配偶關係別
三、產業
生產總價額……二五
表九、都市別各種生產總價額
表一〇、生產價額ヨリ見タル市町村順位
農業……三一
表一一、米作付段別及收穫高
表一二、麥作付段別及收穫高
表一三、主要產物價額
表一四、農產物種別
畜產業……三九
表一五、畜產物種別
林業……四二
表一六、林產物種別
鑛業……四三
表一七、鑛產物種別
水產業……四四
表一八、水產物種別
工業……四六
表一九、工產物種別
商業……五二
表二〇、重要品縣外移出入
表二一、銀行

目次

表二二、會　社
表二三、商工會議所
産業團体……五五
表二四、産業組合
表二五、各種組合
表二六、農業倉庫
表二七、農會及市場
表二八、保　險
耕地整理……六八
表二九、耕地整理地區面積
表三〇、開墾助成其ノ他
四、交通・通信
交通・通信……六〇
表三一、道路及橋梁支辨河川
表三二、主要停車場貨客
表三三、地方鐵道
表三四、軌　道
表三五、索　道
表三六、船　車
表三七、發電水利使用
表三八、災　害
表三九、郵便電信電話局所
表四〇、郵便・電信・電話
五、教　育
學齡兒童……六六
表四一、學齡兒童
學　校……六八
表四二、小學校
表四三、小學校教員
表四四、市町村立小學校教員平均月俸額
表四五、師範學校
表四六、中學校
表四七、高等女學校
表四八、實業學校(甲)
表四九、實業學校(乙)
表五〇、青年學校教員養成所
表五一、青年學校
表五二、各種學校
表五三、盲啞學校
表五四、幼稚園
公學費・公學資産……七八
表五五、公學費
表五六、公學資産
圖書館……七九

表五七、圖書館
青年團……八〇
表五八、青年團
育英資金……八〇
六、社寺・徴兵
社　寺……八一
表五九、社寺
徴　兵……八二
表六〇、徴兵
七、社會事業
社會事業……八三
表六一、各種事業施設
表六二、軍事救護
表六三、行旅病人・死亡人
表六四、救護法ニ依ル救護
表六五、日本赤十字社栃木支部
表六六、愛國婦人會栃木縣支部
移　民……八六
八、警　察
警　察……八七
表六七、警察區劃
表六八、警察官
表六九、火災
表七〇、火災月別
表七一、犯罪
表七二、盜難物
表七三、警察費
九、衛　生
衛　生……九〇
表七四、死亡者死因
表七五、傳染病
表七六、公立病院
表七七、私立病院
表七八、醫師
表七九、歯科醫師
表八〇、藥劑師
表八一、産婆・看護婦
表八二、健康保險
一〇、財　政
財　政……九五
表八三、縣市町村豫算額
表八四、縣豫算歳入細別
表八五、縣豫算歳出細別
表八六、市町村豫算歳入細別

目次

表八七、市町村豫算歳出細別
表八八、租税負擔
表八九、間接國税
表九〇、縣有財産
表九一、市町村基本財産
表九二、地方債
一一、議會
議會……一〇五
表九三、衆議院議員選擧
表九四、縣會議員選擧
表九五、議會
▲附錄
歴代本縣知事
歴代本縣々會議長
警察署管轄區域
著名市街地概要
名勝舊蹟
史蹟名勝天然紀念物
二宮尊德翁遺跡案内
日光國立公園ハイキングコース
山嶽
原野
河川
著名釣場
湖沼
瀧
公園及遊園地
著名温泉
スキー場及スケート場
主要工場會社
各郡市主要物産
特産及名産食料品
傳說一斑
栃木縣ニ關係アル古歌一斑
栃木縣ニ關係アル芭蕉ノ俳句
統計上ヨリ見タル栃木縣ノ地位
栃木縣内鐵道軌程及賃金
栃木縣全圖

栃木縣勢要覽

昭和十三年版

一、總說

位置　本縣は關東の東北部に位し、東經百三十九度二十分より百四十度十八分に至り、北緯三十六度十二分より三十七度九分に達す。東西十九里、南北二十五里、地積は四百十七方里にして全國の約五十九分の一に當るも、關東府縣中に於ては最大の縣なり。

地勢　本縣は下野國の三市八郡百七十四町村を管轄し茨城・埼玉・群馬・福島の四縣に隣接す。東西北の三面は山嶽重疊し、其の主なるものを那須（活火山）・高原（熄火山）・日光（同上）等の火山彙とす。中央以南は所々平坦廣闊なれども林産及鑛産豊にして附近、各所に温泉湧出し冬期は到る所にスキー場を現出す。中央以南は所謂關東平野の北部にして、一望万頃、地質肥沃、頗る農産に富む。河川は概ね源を北西の縣境に發し、其の長大なるものを鬼怒・渡良瀬・那珂の三川とす。鬼怒・渡良瀬の兩川は俱に南流して利根川に注ぐも、獨り那珂の一水は東折して茨城縣に入り、遠く那珂港に注ぐ。孰れも運漕灌漑の便あり。湖沼の大なるものを中宮祠湖（幸湖又は中禪寺湖とも謂ふ）及赤麻沼とし、魚蝦水産の利あり。道路開け、鐵道縱横に貫通し、電車・軌道・自動車の便亦整ひ、特に最近はガソリンカーの開通、省營バスの連絡等により交通輸送極めて容易となり、貨客の集散出入頻繁なり。

尙、本縣の極東は那須郡大內村大字大那地東方、極西は上都賀郡足尾町裏裝丸山北方、極南は下都賀郡藤岡町大字下宮南方、極北は那須郡高林村東北方三本槍岳西北にして、土地の最も高きは奥白根山の海拔八千五百六尺最も低きは下都賀郡藤岡町大字下宮地內の海拔四十尺なり。

氣象

本縣の氣溫は南方に高く、北西に遞下し、雨量は北西に多く、南北に至るに從ひて寡し。夏秋の候雷鳴多く昭和十一年中の落雷回數は百回に達せり。尙、地域の海濱を距ること遠く最近距離にして約十里を算する爲寒暑の差稍々大なり。

昭和十一年中、宇都宮市に於ける氣象は左表の如し。而して同市に於ては三月五日雪庭上に誦ひ、二十二日梅花綻ぶ。又同月二十七日トカゲ及モンシロ蝶を見る。四月十八日蛙及燕の聲を聞き、二十六日山櫻及早生梨の開くを見る。五月一日ツヽゲ、二日ドウダン、九日藤咲き、二十日蚊出で、二十四日アヤメ、二十七日サツキ咲き初む。七月十二日日暮蜩、二十日油蜩、八月四日ツクツク法師、九月一日クツワ蟲、十六日松蟲、鈴蟲の各聲を耳にす。十月三日漆六日柿、八日楓各紅葉し、二十三日菊花開き、十一月十日ポプラ、二十三日一般の樹木落葉し始む

【第一表】氣象（昭和十一年宇都宮市）

	平均氣壓	平均溫度	平均濕度	平均雲量	降水總量	天氣日數 快晴	曇	降雨	降雪	電雷	暴風
一月	七四八・八耗	〇・四度	六七%	三・六十分率	二五・九耗	一〇	七	八	三	〇	三
二月	七四九・〇	〇・一	六九	五・九	四八・一	四	一四	一二	七	〇	四
三月	七五三・二	三・五	七二	六・一	五七・六	一	一〇	二二	八	一	二
四月	七四九・八	九・九	七四	七・四	一四九・九	三	二五	二七	〇	五	二
五月	七五〇・七	一四・九	八〇	七・六	一四八・六	一	二六	二四	〇	五	三
六月	七四八・二	一九・九	八四	八・三	二三二・一	一	二四	三四	〇	七	〇
七月	七四七・一	二三・七	八三	七・六	二二八・五	一	二一	二九	〇	九	〇
八月	七四七・五	二四・七	八六	八・四	三二〇・八	〇	二六	三五	一	一四	〇
九月	七五〇・二	二二・四	八六	七・五	三二九・四	三	二五	二九	〇	〇	〇
十月	七五一・一	一四・〇	八二	六・二	二四一・三	七	二二	一八	〇	〇	一
十一月	七五四・二	八・六	七八	六・一	三五・七	五	一九	一一	〇	〇	〇
十二月	七五三・六	三・三	八〇	四・九	四八・六	八	一六	一一	三	〇	一
全年	七五〇・三	一二・〇	七八	六・六	一、八六六・五	四四	二三五	二六〇	二一	五一	一七
前年	七五〇・四	一二・〇	七八	六・五	一、五三〇・六	五四	二二二	二七三	二〇	三五	一六

尙昭和十一年宇都宮市に於て初霜を見たる日は十月二十三日、初雪を見たる日は十二月二十日なり。又同年中宇都宮測候所が檢測したる地震は四百九十四回（內有感覺百回）にして前年より二十一回の減なり。

沿革

下野國は上野國と共に毛野國と稱したる地にして後別れて下毛野國となり、更に毛宇省かれて下野となれり。今尙上野と共に兩毛と呼ばれつゝあるは之に據るものなり。

崇神天皇の皇子豐城入彥命の統治する所となり、仁德天皇の朝、豐城入彥命四世の孫奈良別に至りて始めて國造

を賜ふ。下毛野國の東北には別に那須國造あり、又東南なる結城・綾島等の地は總國に屬するものなれども、毛野國の繁榮せしときは一族此の邊に蔓延せり。國郡制定後、國府を都賀郡に置き下野の政所となせしなるべしと云ふ。

天慶年中藤原秀郷下野の介たり。平將門を誅せし功を以て、其の子孫世々州の守介に任じ、押領使を兼ね、都賀郡小山城に居り、小山氏を稱す。秀郷十二世の孫朝政此の國の豪族宇都宮朝綱・那須宗隆等と共に源頼朝に從つて功あり。頼朝・宗隆に那須郡を與へ、朝綱の子孫は宇都宮に居り、小山氏と代りて國守に任ず、朝政の弟宗政は芳賀郡長沼に城き、其の子孫長沼と稱す。源義家の孫義康は足利に居り、八世尊氏に至り、兵を率ゐて西上す。建武中興の時、朝綱八世の孫宇都宮公綱王事に勤めて守護に任ぜらる。既にして公綱の子氏綱は足利氏に屬し、小山朝氏は官軍に從ひ、子孫に至るまで結城氏と共に宇都宮氏と相爭ひしが、永德二年足利氏滿と戰ひて敗死す。足利氏乃ち結城基光の二子泰朝をして小山氏を繼がしむ。後、小山・宇都宮・長沼・那須及び結城の諸氏は豪族として、各々鎌倉八館の一に列せり。

足利成氏の兩上杉と相爭ふに及び、長沼成宗・成氏を救ひて敗れ、宇都宮氏獨り兵威强く、州主と稱したりしが、天文中、那須氏と戰ひて大に敗れ、諸族那須氏に歸す。北條氏又南境を略し、宇都宮氏益々衰ふ。豊臣秀吉の小田原城を征するや、那須氏の地を收めて那須氏の家臣大關高增を那須郡黑羽に、大田原晴清を大田原に封じ那須氏をして僅に福原に食ましむ。宇都宮國綱獨り其の舊封を全うせしが、慶長二年亦罪を蒙り其の封を收めて蒲生秀行に賜ふ。關ヶ原の役後、德川氏其の地江戸の要衝に當るを以て、秀行を會津に徙し、譜代の臣奥平家昌を以て之に代ふ。寶永年中、奥平氏轉じて、戸田忠眞封ぜらる。其の他封を受くるもの烏山（大久保氏）・壬生（鳥居氏）・足利（戸田氏）・植野（堀田氏）・吹上（有馬氏）・高德（戸田氏）あり。すべて九藩、以て明治維新に及ぶ。明治元年六月始めて下野國に眞岡知縣事を置き、舊幕府眞岡代官支配地八万石を管す。同二年二月知縣事を廢し、日光縣を置き、舊知縣事の管地及日光神領其の他二百八十九、社寺領四百三十六、旗下の采邑並濱松・嚴原・高德三藩の交換地・一橋・山内・喜連川三藩の奉還地を合せ管す。同四年七月藩を廢し縣を置き、諸藩悉く縣となる。同年十一月各縣を廢し、更に栃木・宇都宮の二縣を置き、栃木縣は都賀・安蘇・寒川・足利・梁田の五郡及日光縣の管地上野國新田・山田・邑樂の三郡を管し、宇都宮縣は河内・芳賀・那須・鹽谷の四郡を治せり。同六年六月宇都宮縣を廢し栃木縣に併す。同九年八月上野國の三郡を群馬縣に屬し、下野一國を以て本縣の管轄とし、同十一年十一月都賀郡を分ちて上下となし、同十七年一月縣廳を栃木より宇都宮に移し、同二十二年三月寒川郡を廢して其の區域を下都賀郡に編入す。同二十九年四月宇都宮に市制を施行し、同年足利・梁田の二郡を廢し、其の區域を以て更に足利郡を置き、次で大正十年一月足利、昭和十二年四月栃木に各市制を施行し、以て現今の三市八郡百七十四箇町村となれり。

二、土地・戸口

土地

本縣下昭和十二年首現在土地總面積は五十三万八千八百十九町二反にして、內御料地二万千七十八町六段（三・九〇％）諸官用地十三万六千八百九十九町六段（二五・四一％）民有地三十八万八百四十一町（七〇・六九％）なり。

【第二表】　土地總面積　（年首現在）

	總數	御料地	諸官有地	民有地 總數	民有地 有租地	民有地 無租地	民有地 免租年期地
昭和十二年	五三八、八一九・二 町反	二一、〇七八・六 町反	一三六、八九九・六 町反	三八〇、八四一・〇 町反	三五八、二四九・一 町反	二一、二六九・八 町反	一、五二二・一 町反
前年	五三八、八六四・五	二一、三八一・六	一三六、七六二・一	三八〇、七二〇・八	三五八、一三九・〇	二一、二四五・一	一、三三六・七

【第三表】　民有々租地細別　（昭和十二年）

	段別	段別百分比例	賃貸價格	段別	段別百分比例	賃貸價格
田	七三、八〇五・九 町反	二〇・六〇	一九、一二〇、五七三 円	林	一八一、九三一・〇 町反	五〇・七八	一、三一五、八八九 円
畑	六三、六二二・五	一七・七六	五、三八四、五三八	場	八、〇四六・九	二・二五	一五、二五五
宅	一二、五七九・五	三・五一	八、二五四、二二八	牧	一七、八〇〇・八	五・〇〇	六二、九二八
鑛	〇・〇	—	一、二一五	野	三三八・五	〇・〇九	五、四〇六
池	一二四・〇	〇・〇三	八三九	原	三五八、二四九・一	一〇〇・〇〇	三四、一六〇、八七一
泉				雑種地			
地				計			
沼							

戸口

人口靜態　昭和十年十月一日現在の國勢調査に依れば、世帶數二十一万三千六十、人口百十九万五千五十七人にして、之を昭和五年の國勢調査に比すれば、世帶數に於て七千七百（一年平均千五百四十）人口に於て五万三千三百二十人（一年平均一万六百六十四人）を孰れも增加せり。而して全國中に於ける順位は世帶數第二十六位、人口第二十四位に在り。一世帶當り人口は五人六分にして、男女の權衡は男百人に付女百三人〇分五厘に達す。女子の超過は紡織工業に於ける職業女子の入寄留多きと男子の他府縣出稼者多きに因る。又現在人口に比し常住人口は七百七十五人の少數なること前記調査に依り分明し、同時に一時現在者數一萬五千四百十八人、一時不在者數一萬四千五百四十三人なることも分明せり。尙昭和十一年十月一日現在本縣推計人口は百二十萬六千二百人、內男五十九萬四千人、女六十一萬二千二百人なり。

人口動態　昭和十一年中に於ける人口動態は婚姻一万六百八十九件（一日平均二十九件）離婚六百七十三件（一日平均二件）出生四万二千九百五十六人（一日平均百十八人）死產二千五百九十八人（一日平均七人）死亡二万千九人（一日平均五十八人、人口千に付十七人四分）にして人口の自然增加は二万千九百四十七人なり。

現在戸數職業別　昭和十一年末現在戸數は二十万八千六百七十六戸にして、其の內有業二十万四千七百五十六戸（九八・一二%）無業三千九百二十戸（一・八八%）なり。而して有業職業別に其の割合を見るに農業最高にして四九・七一%を占め、以下商業一七・三四%、工業一四・六一%、公務及自由業八・七一%、交通業三・〇四%、鑛業二・二九%等の割合と順位に在り。

現在人口年齡別及配偶關係別　昭和十年國勢調査の結果に依る本縣現在人口を年齡別に見るときは、十四歲以下の者四〇・九一%、十五歲以上五十九歲以下の者五一・七五%、六十歲以上の者七・三四%にして、之を前回の國勢調査の結果に對比するときは十四歲以下の者に於て〇・一〇%、六十歲以上の者に於て〇・一九%を孰れも增加し

十五歳以上五十九歳以下の者に於て〇・二九%を減ぜり。又現在人口中有配偶者の割合は三七・四二%にして前回に比し〇・六七を減ぜり。

【第四表】郡市區劃及戸口

昭和十年國勢調査（人口中括弧内ニ掲ゲタルモノハ在營、在艦及在監者數ノ内書ヲ示ス）

郡市	面積（參謀本部測量昭和十年三月末日現在）方粁	町村數 町村	大字數	世帶數（速報）	現在人口 男	女	計（公定人口）	一方粁ニ付人口	昭和五年國勢調査人口（公定人口）
河内郡	五九〇・〇三	一	二〇	一八、七五九	六〇、五九四	五七、七二一	一一八、三一五（三、一〇二）	二〇一	一一四、九六九（二、九一一）
上賀茂郡	一、一二八・五七	五	一六	二七、九五三	七四、五六六	六一、一七三	一五〇、二五八	一三三	一四四、七六三
芳賀郡	六〇五・〇五	五	一五	二一、九一八	九〇、七一五	六二、四〇七	一二三、五八〇	二〇四	一一八、九六三
下都賀郡	五九二・一八	五	二九	三一、〇八〇	四六、八五三	九三、五一七	一八四、二三二	五・九三	一八〇、七三六
塩谷郡	一、三七八・三四	五	一一	一六、九〇七	八九、九七六	九三、四八五	一八三、四六、一（一、六）	九五、七五九	九一、〇二二
那須郡	一、五四八・一六	九	二二	三二、三二九	四三、九二四	四六、三六八	九〇、二九二（二、三）	一一九	一七三、九五八
安蘇郡	三五九・六五	五	二〇	一七、一一九	三八、四六七	四三、三五四	八一、八二一	二五一	一七〇、八五八
足利郡	一九三・六九	三	一三	一四、五三八	四三、二八四	四三、八四五	八七、一二九（七九九）	四二・六三	一七三、九五八
宮郡	一六・七二	一	一町八四	一七、三五五	二三、六五一	二五、二二四	四八、八七五	五、二一一	八一、三八八（五一四）
足利郡	九・一三	一	四六	八、九九九	一五、三四二	一五、九九三	三一、三五三（二一七）	五〇〇二	四三、八九八（一五一）
栃木郡	一五・〇七	一	一町一二	六、一〇三	一五、〇七九	一五、一三四	二、〇七九	五・一三	二九、六八四（一五一）
計	五、四三六・五九	三八	一三六	二一三、〇六〇	五七八、八九八	五七八、八九八	一、一九五、〇五七（四、一五七）（三、五八一）	一八六	一、一四一、七三七（三、五八一）

【第五表】町村區劃及戸口（前表備考參照）

昭和十年國勢調査

町村名	面積（參謀本部測量昭和十年三月末日現在）方粁	大字數	世帶數	現在人口 男	女	計（公定人口）	役所役場所在地（△印ハ字名其ノ他ハ大字名）
河内郡							
横川村	二二・九五	一〇	八二一	二、七三九	二、七一一	五、四五〇	屋板
平石村	二八・一二	七	一、一九六	三、七七九	三、六八三	七、四六二	下平
瑞穂野村	二一・一一	七	七七八	二、四六六	二、四五七	四、九二三	下桑島
本郷村	一七・八三	八	七七八	二、四〇二	二、三七八	四、七八〇	西蓼沼
上三川町	一八・九六	七	一、〇四一	三、一二二	三、一三四	六、二五六	下蒲生
吉田村	一五・〇二	一三	七一三	二、〇五九	二、一八九	四、二四八	本吉田
薬師寺村	一六・五〇	七	七七九	二、三七八	二、三五九	四、七三七	薬師寺
明治村	一七・〇六	八	六七二	二、二七七	二、二七六	四、五五三	大山
雀宮村	一六・七六	一〇	二五二	二、四五一	二、四九五	四、九四六	下反町

上都賀郡	姿村	二五・一二	九	一、〇四〇	三、九一四	三、一二〇	七、〇三四（七〇八）
	城山村	四一・七八	七	一、九二四	六、二二六	五、四九三	一一、七一九（五八八）
	國本村	三一・一九	五	一、〇九五	五、一六四	三、二八四	八、四四八（一、八〇六）
	富屋村	一七・一八	六	五〇三	一、五二七	一、五二五	三、〇五二
	大澤村	四九・二二	一一	八六〇	二、六一二	二、六五〇	五、二六二
	豐岡村	六九・四七	一四	八二九	二、五三五	二、五三二	四、八八三
	篠井村	四九・七六	一一	一、〇五九	三、〇三三	三、一七六	六、二〇九
	羽黒村	五七・五九	一〇	七五四	二、二三一四	二、三八五	四、六九九
	綿島村	二一・九五	三	六五五	二、〇四七	二、一七一	四、二一八
	古里村	二三・五五	六	八五一	二、六三五	二、五九四	五、二二九
	田原村	二三・一八	九	五四三	一、七四七	一、七七二	三、五八八
	豐郷村	二五・七三	一三	一、一〇六	三、三五一	三、三三七	六、九八八
	計	五九〇〇三	一八一	一八、七五九	六〇、五九四	五七、七二一	一一八、三一五（三、一〇二）
	下鹿沼町	九・六四	四	四、六〇三	一、八九〇	一一、九〇七	二二、七九七
	菊澤村	二八・〇九	七	八二九	二、五五一	二、六四〇	五、一九二
	北犬飼村	二九・二〇	六	八四三	二、八六四	二、八六四	五、七二八
	櫟山村	一六・二六	八	七八一	二、三五七	二、三五七	四、七六六
	楡木村	一八・〇八	八	九四九	二、八二〇	三、〇一三	五、八三三
	金崎村	一四・九六	五	八三九	二、六一七	二、六四〇	一、六九四
	△六地藏村	一六・七〇	一	九二二	八八二	八一二	△二、九六三
	深程村	一九・六〇	三	四九七	一、四九五	一、四六八	二、九六三
	上野村	三七・九九	二	四一三	一、二一四	一、二一四	二、四三〇
	中尾村	七〇・二四	四	六二二	一、八二三	一、八五一	三、六七四
	口粕村	五〇・四〇	四	八三〇	二、二六二	二、二〇八	四、四七〇
	西野村	二九・六九	五	六三三	一、八五二	一、八七二	三、七二四
	加園村	四六・四一	四	六七二	一、九一〇	一、九一〇	三、八二五
	上蘆村	二六・四四	七	七四二	二、二九六	二、三五四	四、六五〇
	草蘆村	七八・八一	三	五〇〇	一、四九九	一、四二三	二、九二二
	日向村	二八・二九	一	三九六	一、二六〇	一、二五一	二、二五一
	△鍛冶谷内村	五〇・六二	一	三七二	一、〇〇九	一、〇一〇	二、〇一九
	△宮挾村	五二・三六	八	九二七	二、六七七	二、八一一	五、四八八
	今市町	五〇・八五	九	二、七〇一	六、五二四	六、九四九	一三、四七三
	△新日光町	二六八・〇一	九	四、一一六	一〇、六九五	一〇、七五七	二一、四五二
	梨子尾町	一八五・九三	一	五、三九六	一三、一三二	一二、三五二	二五、四八四
	計	一、一二八・五七	九五	二七、九五三	七四、五六六	七五、六九二	一五〇、二五八

上都賀郡	下鹿沼町	九・六四	四	四、六〇三	一、八九〇	一一、九〇七	二二、七九七
	菊澤村	二八・〇九	七	八二九	二、五五一	二、六四〇	五、一九二
	北犬飼村	二九・二〇	六	八四三	二、八六四	二、八六四	五、七二八
	玉生村	一六・二六	八	七八一	二、三五七	二、三五七	四、七六六
	上石川村	一八・〇八	八	九四九	二、八二〇	三、〇一三	五、八三三
	櫟山村	一四・九六	五	八三九	二、六一七	二、六四〇	一、六九四
	楡木村	一八・〇八	八	九四九	八八二	八一二	△二、九六三
	金崎村	一四・九六	五	八三九	一、四九五	一、四六八	二、九六三
	△六地藏村	一六・七〇	一	九二二	一、二一六	一、二一四	二、四三〇
	深程村	一九・六〇	三	四九七	一、八二三	一、八五一	三、六七四
	上野村	三七・九九	二	四一三	二、二六二	二、二〇八	四、四七〇
	中尾村	七〇・二四	四	六二二	一、八五二	一、八七二	三、七二四
	口粕村	五〇・四〇	四	八三〇	一、九一〇	一、九一〇	三、八二五
	西野村	二九・六九	五	六三三	二、二九六	二、三五四	四、六五〇
	加園村	四六・四一	四	六七二	一、四九九	一、四二三	二、九二二
	上蘆村	二六・四四	七	七四二	一、二六〇	一、二五一	二、二五一
	草蘆村	七八・八一	三	五〇〇	一、〇〇九	一、〇一〇	二、〇一九
	日向村	二八・二九	一	三九六	二、六七七	二、八一一	五、四八八
	△鍛冶谷内村	五〇・六二	一	三七二	九二七	二、七〇一	四、一一六
	△宮挾村	五二・三六	八	九二七	五、三九六	五〇、八五	一八五・九三
	今市町	五〇・八五	九	二、七〇一	四、一一六	二六八・〇一	一八五・九三
	△新日光町	二六八・〇一	九	四、一一六	五、三九六	五〇、八五	二六八・〇一
	梨子尾町	一八五・九三	一	五、三九六	一三、一三二	一二、三五二	二五、四八四
	計	一、一二八・五七	九五	二七、九五三	七四、五六六	七五、六九二	一五〇、二五八

芳賀郡

眞岡町	二〇・二二	一一	一、九四〇	五、一四四	五、二一三	一〇、三五七	臺町
大内村	三三・八五	一二	一、〇九五	三、二八〇	三、二九六	六、五七六	飯貝
中沼村	二七・一六	一六	一、〇四〇	二、九〇八	三、〇一九	五、九二七	中
長下田村	一七・四一	一二	八一一	二、三二六	二、四五三	四、七七九	太田
久物部村	一三・〇六	八	一、一〇九	二、九七一	三、〇一三	五、九八四	谷田
山前村	二四・四〇	一二	九四四	二、八五七	二、八六〇	五、七一七	物井
田野村	三一・〇〇	一四	一、三三二	三、九三六	三、九一九	七、八五五	小林
益子町	二三・八五	九	七五一	二、一一四	二、一六三	四、二七七	長堤
七井村	三八・一〇	五	一、五七九	四、一四九	四、二二〇	八、三六九	益子
逆川村	二七・八一	六	九七六	二、五三二	二、六〇八	五、一四〇	七井
茂木村	六〇・四〇	八	九一四	二、五五九	二、五九〇	五、一四九	飯
中川村	三八・六八	九	一、七八九	四、一七八	四、四二八	八、六〇六	茂木
須藤村	四〇・一三	九	一、〇四五	三、一三一	三、三三三	六、三三四	河井
小貝村	三二・一六	一三	八六二	二、三五七	二、二六一	四、六一八	町
市羽村	三三・八一	一一	七六四	二、三二九	二、四四五	四、七七四	杉山
祖母井町	三一・六八	六	一、一四四	三、二五三	三、二九二	六、五四五	市田
	一八・二八	五	九八八	二、八四三	二、八五〇	五、六九三	祖母井

南高根澤村	二九・一〇	五	八七〇	二、五九九	二、六一八	五、二一七	芳志戸
水橋村	二三・〇六	六	八三九	二、五四二	二、五七三	五、一一五	西沼
清原村	四〇・八九	九	一、一二六	三、一六五	三、三六三	六、五二八	竹下
計	六〇五・〇五	一八六	二一、九一八	六一、一七三	六二、四〇七	一二三、五八〇	

下都賀郡

大宮村	一一・三二	九	七二二	二、〇八八	二、一九九	四、二八七	大
國府生村	一四・八二	七	八二四	二、六〇四	二、五八〇	五、一八四	惣社
壬生町	一八・〇九	二	一、四八〇	四、一〇三	四、一一四	八、二一七	壬生
稲葉村	一八・〇九	五	九四一	二、一八九〇	二、九〇六	五、七九六	稲葉
犬飼村	二四・二九	六	八七一	二、八一九	二、八一五	五、六二四	上小林
南犬飼村	一五・八五	六	五八八	二、〇一六	二、〇四六	四、〇六二	北小山
委橋村	七・五六	六	八三一	二、二四五	二、二五九	四、五〇四	下古橋
石橋町	二〇・七六	六	一、〇七二	三、三一九	三、三七二	六、五九一	石井
國分寺村	二九・九四	一二	九五一	二、九九七	三、一一七	六、一一四	小金川
桑絹村	一七・五四	八	一、一三四	三、三〇一	三、四二七	六、七三六	羽福良
小山町	一二・八八	三	二、六二〇	六、九二六	七、二二八	一四、一五四	小山
大谷村	三〇・二〇	一三	九六二	三、一七九	三、二三八	六、四一七	雨ヶ谷

| | | |

那須郡

熱田村	二四〇六八	一	九〇四	二、七八八	五、六五七
喜連川町	三七〇〇	五	一、三九八	三、六七八	七、六六三
片岡村	三三〇七六	九	八九九	二、三七七	四、九二六
計	一、三七八〇五四	一三九	一六、九〇七	四六、八五三	四八、九〇六
					九五、七五九 (一六)
大田原町	一二〇一一	一	二、三六九	五、六八三	二、八六九
親園村	二二〇四九	七	六六三	二、〇四〇	三、九八五
野崎村	二四〇七二	七	七一一	二、〇六七	二、九五四
佐久山村	二三〇九二	四	六八九	一、九九〇	二、〇二六
上江川村	三七〇二五	六	一、二五八	一、九五六	二、一〇七
下江川村	四一〇九一	八	五八一	三、四一六	三、五九九
荒川村	三八〇六八	一七	一、〇四八	二、八七二	三、〇一五
向田村	一五〇三六	五	六二五	一、六八一	一、七九三
境村	五〇〇八	八	九九七	二、九一〇	二、九六一
烏山町	四〇九五	一	一、六三〇	四、〇二七	四、一一〇
七合村	二七〇五六	七	九三六	二、六五七	二、六六二
武茂村	二三〇九五	五	五五九	一、六五二	一、六二八
馬頭町	四八〇二三	五	一、五九八	四、二〇八	四、二二五
					一一、七七八
△郭内村					四、一三七
親園村					四、〇九七
薄葉村					二、二三〇
佐久山村					二、〇二六
下河戸村					四、〇六三
熊田村					七、〇一五
大金村					五、八八七
野上村					三、四七四
境村					五、八七一
△元田町					八、一三七
中山村					五、三一九
松野頭村					三、二八〇
馬頭町					八、四六三

大内村	三九〇二五	四	六六五	一、七二二	一五
山田村	四〇三三	三	七五一	二、〇三八	二、一二〇
那珂村	三八〇一〇	一〇	一、二三三	三、二八五	三、四二六
湯津上村	三二〇七六	九	一、〇三七	二、九九七	三、〇二四
川西町	一八〇八三	六	八九六	二、四九一	二、六二〇
黒羽町	五三〇二一	九	一、三〇二	三、三三〇	三、四四八
須賀川村	七一〇五五	五	八四七	二、二三一	二、二九五
南郷村	四三〇三九	九	六三三	一、九五四	二、〇八五
伊王野村	六九〇八八	一〇	九〇四	二、四八三	二、六四八
蘆野町	四四〇五四	五	六三八	一、八三五	一、九九三
那須村	二五七〇四七	六	二、一六九	七、二〇八	七、一二二
鍋掛村	三二〇一〇	四	五〇一	一、五六七	一、六四五
金田村	五九〇一八	二〇	一、三七九	四、六二五	四、六九〇
黒磯町	二七〇一〇	一〇	一、三六六	三、五五五	三、七七五
東那須野村	三四〇九五	二三	九三四	二、五三二	二、七三七
狩野村	二四〇二九	一一	一、二六〇	三、二四〇	三、六四〇
西那須野町	三九〇〇二	一	一、二〇〇	三、一七七	三、二九四
高林村	二五一〇〇〇	一五	八五〇	二、五四四	二、五三〇
計	一、五四八〇一六	二三八	三二、三二九	八九、九七六	九三、四八五
大内村	三、五三七	一	六六五	一、七二二	一五
下郷村	四、一五八	一、一二〇	七五一	二、〇三八	二、一二〇
小川村	六、七一一	三、四二六	一、二三三	三、二八五	三、四二六
佐良土村	六、〇二一	三、〇二四	一、〇三七	二、九九七	三、〇二四
黒羽向町	五、一一一	二、六二〇	一、三〇二	二、四九一	二、六二〇
須佐木村	六、七七八	三、四四八	八九六	三、三三〇	三、四四八
中野内村	四、五二六	二、二九五	八四七	二、二三一	二、二九五
伊王野村	四、〇三九	二、〇八五	六三三	一、九五四	二、〇八五
蘆野村	五、一三一	二、六四八	九〇四	二、四八三	二、六四八
寺子村	三、八二八	一、九九三	六三八	一、八三五	一、九九三
越堀村	一四、三四〇 (三二)	七、一二二	二、一六九	七、二〇八	七、一二二
	三、二一二	一、六四五	五〇一	一、五六七	一、六四五
中田原村	九、三一五	四、六九〇	一、三七九	四、六二五	四、六九〇
豊浦村	七、三三〇	三、七七五	一、三六六	三、五五五	三、七七五
東小屋村	五、二六九	二、七三七	九三四	二、五三二	二、七三七
三島村	六、八八三	三、六四〇	二四〇	三、二四三	三、六四〇
△西那須野町	六、四七一	三、二九四	一、二〇〇	三、一七七	三、二九四
高林村	五、〇七四	二、五三〇	八五〇	二、五四四	二、五三〇
	一八三、四六一 (一二三)	九三、四八五	三二、三二九	八九、九七六	九三、四八五

安蘇郡

佐野町	四・二一	一	三、六九〇	八、五五八	九、六一二
植野村	一四・九〇	六	一、七二四	四、四八〇	四、九二三
界村	七・五九	四	六〇四	一、五四七	一、六五二
犬伏町	一七・一七	九	一、〇七九	二、九二五	三、〇二九
堀米町	四・六七	二	六五六	一、六七七	一、七五二
沼村	二三・〇四	八	二、四四六	六、二七八	六、五七六
田好村	一四・四八	三	五三九	一、四六五	一、五三一
三生村	二二・六九	四	一、三三九	三、五八八	三、四八五
葛盤村	二六・五四	三	六二九	一、八三七	一、八四六
常室村	四二・三七	三	四四九	一、二〇五	一、一八六
氷上村	五二・二七	四	四六六	一、二五四	一、二一四
野駒村	六七・三六	一	六二一	一、六五四	一、六三八
飛合村	三四・一〇	四	八一四	二、〇六〇	二、〇九六
新見村	二二・四〇	四	一、四五三	三、七五七	四、〇三七
赤川村	五・八六	三	六一〇	一、六三九	一、七九一
旗村	三五九・六五	五七	一七、一一九	四三、九二四	四六、三六八
計					

△北 | 植 | 馬 | 犬 | 堀 | 栃 | 戸 | 葛 | 仙 | 水 | 白 | △番 | 閑 | 赤 | 並
裏 | 野 | 門 | 伏 | 米 | 本 | 室 | 生 | 波 | 木 | 岩 | 東 | 馬 | 見 | 木

足利郡

毛野村	一三・六七	一〇	一、四九〇	三、七八一	四、二二八
富田村	九・七五	七	八二九	二、〇九七	二、二〇三
吾妻村	二六・〇四	七	一、二六四	一、六一九	一、七五二
北郷村	七・三三	四	五七九	三、三六二	三、六四八
名草村	七・三一	三	九四五	二、五二一	一、六一四
三重村	一九・四〇	一	五四六	一、八九四	二、八六二
山前村	七・〇五	二	八八四	二、五一四	三、〇四三
三和村	二九・一〇	三	一、〇一六	三、〇一七	三、五七八
葉鹿町	四・六〇	一	六四一	一、九〇六	二、〇三九
小俣町	一七・一五	一	九一一	二、五三五	三、〇二四
菱田村	二一・九三	二	七三二	二、〇一二	二、二〇一
梁田村	四・七〇	三	四三二	一、一七六	一、二三八
久野村	六・一八	三	五二九	一、四六六	一、四四六
筑波村	六・八〇	四	七五五	一、九二六	二、〇〇三
御厨町	五・八〇	四	九八二	二、四三三	二、八〇八
山邊村	六・八八	一	二、〇〇三	四、六〇八	五、六六七
計	一九三・六九	五七	一四、五三八	三八、四六七	四三、三五四

（昭和十三年四月一日ヨリ町制施行）

△下 | 五 | 山 | 松 | △緣 | △吉 | 黑 | 福 | 久 | 小 | 福 | 八
利 | 十 | 田 | 岡 | 田 | 田 | 川 | 富 | 田 | 根 | 居 | 幡
村 | | 下 | 田 | 川 | 部 | 上 | 保 | 宿 | 保 | 曾 |
駒 | | 部 | 下 | 田 | 岡 | 場 | 川 | 富 | 田 | 根 | 居 | 幡
山

【第六表】人口動態（昭和十一年）

郡市	婚姻	離婚	出生 男	出生 女	出生 計	死亡 男	死亡 女	死亡 計	死産
河内都	一、一八九	六三	二、二三五	二、一二七	四、三六二	一、〇八六	九六八	二、〇五四	二九六
上賀都	一、三二三	七二	二、七三二	二、七五〇	五、四八二	一、三八三	一、二九八	二、六八一	二九一
芳賀都	一、〇九二	七二	二、四五四	二、三九二	四、八四六	一、一四六	一、〇三七	二、一八三	二八一
下都谷	一、九一七	一一五	三、五七七	三、四四四	七、〇二一	一、七一〇	一、五三六	三、二四六	三八四
塩須	九〇四	五七	一、七五三	一、七二七	三、四八〇	八九八	一、七一二	一、七一二	二四五
那須	一、六八四	一一〇	三、八〇七	三、五五三	七、三六〇	一、六六三	八八七	三、二〇七	四四四
安蘇	八四三	五九	一、六二〇	一、五二三	三、一四三	八八七	七七二	一、七六三	一七〇
足利	七六九	三八	一、四二四	一、三九二	二、八一六	七七二	七五一	一、五二三	一九三
字都宮	五〇九	四八	一、一七四	一、一〇四	二、二七八	九六三	六〇五	一、五六八	一六二
足利	二六五	二四	六三二	六二八	一、二六〇	三六〇	三〇二	六六二	八三
栃木	一九四	一五	四八八	四二〇	九〇八	二二六	一八四	四一〇	四九
前計	一〇、六八九	六七三	二一、八九六	二一、〇六〇	四二、九五六	一一、〇九四	九、九一五	二一、〇〇九	二、五九八
年	一〇、七四一	七八〇	二二、八二五	二一、八六五	四四、六九〇	一〇、五四六	九、五五二	二〇、〇九八	二、五二六

【第七表】現在戸數職業別（昭和十一年十二月末現在）

種別	本業	副業	計
有業 農業 農耕ニ從事スル者	九九、七四六	一五、三四七	一一五、〇九三
有業 農業 畜産ニ從事スル者	一九九	七、四〇二	七、六〇一
有業 農業 養蚕業ニ從事スル者	六〇三	一九、三六〇	一九、九六三
有業 農業 林業ニ從事スル者	一、二三二	四、二九一	五、五二三
有業 農業 計	一〇一、七八〇	四六、四〇〇	一四八、一八〇
有業 水産業 漁業ニ從事スル者	二九四	三、八六〇	四、一五四
有業 鑛業 採炭、採鑛、石油鑛業ニ從事スル者	三、〇四一	二三八	三、二七九
有業 鑛業 土石採取ニ從事スル者	一、六五六	一、一〇八	二、七六四
有業 鑛業 計	四、六九七	一、三四六	六、〇四三
有業 工業 窯業、土石加工ニ從事スル者	五五二	一九〇	七四二
有業 工業 金屬工業、機械器具製造、造船、運搬用具製造ニ從事スル者	三、一六五	一二六	三、二九一
有業 工業 精巧工業ニ從事スル者	三三五	八六	四二一
有業 工業 化學製品ノ製造ニ從事スル者	九八	二	一〇〇
有業 工業 紡織工業ニ從事スル者	六、九九八	四、三二八	一一、三二六
有業 工業 被服、身裝品製造ニ從事スル者	二、一七一	六二八	二、七九九
有業 工業 紙工業、印刷ニ從事スル者	八一四	四一五	一、二二九

種別	本業	副業	計
有業			
工業			
皮革、骨、羽毛品類製造ニ從事スル者	一四二	二四	一六六
木竹草蓑類ニ關スル製造ニ從事スル者	三、九七六	一、九九四	五、九七〇
製鹽、飲食料品、嗜好品製造ニ從事スル者	三、八三二	七七七	四、六〇九
土木建築ニ從事スル者	四、四〇一	一、四〇五	五、八〇六
瓦斯、電氣、水道業ニ從事スル者	八二二	三四	八五六
其ノ他ノ工業的職業	二、五九八	九九四	三、五九二
計	二九、九〇四	一一、〇〇三	四〇、九〇七
商業			
商業的職業	二八、七一六	六、六七九	三五、三九五
金融、保險ニ從事スル者	一、一三〇	五八五	一、七一五
接客業ニ從事スル者	五、六六六	一、〇七二	六、七三八
計	三五、五一二	八、三三六	四三、八四八
交通業			
運輸ニ從事スル者	五〇〇二	二、一〇〇	七、一〇二
通信ニ從事スル者	一、二一八	一八九	一、四〇七
計	六、二二〇	二、二八九	八、五〇九
公業			
官吏、公吏、履修員	六、九九五	—	六、九九五
陸海軍現役軍人	四五〇	—	四五〇

種別	本業	副業	計
有業			
自由業			
法務ニ從事スル者	二一一	一四六	三五七
教育ニ從事スル者	四、一六九	九〇	四、二五九
宗教家	一、一三七	五〇	一、一八七
醫療ニ從事スル者	一、四三四	一、四八四	二、九一八
書記的職業ニ從事スル者	四一六	九二	五〇八
記者、著述者、藝術家、遊藝家	三五七	六六	四二三
其ノ他ノ自由業	二、六七一	三八一	三、〇五二
計	一七、八四〇	八二八	一八、六六八
家事使用人	一、三三七	三八三	一、七二〇
其ノ他ノ有業者	七、一七二	七二六	七、八九八
合計	二〇四、七五六	—	二〇四、七五六
無業			
收入ニ依ル者	一、九八六	—	一、九八六
其ノ他ノ無業者	一、九三四	—	一、九三四
計	三、九二〇	—	三、九二〇
總計	二〇八、六七六	—	二〇八、六七六

【第八表】 現在人口年齡別及配偶關係別 （昭和十年國勢調査）

郡市	年齢別 十四歳以下	十五歳以上五十九歳以下	六十歳以上	配偶關係別 男 未婚	男 有配偶	男 死別及離別	男 未婚	男 有配偶	男 死別及離別	女 未婚	女 有配偶	女 死別及離別
河内郡	四九、二九一	五九、五九〇	九、四三四	三六、八七六	二一、六二三	二、〇九五	三〇、八二八	二一、六六三	五、四三〇			
上賀茂郡	六一、八五〇	七七、四三〇	一〇、九七八	四三、六三五	二八、〇五八	二、八七三	三九、八二〇	二八、二八四	七、五八八			
芳賀郡	五一、九一八	六一、五九〇	一〇、〇七二	三五、一九一	一、三、八四四	二、一三八	三二、四〇三	二四、一二五	五、八七九			
下都賀郡	七七、三一五	九一、三四二	一五、五七五	五二、三三六	三四、六一五	三、七六四	四九、六一八	三五、〇一〇	八、八八九			
鹽谷郡	三九、九四八	四九、〇二八	六、七八三	二七、二三八	一八、〇七五	一、五四〇	二五、八五九	一八、〇八七	四、九六〇			
那須郡	七八、八三〇	九一、九八九	一二、六四二	五二、三一六	三四、八四六	二、八一四	四九、五二九	三五、二一七	八、七三九			
安蘇郡	三六、〇三九	四六、八一三	七、四四〇	二四、九〇八	一七、〇三九	一、九七七	四九、一八七	一七、三二八	四、八五三			
足利郡	三一、六二一	四四、四二四	五、七七六	二二、〇四六	一四、七〇四	一、七一七	二四、七〇六	一四、七七一	三、八七七			
宇都宮市	三二、二八二	五〇、一五〇	四、六九七	二六、一一五	一五、七九四	一、三七五	二三、六三八	一五、八三一	四、三七六			
足利市	一七、五一三	二八、九九二	二、三七〇	一四、六二〇	八、三六四	六六七	一四、五九〇	八、四一二	四、九六〇			
栃木市	一二、二五七	一七、一一六	一、九六二	九、〇四七	五、七三九	五五六	八、四六六	五、九一五	五、四三〇			
計	四八八、八六四	六一八、四六四	八七、七二九	三四四、三二八	二二二、七〇一	二一、五一六	三二三、六四四	二二四、四四三	五八、四二五			
昭和五年國調	四六五、九三二	五九四、一五四	八一、六五一	三二五、六五七	二一六、三七八	二〇、八〇四	三〇五、三三五	二一八、五五〇	五三、〇一三			

三、産業

昭和十一年に於ける本縣生産總價額は二億六千六百十四萬二千七百三十六圓にして、之を前年に比較すれば五千三萬七千三百四十七圓即ち約二割三分二厘の增加なり。而して之が主因は農産物及工産物の生産增加並に價格の昂騰に因るものにして、今生産總價額を各内容に就きて見るときは工産物の一億五千五百十二萬二千二百四十三圓（五八・二九％）首位を占め、農産物の八千四百十九萬七百十四圓（三一・六三％）之に亞ぎ、以下鑛産物の千四百八十六萬百五十圓（五・五八％）林産物の八百三十九萬九千四百五十一圓（三・一六％）畜産物の三百二十一萬九千二百四十三圓（一・二一％）水産物の三十五萬八百五十五圓（〇・一三％）の順位に在り。

生産總價額

尙昭和十一年生産總價額を戸口當に依り見るときは、一戸當千二百六十一圓七十九錢、一人當二百二十圓六十五錢にして、之を前年に比較すれば前者に於て二百三圓七十五錢、後者に於て三十九圓八十二錢の增加を示せり。

生産物

【第九表】郡市別各種生産總價額（昭和十一年）

郡市	農産物	畜産物	林産物	鑛産物	水産物	工産物
河内郡	一二、〇八六、一四一円	二九七、五七四円	六〇五、八七一円	七七二、四五三円	二二、四三三円	二、四五二、〇八六円
上賀茂郡	七、一〇六、七四三	三六九、七七一	一、六七九、五四七	一二、六六一、八六七	四三、九六六	六七、二二九、五一三
芳賀郡	一二、三五一、九二三	二五三、五一八	七四六、七四四	三八、五三四	三二、〇二五	一、六五七、三二八

三、産業

郡市	年齢別 十四歳以下	十五歳以上五十九歳以下	六十歳以上	配偶關係別 男 未婚	有配偶	死別及離別	女 未婚	有配偶	死別及離別
河内都	四九、二九一	五九、五九〇	九、四三四	三六、八七六	二一、六二三	二、〇九五	三〇、八二八	二一、六六三	五、四三〇
上都	六一、八五〇	七七、四三〇	一〇、九七八	四三、六三五	二八、〇五八	二、八七三	三九、八二〇	二八、二八四	七、五八八
芳賀郡	五一、九一八	六一、五九〇	一〇、〇七二	三五、一九一	一、三、八四四	二、一三八	三二、四〇三	二四、一二五	五、八七九
下都	七七、三一五	九一、三四二	一五、五七五	五二、三三六	三四、六一五	三、七六四	四九、六一八	三五、〇一〇	八、八八九
鹽谷郡	三九、九四八	四九、〇二八	六、七八三	二七、二三八	一八、〇七五	一、五四〇	二五、八五九	一八、〇八七	四、九六〇
那須郡	七八、八三〇	九一、九八九	一二、六四二	五二、三一六	三四、八四六	二、八一四	四九、五二九	三五、二一七	八、七三九
安蘇郡	三六、〇三九	四六、八一三	七、四四〇	二四、九〇八	一七、〇三九	一、九七七	二四、一八七	一七、三二八	四、八五三
足利郡	三一、六二一	四四、四二四	五、七七六	二二、〇四六	一四、七〇四	一、七一七	二四、七〇六	一四、七七一	三、八七七
字都宮市	三二、二八二	五〇、一五〇	四、六九七	二六、一一五	一五、七九四	一、三七五	二三、六三八	一五、八三一	四、七七六
足利市	一七、五一三	二八、九九二	二、三七〇	一四、六二〇	八、三六四	六六七	一四、五九〇	八、四一二	二、二二二
栃木市	一二、二五七	一七、一一六	一、九六二	九、〇四七	五、七三九	五五六	八、四六六	五、九一五	一、六一二
計	四八八、八六四	六一八、四六四	八七、七二九	三四四、三二八	二二二、七〇一	二一、五一六	三二三、六四四	二二四、四四三	五八、四二五
昭和五年國調	四六五、九三二	五九四、一五四	八一、六五一	三二五、六五七	二一六、三七八	二〇、八〇四	三〇五、三三五	二一八、五五〇	五三、〇一三

生産總價額

昭和十一年に於ける本縣生産總價額は二億六千六百十四萬二千七百三十六圓にして、之を前年に比較すれば五千三萬七千三百四十七圓即ち約二割三分二厘の增加なり。而して之が主因は農産物及工産物の生産增加並に價格の昂騰に因るものにして、今生産總價額を各內容に就きて見るときは工産物の一億五千五百十二萬二千二百四十三圓（五八・二九％）首位を占め、農産物の八千四百十九萬七百九十四圓（三一・六三％）之に亞ぎ、以下鑛産物の千四百八十六萬百五十圓（五・五八％）林産物の八百三十九萬九千四百五十一圓（三・一六％）畜産物の三百二十一萬九千二百四十三圓（一・二一％）水産物の三十五萬八百五十五圓（〇・一三％）の順位に在り。

尙昭和十一年生産總價額を戸口當に依り見るときは、一戸當千二百六十一圓七十九錢、一人當二百二十圓六十五錢にして、之を前年に比較すれば前者に於て二百三圓七十五錢、後者に於て三十九圓八十二錢の增加を示せり。

生産物

【第九表】郡市別各種生産總價額（昭和十一年）

郡市	農産物	畜産物	林産物	鑛産物	水産物	工産物
河內都	一二、〇八六、一四一円	二九七、五七四円	六〇五、八七一円	七七二、四五三円	二二、四三三円	二、四五二、〇八六円
上都賀郡	七、一〇六、七四三	三六九、七七一	一、六七九、五四七	一二、六六一、八六七	四三、九六六	六七、二二九、五一三
芳賀郡	一二、三五一、九二三	二五三、五一八	七四六、七四四	三八、五三四	五二、〇二五	一、六五七、三二八

郡市	農産物	畜産物	林産物	鑛産物	水産物	工産物
下都賀郡	一八、〇九八、六六二円	四二九、〇八一円	五六一、五〇九円	一〇四、一六四円	四一、二六九円	一〇、七一四、〇七三円
鹽谷郡	八、七四七、九九五	一九四、四四〇	一、一二九、二三七	九六六、五一九	五三、四五一	四、九八四、一八三
安蘇郡	一五、〇七二、一八六	五六五、七二九	二、八〇八、七三一	一六五、〇六五	一二三、二七七	二、八二三、五七六
足利郡	五、一四八、一五一	二一一、〇六八	六一五、九二三	一二八、六一二	八、二七六	一三、四八八、七四〇
宇都宮市	四、三七五、〇九八	一五〇、三三九	二三一、〇八八	一五、九〇〇	四、一一四	一五、六五三、〇二五
足利市	四二〇、五二九	四〇九、七三二	一、九一七	！	一八、九七七	九、一一七、四八三
栃木市	二一一、五七二	一三八、五四一	二、四四六三	五、三六〇	一八四	二二、三四七、七三六
計	五七一、七九四	一九九、四五〇	一、六七六	一、六七六	二、八八三	四、六五四、五〇〇
前計	八四四、一九〇、七九四	三、二一九、二四三	八、三九九、四五一	一四、八六〇、一五〇	三五〇、八五五	一五五、一二二、二四三
年	六九、二九九、八九三	三、〇四四、七四七	七、一六五、一一四	一一、三一五、五二〇	三五八、七九五	一二四、九二三、三二〇

郡市	計	一世帶當	一人當	前年 總額	前年 一世帶當	前年 一人當
河內郡	一六、二三六、五五八円	八六九・七一円	一三六・四四円	一三、三〇六、一四一円	七三二・九六円	一一二・四六円
上都賀郡	八九、〇九一、四〇七	三、二一六・〇六	五八八・四五	六〇、五一五、七三四	二、二四五・四八	四〇二・七五
芳賀郡	一五、〇八〇、〇七二	六九二・五一	一二一・〇三	一三、一二二、二四二	六二二・七三	一五六・一八
下都賀郡	二九、九四八、七五八	九七三・一五	一六一・八〇	二五、四六三、四二八	八一五・三二	一三七・五五
鹽谷郡	一六、〇七五、八二五	九六八・四二	一六六・〇七	一三、七五〇、三一九	八五六・二九	一四三・五九
那須郡	二一、三五八、五六四	六七七・二八	一一六・二二	一八、四一六、五五三	五九六・三三	一〇〇・三八
安蘇郡	一九、六〇〇、七七〇	一、一五五・二三	二一六・五八	二一、九八〇、三三七	一、〇〇九・二三	一八八・〇六
足利郡	二〇、四二九、五六四	一、四一四・五九	二四四・三七	一七、五〇七、五〇三	一、二八九・四〇	二一・三・九七
宇都宮市	九、九六八、六三八	五八〇・〇一	一一二・九〇	一一、七九六、九七八	七二〇・四七	一三五・四〇
足利市	二二、七〇五、八五六	二、五四七・七九	四五五・〇三	二一、二八八、四八一	二、六一四・六五	四三五・五七
栃木市	五、四四六、七二四	八九八・三五	一七二・九一	三、九五七、六七三	六四八・四八	一二六・三〇
計	二六六、一四二、七三六	一、二六一・七九	二二〇・六五	二一六、一〇五、三八九	一、〇〇九・二三	一、〇五八・〇四
前計	二一六、一〇五、三八九	一、〇五八・〇四	一八〇・八三	―	―	―
年						

【第一〇表】 生産價額ヨリ見タル市町村順位 （昭和十一年）

順位	市町村名	生産價額	順位	市町村名	生産價額	順位	市町村名	生産價額	順位	市町村名	生産價額
一	日光町	五七、四五〇、〇五四円	四五	荒川村	九〇六、〇〇七円	八九	家中村	六七〇、九三九円	一三三	兩郷村	五一二、四三〇円
二	足利市	二二、七〇五、八五六	四六	物部村	九〇二、一四七	九〇	上三川町	六六三、七五三	一三四	本郷村	五〇七、四一六
三	足尾町	一二、七二三、八四四	四七	親園村	八八八、〇三六	九一	吹上村	六六〇、九七九	一三五	田原村	五〇三、〇三四
四	宇都宮市	九、九六八、六三八	四八	大谷村	八八三、四九〇	九二	三重村	六五八、〇五五	一三六	東大芦村	五〇〇、六五〇
五	鹿沼町	九、〇〇九、〇九九	四九	羽黒村	八八〇、一〇七	九三	委川村	六五四、四九三	一三七	三鴨村	五〇〇、一一二
六	佐野町	七、一七四、二二七	五〇	市羽村	八七六、九三九	九四	狩野村	六五三、四六一	一三八	東那須野村	四九二、六四〇
七	小山町	六、八二三、四九四	五一	大内村（芳）	八六七、八四一	九五	赤津村	六五三、四二六	一三九	烏山町	四八七、二五六
八	栃木市	五、四四七、一九三	五二	泉村	八六六、一一六	九六	大宮村（下）	六四五、三四二	一四〇	粟野町	四八五、六〇六
九	藤原町	三、九三四、七三九	五三	北犬飼村	八六三、六九一	九七	國本村	六四四、九九九	一四一	富田村	四八〇、五〇八
一〇	山邊町	三、八八四、八五一	五四	西方村	八五八、二七八	九八	高林村	六四三、八五一	一四二	部屋村	四七〇、八九七
一一	葛生町	三、〇五八、三二七	五五	久下田町	八五四、九四〇	九九	旗川村	六四一、五七九	一四三	向田村	四六九、五〇三
一二	小俣町	三、〇一七、七二八	五六	南押原村	八五四、〇二六	一〇〇	小野寺村	六四〇、八八四	一四四	箒根村	四六三、九一六
一三	三和村	三、〇〇八、二三六	五七	桑村	八五三、八九八	一〇一	藥師寺村	六四〇、二五三	一四五	界村	四六〇、七一六
一四	山前村（足）	二、九一二、九九三	五八	横川村	八五〇、〇九〇	一〇二	瑞穂野村	六二八、三四九	一四六	南摩村	四五一、九一五
一五	田沼町	二、〇九三、三二三	五九	間々田町	八四八、三一八	一〇三	寺尾村	六二五、一三六	一四七	芦野町	四五〇、〇三三
一六	植野村	一、八九五、七四八	六〇	祖母井町	八四四、〇六〇	一〇四	豊岡村	六二二、二六〇	一四八	赤麻村	四二一、〇九九
一七	野木村	一、八七六、〇七三	六一	大田原町	八三八、八三二	一〇五	北押原村	六一七、一〇八	一四九	堀米町	四二一、〇九九
一八	古里村	一、六六七、四六四	六二	喜連川町	八三五、五五二	一〇六	犬伏町	六一二、二六七	一五〇	大内村（那）	四一九、七九一
一九	北高根澤村	一、五〇六、四一四	六三	南犬飼村	八三五、〇四七	一〇七	雀宮村	六一〇、八二三	一五一	加蘇村	四一八、八二〇
二〇	金田村	一、五〇四、二七三	六四	國分寺村	八二七、四九七	一〇八	中村（下）	六〇六、三六一	一五二	鎬掛村	四一七、一四一
二一	平石村	一、五〇四、四三五	六五	大宮村（鹽）	八二一、四七五	一〇九	七井村	六〇二、六一四	一五三	清州村	四一〇、七八一
二二	氏家町	一、四二五、〇四七	六六	眞岡町	八一三、〇〇八	一一〇	西那須野町	五九四、三七二	一五四	吾妻村	四〇八、五六三
二三	赤見村	一、三三〇、一三一	六七	菊澤村	八〇八、四一九	一一一	野崎村	五九四、一八一	一五五	生井村	四〇六、九九六
二四	那須村	一、二九一、六九三	六八	南高根澤村	八〇五、四二九	一一二	伊王野村	五八四、四二四	一五六	富屋村	四〇四、一一〇
二五	船生村	一、二五九、七七〇	六九	委村	七九八、九二〇	一一三	長沼村	五八四、三九三	一五七	飛駒村	三七九、八二九
二六	今市町	一、二四一、八一二	七〇	水橋村	七九三、〇二一	一一四	逆川村	五七六、三七六	一五八	武茂村	三六八、五三七
二七	御厨町	一、一五〇、〇九九	七一	中村（芳）	七八四、四〇三	一一五	靜和村	五六五、八七四	一五九	久野村	三四六、二八九
二八	城山村	一、一三三、四七〇	七二	落合村	七六二、一二七	一一六	岩舟村	五六五、七五〇	一六〇	新合村	三四四、九六〇
二九	藤岡町	一、一一四、四五四	七三	清原村	七四〇、四五三	一一七	皆川村	五六四、二五七	一六一	常盤村	三四四、一四三
三〇	絹村	一、〇八五、八六三	七四	稻葉村	七三五、九四〇	一一八	吉田村	五六三、一〇二	一六二	三好村	三四一、八九七
三一	阿久津村	一、〇六四、六一七	七五	黒羽町	七三一、七二八	一一九	富山村	五五八、八九三	一六三	西大芦村	三三八、一四七
三二	熟田村	一、〇五三、一七六	七六	國府村	七二四、〇二一	一二〇	穂積村	五五二、三九二	一六四	粕尾村	三三一、七一一
三三	湯津上村	一、〇二四、五六〇	七七	上江川村	七一三、六五七	一二一	瑞穂村	五四七、八一八	一六五	石橋町	三二八、八六〇
三四	那珂村	一、〇一八、二四二	七八	明治村	七〇九、二〇四	一二二	筑波村	五四四、四五二	一六六	寒川村	三二一、六七〇
三五	毛野村	一、〇一〇、六二四	七九	篠井村	七〇六、五四七	一二三	黒磯町	五四二、四七七	一六七	板荷村	三〇四、一五五
三六	豊田村	一、〇〇五、五一六	八〇	片岡村	六九五、五〇五	一二四	川西町	五三八、八六九	一六八	名草村	三〇〇、六四五
三七	下江川村	一、〇〇〇、七〇五	八一	小貝村	六九三、五一六	一二五	水代村	五三六、七六六	一六九	栗山村	二九九、五七六
三八	豊郷村	九六一、七七九	八二	大澤村	六九一、八八五	一二六	田野村	五三四、一九四	一七〇	永野村	二九五、八二二
三九	北郷村	九五七、六三三	八三	茂木町	六九一、四七八	一二七	須賀川村	五三〇、三七〇	一七一	梁田村	二八四、三六七
四〇	山前村（芳）	九五四、九一〇	八四	七合村	六八九、八一三	一二八	大山田村	五二八、八〇四	一七二	野上村	二六七、九四五
四一	葉鹿町	九四〇、一六三	八五	中川村	六八八、三五二	一二九	須藤村	五二四、四九〇	一七三	氷室村	二三四、五一九
四二	益子町	九三九、九一一	八六	絹島村	六八五、一七七	一三〇	菱村	五二四、三五八	一七四	鹽原町	二〇〇、七八二
四三	馬頭町	九二四、六三四	八七	壬生町	六八三、八七三	一三一	佐久山町	五二〇、八七九	一七五	三依村	一九五、五四五
四四	矢板町	九一二、三五三	八八	境村	六七五、〇五五	一三二	玉生村	五一九、八七一	一七六	小來川村	一六一、〇三五
										眞名子村	

農業

本縣下昭和十一年末現在耕地總面積は、十四萬四千八百九十二町一段内田七萬八千三百三十三町六段（二毛作田四萬千百二十一町六段）畑六萬六千五百五十七町五段にして、昭和十一年中に於ける農產物總價額は八千四百十九萬七百九十四圓なり。

米　米は本縣農產物中の首位を占め、作付段別九萬三千四百五十九町六段に及び、收穫高百六十二萬八千二百五十三石を算す。而して之が價額は四千四百五十六萬二千三百三十九圓なり。硬質にして貯藏に適し、野州米なる銘柄を以て年々縣外に移出するもの五十餘萬石に達し、之が仕向地は東京・横濱の兩市場を始め二十餘府縣に及ぶ。

麥　麥は本縣に於て米に亞ぐ重要農產物なるが、昭和十一年の作付段別六萬千二百六十四町六段、收穫高百二萬二千三百五十七石、價額千五百六十七萬三百四圓を示し、全國中の順位大麥は第三位、小麥は第六位に在り、尙麥酒麥は第一位を占む。

葉煙草　作付段別及收穫高に於て常に全國の首位或は第二位に在りて米麥に亞ぐ重要農產物なり。主產地は那須及芳賀の兩郡にして、鹽谷郡之に接踵す。種類は主に達磨種にして包皮料又は緩和料に適す。又近年松川種及米國種の栽培をもなすに至れり。昭和十一年に於ける收穫高は千十九萬四千七百二十八瓩、賠償金は五百五十七萬三千三百四十五圓なり。

大麻　大麻は本縣に於ける重要農產物の一にして、昭和十二年の收穫高製麻四十三萬四千三貫、皮麻二十五萬六千三百七十三貫、總價額二百二十一萬九千三百二十八圓に達す。古來本縣の製麻は其の品質並に生產高全國に

93659.61

冠絶し、軍需品を始め漁具用・製網用・下駄緒の蒐繩の需要尠からず。主産地は上都賀・下都賀・安蘇・河内の四郡にして、之が仕向地は東京・大阪・愛知・富山・石川等の各府縣其の他に及び皮麻は疊竪糸として廣島・岡山・兵庫・島根地方に移出せらる。

扁蒲　扁蒲（千瓢）は本縣重要特産物の一にして、瓢顆は圓形又は扁圓形のものを栽培するもの多く、下都賀・河内・上都賀及芳賀の四郡を主産地とす。販路は東京及大阪地方なるが同地方を經て各地に移出せらるゝもの亦尠からず。昭和十一年に於ける收穫高は九十九萬千四百八十五貫、價額は百七十二萬四千二百八十五圓にして品質産額共に全國中の首位に在り。本縣の扁蒲の栽培は今を去る二百十餘年前、江州より瓢種を需め來り、壬生領内に試作したるに起ると傳へらる。

養蠶　本縣の養蠶業は縣の奬勵と當業者の熱誠とに依り長足の進歩を見るに至り、昭和十一年の收穫高は九十七萬六千六百九十五貫、價額四百三十二萬三千二百七十七圓を示せり。主産地は下都賀・那須・足利・安蘇・河内の五郡に跨る。

其の他農産物にして昭和十一年の生産額五十萬圓を超へたるものは大豆・サツマイモ・ジヤガイモ・サトイモ・ツケナ・生大根・綠肥用作物等なり。

【第一一表】　米作付段別及收穫高　（昭和十一年）

郡市	作付段別					收穫高					一段歩當收穫高
	粳米	糯米	陸米	計		粳米	糯米	陸米	計		
	町反	町反	町反	町反		石	石	石	石		合
河内郡	一二、一八〇・〇	四五一・三	二、五九四・八	一五、二二六・一		二三〇、四九二	七、〇八一	二九、八四三	二六七、四一六		一、七五六
上都賀郡	五、〇五九・二	二七一・八	一、〇〇〇・四	六、三三一・四		九八、一六一	四、四二一	一二、〇四〇	一一四、六二二		一、八一〇
芳賀郡	一一、八九六・九	四六〇・〇	三、一六二・二	一五、五一九・一		二一九、三六四	七、七九四	三四、八一七	二六一、九七五		一、六八八
下都賀郡	一二、七七五・二	六八七・五	四、七一八・四	一八、一八一・一		二三六、九一九	一二、一〇四	六〇、四九九	三〇九、五二二		一、七〇二
那須郡	一〇、六九五・二	五四三・五	一、三三六・四	一二、五七五・一		二〇五、六四三	八、七四一	一二、九九八	二二七、三八二		一、八〇八
安蘇郡	一一、四九二・四	六六七・一	四、三六九・三	一六、五二八・八		二一一、六八四	一〇、三五八	四〇、九八六	二六三、〇二八		一、五九一
足利郡	三、〇〇七・六	一四二・四	八〇八・六	三、九五八・六		六四、八九七	二、八三八	一、五七二	七九、三〇七		二、〇〇三
宇都宮郡	三、四九三・九	二四六・二	一九六・六	三、九三六・七		七三、六七五	五、〇二八	二、九四〇	八一、六四三		二、〇七四
足利郡	三〇二・二	六・八	一一八・八	四二七・八		六、〇二一	一一七	一、八三〇	七、九六八		一、八六三
栃木郡	一七三・六	一二・九	七・三	一九三・八		三、六四〇	二六三	九五	三、九九八		二、〇六五
前計	五三三・九	二八・八	一八・四	五八一・一		一〇、五八六	五五二	二五四	一一、二九二		一、九六〇
年計	七一、六一〇・一	三、五一八・三	一八、三三一・二	九三、四五九・六		一、三六一、〇八二	五九、二九七	二〇七、八七四	一、六二八、二五三		一、七四二
年計	七一、三六七・六	三、三四九・〇	一七、八六九・六	九二、五八六・二		一、〇七二、七三八	四一、七八〇	一五三、九一〇	一、二六八、四二八		一、三七〇

【第一二表】 麥作付段別及收穫高 （昭和十一年）

郡市	作付段別 大麥	作付段別 稞麥	作付段別 小麥	作付段別 燕麥	作付段別 計	收穫高 大麥	收穫高 稞麥	收穫高 小麥	收穫高 燕麥	收穫高 計	一段歩當收穫高
	町反	町反	町反	町反	町反	石	石	石	石	石	合
河内都	三、七三四・五	六四・一	五、四五一・七	八・七	九、二五九・〇	八〇、五六七	一、〇六一	六五、三〇〇	—	一四六、九二八	一、五八七
上賀茂都	一、九六九・六	八八・九	二、四八七・一	—	四、五四五・六	四二、三四〇	一、五〇一	三三、一六四	—	七七、〇〇五	一、六九四
下賀茂都	三、一五〇・六	二六四・八	五、八四九・四	〇・七	九、二六五・五	六三、六六四	三、六九六	七三、三六六	一四	一四〇、七四〇	一、五一九
鹽谷都	七、八五六・四	六七・三	六、二〇〇・五	—	一四、一二四・二	二〇五、八一八	一、二七五	九五、七一五	—	三〇二、八〇八	二、一四四
那須郡	一、一四八・八	二九・八	二、七〇六・九	—	三、八八五・五	一八、五一九	四六四	二八、七一九	—	四七、七〇二	一、二二八
安蘇郡	三、六六三・二	九七・八	八、〇一八・一	〇・一	一一、七七九・二	五六、二〇七	一、二〇一	八一、六八〇	二	一三九、〇九〇	二、〇九七
足利郡	一、九八二・二	八・一	二、一四七・八	—	四、一三八・一	五一、六三七	一五七	三四、九六五	—	八六、七五九	二、〇四八
字都宮	九三六・六	一・六	二、四二四・八	—	三、三六二・〇	二二三、一六六	三四	三七、一二一	—	六〇、三二一	一、七九四
足利郡	一六三・六	〇・二	一一二・六	—	二七六・四	四、一五四	四	一、五〇二	—	五、六六〇	二、〇四八
栃木郡	六一・八	〇・三	一四五・四	—	二〇五・五	二、五九二	六	二、三二七	—	三、九二五	一、九一〇
計	二九七・〇	三・〇	一二二・六	—	四二二・六	八、九三二	五七	二、四三〇	—	一一、四一九	二、七〇二
前年計	二四、九六四・三	六二五・九	三五、四五一・九	九・五	六一、二六四・六	五六、五九六	九、四五六	四五六、二八九	一六	一、〇二二、三五七	一、六六九
	二四、七四九・一	五七四・二	三六、六七八・〇	六・八	六二、〇〇八・一	五九三、九六九	八、九七五	四九六、八五三	一五八	一、〇九九、九五五	一、七七四

【第一三表】 主要産物價額 （昭和十一年）

郡市	米	水稻	陸稻	麥	葉煙草	繭	干瓢
	円	円	円	円	円	円	円
河内都	六、六一三、四四三	七三八、二三八		二、二三五、二〇七	一四七、二四一	二四九、一一九	六三八、六〇八
上賀茂都	二、八三四、九〇四	二九七、三七六		一、一七九、五四三	三五一七四	二四三、七九四	一三五、六七七
下賀茂都	六、二五四、二七〇	八五五、六七五		二、二六〇、〇八二	一、五四五、四〇八	一六五、六〇七	一三一、四四三
鹽谷都	六、九三二、六〇八	一、五〇五、一九六		四、二一六、九一五	九五、九六九	一、四二〇、四三七	七八三、三九三
那須郡	五、九七〇、九六六	三二〇、二四六		八一一、八五九	三七六、一〇〇	二〇六、四二九	一一、二〇〇
安蘇郡	六、一三六、八二二	一、〇一四、二六二		二、三一六、九二二	三、一九三、八九〇	六四一、九六一	二〇、七四四
足利郡	二、二〇一、三四五	二八九、四二八		一、三〇九、八七三	一七一、六九七	七〇三、六九七	—
字都宮	一七一、九二三	七二、〇一〇		一、〇四〇、七七九	七、〇九七	六八一、〇四七	三七四
足利郡	一〇九、四一六	四六、四三六		七七、一八一	—	五、一八五	—
栃木郡	三〇七、〇一三	二、三六〇		六九、五七三	七六九	五、六二七	—
計	三九、四一三、七八八	五、一四八、五五一	二、二三五、二〇七	一五、六〇、三〇四	一四七、二四一	四、三二三、二七七	一、七二四、二八五
前年計	三〇、六二六、一六九	四、一三六、一五五	一二、五〇二、四五八	一五、六二、一五八	五、四六五、三四〇	三、四七九、七九四	一、九四一、〇四三

【第一圖表】農産物細別（昭和十一年）

種別	作付段別	數量	價額	主要生産地
米	九三、四五九・六町反	一、六二八、二五三石	四四、五六二、三三九円	北高根澤、金田、熟田、阿久津、氏家
麥	六一、二六四・六	一、〇二二、三五七	一五、六七〇、三〇四	田沼、南犬飼、大谷、金田、野木
大豆	四、三二四・一	三四、八九〇	五九八、六三五	豊田、田沼、矢板、間々田、鹽原
小豆	二、一六九・八	一二、六八六	二六四、八五二	吹上、南犬飼、寺尾、小貝、國府
インゲンマメ	一四三・二	一、二四二	二四、〇五七	水橋、那須、麥、上江川、栃木
エンドウ	九・一	九〇九	一三、五四一	北郷、麥、犬伏、宇都宮、豊田
ソラマメ	一四二・一	一、七三五	二三、七一六	絹、豊田、犬伏、田沼、大谷
落花生	二三一・八	六六〇、五二二	六七、三九五	清原、中（芳）、大内（芳）、水橋、眞岡
アワ	六三三・八	七、九五六	八六、五七一	間々田、野木、大谷、赤麻、三鴨
ヒエ	一、四四〇・八	一八、六五九	一四二、一八五	高林、那須、東那須野、鹽原、黒磯
ソバ	二、九二三・三	二三、二七八	二七八、五四一	營盤、國府、境、菊澤、東那須野
トウモロコシ	九四三・七	一二、一五八	一一四、〇八五	高林、西那須野、豊田、國分寺、逆川
サツマイモ	四、二六四・二	一二、八八〇、三六六	一、二六二、六九四	野木、間々田、大谷、北犬飼、犬伏
ジャガイモ	二、一五七・〇	六、五三五、三二五	五九八、八四五	栃木、金田、大田原、北郷、田沼
コンニャクイモ	七五・七	一三九、一五九	七〇、五八〇	須賀川、粟野、須藤、馬頭、日光

キビ	三〇・四	二六五	二、八八八	吹上、栗山、寺尾
甘藷	三、一九四・七	九九一、四八五	一、七二四、二八五	南犬飼、麥、國分寺、明治、北犬飼
ハナユリ	一七・五	六六一、五〇五	三四、一二二	三好、田沼、野上、赤見、新合
ナタネ	二一〇・七	二、三九五	四六、二一五	大谷、物部、小野寺、南高根澤、北高根澤
棉	五・七	一、三七八	一、六〇二	中（下）、穗積、犬伏、植野、部屋
實麻	三、一四二・七	四三四、〇〇三	一、七〇二、八一六	菊澤、北押原、南押原、東大芦、赤津
麻皮		二五六、三七三	五一六、五一二	皆川、吹上、家中、稻葉、西方
麻	九三・三	一三、九八八	二三、七七四	北犬飼、野崎、城山、南押原、南摩
苧麻	一六・一	五、二九五	五一八九	馬頭、中川、武茂、境、須藤
楮	一三・八	二二、八二二	六、八七九	小野寺
藺				野木、北犬飼、菊澤、東那須野、南押原
サトイモ	三、六五一・九	一三、〇一〇、六三一	一、三四九、三四二	横川、野木、宇都宮、矢板、大谷
ツケナ	一、七九三・九	七、八三〇、五五七	七一八、二一九	宇都宮、那須、今市、大澤、大田原
キヤベージ	一〇一・六	四〇六、八三五	三八、二六七	野木、水橋、犬伏、足尾、横川
生大根	一、八九二・〇	一一、四二四、六一二	六五四、一三三	矢板、那須、宇都宮、鍋掛、中（芳）
カブラ	二八・四	一〇〇、八三〇	八、七〇八	岩舟、犬伏、國本、高林、豊郷
ニンジン	三七一・八	一、〇五七、九三四	一三二、九六四	國本、矢板、吹上、田沼、菊澤
ネギ	六二八・七	一、八四二、〇七一	二四一、二一七	矢板、中（芳）、眞岡、荒川、佐久山
タマネギ	四三・一	二二九、〇一八	二一、六二八	稻葉、野木、家中、桑、國本
ゴボウ	四八八・九	一、五六二、一五四	二三六、六〇〇	

種類	作付段別	數量	價額	主要生産地
レンコン	二、八町反	六、二二〇貫	二、三三三円	北郷、足利、名草、植野、逆川
キウリ	六三〇・二	二、四一七、三七七	二四二、五五四	大澤、犬伏、篠井、豊郷、宇都宮
シロウリ	一四・三	四六、六八五	六、二八二	大谷、界、眞岡、矢板、上江川
カボチヤ	三三〇・四	一、一五六、八〇四	一三〇、七四三	野木、委、委川、大谷、國分寺
イカ	二八八・五	一、三七五、一三七	一六八、七五三	大谷、北犬飼、野木、桑、間々田
スクワリ	五・六	一二、八三〇	一、六八七	界、矢板、上江川、委
マクワウリ	九七六・〇	三、五四九、〇〇二	三六八、三〇三	宇都宮、横川、大澤、犬伏、南押原
ナス	一九三・四	一、三七一	三六、二〇七	犬伏、大谷、桑、壬生、寺尾
ゴマ	六一四・七	七九、八四七	一四二、六一六	南押原、北押原、菊澤、家中、西方
黍	二一七・七	七一〇、三一二	八八、六八二	大宮(鹽)、犬伏、北犬飼、北押原、氏家
蕎麥	一二八・七	三五七、五一二	一一八、二八二	名草、稻葉、北郷、野木、田沼
生姜	一三二・〇	三一四、一六二	四九、二八一	靜和、馬頭、田沼、粟野、家中
蘿蔔	一	九、〇〇五	一四〇、九八六	那須、大田原、高林、上江川、南押原
果 梅	一	九九、一五五	三四、三五五	中(芳)、氏家、平石、本郷、大田原
桃	一	四三四、〇九二	一二二、六四八	吾妻、南高根澤、小山、平石、間々田
梨	一	五八〇、六八八	一一二、六五二	今市、南摩、大田原、稻葉、上江川
生柿	一	一一、四六五	六、八九三	今市、黑羽、大澤、馬頭、常盤
乾柿	一	一三七、七五六	三二、五五〇	富山、岩舟、豊田、祖母井、大田原
果 ブドウ	一	六、二二〇貫	二、三三三円	氏家、大田原、菊澤
實 ピワ	一	一、二四九	八四七	瑞穗、穗積、中(下)、寒川、栃木
ミカン	一	一、八〇五	五三一	境、中川、七合、馬頭、金田
其ノ他	一	一、一九四、七二八	三、四一一	絹、植野、吾妻、野木、旗川
葉煙草	四、九四三・九瓦	四九四、二七四貫	五、五七三、三四五	絹、野木、植野、西那須野、那須
春蠶	八二七、四八四	四八二、四二一瓦	二、二九一、六八四	二、〇三一、五九三
夏蠶	八九五、二七〇	六七九、七五五枚	七三、三五一	製造戸數　二十四戸
秋蠶	;	七三五貫	一、一六七	昭和十一年末現在耕地總面積 田 七八、三三三・六町反
種 普通蠶	一	五九、三三三、三一八貫	九〇九、二二三	畑 六六、五五七・五
種 原蠶	一	一九、〇三二・一	一四〇、二〇三	計 一四四、八九一・一
緣肥用作物	一	一七、三五六、九一〇本	一一五、九三二	
苗木	一	;	八四、一九〇、七九四	
ノ他	一	八	六九、二九九、八九三	
其	一			
計	一			
前年	一			

畜産業

本縣の畜産は産馬を以て第一とす。那須の大原野は良草豊富にして産馬に適し、舊藩時代より馬政を布きて之が奬勵に努め、古來那須駒の名を以て知らる。昭和十一年に於ける馬現在頭數は五萬五百七十一頭、年内生産頭數は二千四十七頭なり。

其の他本縣の畜産には牛・緬羊・山羊・豚・鷄・鶩・蜜蜂・家兎等あり。執れも優良種の選擇と飼育方法の改善に依り逐年改良増加を示し、是等の生産額合計昭和十一年に於て三百二十一萬九千二百四十三圓を示せり。

縣種畜場は河内郡薬師寺村に在り用地面積九十五町九段餘にして種牛の貸付並に配付、種馬の種付並に候補種牡馬の預託育成・種緬羊・種豚・種蜂・種鷄・種卵の配付、ホームスパンの製織、種鷄の能力檢定、飼料作物の栽培並に試驗等の各種事業を行ひつゝあり、尚ほ昭和九年度より場内に役馬利用指導者養成所を設け毎年三十名の練習生を採用しつゝあり。

昭和十一年度より那須郡狩野村に農林省栃木種馬所設立せらる、用地面積二百餘町歩、常時多數の種牡馬を繫養して關東各府縣に派遣種付を行ひ、其の他種牡馬の貸付並馬産各般の指導奬勵に當る。

【第一五表】　畜産物細別（昭和十一年）

種別	飼養戸數（年末現在）	生産數量	生産額	主要生産地
牛	五、三四七	一、三〇六頭	六七、八八五円	大谷、植野、藤岡、國分寺、間々田
馬	四五、四四九	二、〇四七	一五九、八九四	那須、高林、箒根、東那須野、泉
緬羊	六五八	三三六	六、八六〇	粟野、薬師寺、新合、黒磯、馬頭
山羊	五〇四	一三四	七三四	絹、新合、鍋掛、西那須野
兎	—	五〇、九八七	三〇、六五一	

種別	飼養戸數（年末現在）	生産數量	生産額	主要生産地
牛	一四	一、三四〇頭	一八〇、五六四	年末現在飼養頭數
馬	七五、二八四	六六、五九三	九五、八八二	牛
緬羊	二八、七三七	一、八四五	六八〇、四五三	馬
山羊	一二	一二五	一六〇	豚
屠場	三五四、〇三一	八、八七二石	二六	緬羊
牛	二	二四頭		山羊
馬	一二	一四頭	七、〇二一	屠場
豚	七九	三四〇、一二四	五〇、五七一	字都宮、足利、鹿沼、足尾、今市、眞岡、栃木、矢板、烏山、茂木、西那須野、黑磯、堀米、小山
緬羊	五	六六、九六五	二四、四九七	
山羊	二四	六〇、八二八貫	一、四二一	
家鷄	一	卵	七八九	
山羊乳	搾乳場數 一二五	搾乳量 三四〇、一二四	二九四、九九七	六月末日現在飼養頭數
家禽	五二七	雛 八二五羽	七、二七二	鷄 雄 三五五、七二九
鷄	三六七	卵 一、九五五個	九三、九八三	雌 五七、五二二
鷄	一	雛 一、二五四	一、五一八、七九五	鶩 雄 一、五〇七
鶩	一	卵	三二〇	雌 五二〇
蜂	一		七、一〇八	成
蜂	一		八、九一〇	宇都宮、泉、西方、大内（芳）、足利
他	一		八四、七四九	
計	一		三、二一九、二四三	
前年	一		三、〇四四、七四七	

林業

本縣下の林野面積は全土の七割餘を占め面積約四十萬六千餘町歩に達す。大部分私有林に屬し御料林は日光方面に多く國有林は縣の北西部一帶を占む。

縣内林産物の主なるものは木材及木炭にして、昭和十一年に於て前者は二百三十六萬六千九百四十八圓、後者は三百二十六萬九千五百七十八圓を産せり。河川沿岸に叢生せる竹材亦良質にして産額尠からず、生産價額五萬九千七百七圓を算す。椎茸・松茸・ナメコ・山葵・漆樹の産額も縣の奬勵に依り逐年增加しつゝあり。

【第一六表】　林産物細別　（昭和十一年）

種別	數量	價額	備考
用材	八二二、二二石	二、三六六、九四八円	伐採面積
薪炭材	二三五、九二〇棚	一、三六六、一四〇	用材 一、四三八・八町
竹材	一五四、五二一束	五九、七〇七	薪炭材 五、二一七・七
造林用苗木	七、六一〇、八九本	一三四、四五〇	竹材 二一八・五
造林用苗木	一七、七六五、八五九	三、二六九、五七八	苗圃面積 二〇七、一五二坪
造林用苗木	一、七六三、四八三坪	七九、六一七	民有々租地山林面積 一八一、九三一・〇町
杉皮	二、五五〇石	七〇、七七五	上都賀郡、那須郡、安蘇郡
栗	三、五五三貫	四七〇、一六九	下都賀郡、那須郡、上都賀郡
柴	八、三九九、四五一	五八二、〇六七	那須郡、下都賀郡、河内郡
ノ他	七、一六五、一一四		
前計			
年			

鑛業

本縣東北西の三面に山岳重疊し、特に西北は鑛脈に富み、昭和十一年に於ける産額は千四百八十六萬百五十圓に達す。其の産出物には金・銀・銅・蒼鉛・亞砒酸・滿俺・硫黄・石材等あり。銅の大部分は足尾銅山の採掘にかゝるものなるが、同銅山は上都賀郡足尾町に在り慶長十五年同町農民の發見に係る。幕府の直轄山たること二百有餘年、明治初年の頃一時日光縣の所轄となり、同四年民業に移り、同十年古河現鑛業權者の事業に歸したり。

縣下に産出する石材の昭和十一年に於ける産額は五十三萬三千六百四十三圓にして凝灰岩の五十萬七千九百三十五圓（九五・一八％）を主とし、其の他花崗岩・安山岩・砂岩等を産出す。凝灰岩中宇都宮市の近郊河内郡城山村に産出するものは古來大谷石と稱し耐火耐壓の兩性と工作の容易なるとを以て著はる。

【第一七表】　鑛産物細別　（昭和十一年）

種別	數量	價額	主要生産地
金	二二七、七一三瓦	七八七、八八七円	足尾

種別	數量	價格	主要生産地
銀			
硫黄	一六、四五五、八九八 瓩	八五六、三六五 円	足尾
砒酸	一、〇〇五	六三、七九八	那須
亞鉛	一、一五二、六五九	一五四、〇二四	足尾
蒼鉛	三〇、六二三	二〇二、一二	同
金鑛	八七八	三〇、九四四	同
金銀鑛	七、七九六	三六八、五〇二	同
金銀銅鑛	一九、三〇九	七七四、一一六	同
石材土石及鑛水	一	九一七、〇六一	城山、田沼、岩舟、葛生、日光
其ノ他	一	一〇、七〇五、三三四	
計	一	一四、八六〇、一五〇	
前年	一	一一、三一三、五二〇	

主要生産地		
花崗岩	五、一九二	円
安山岩	二、六九八	
凝灰岩及石灰岩	五〇七、九三五	
砂岩	一七、八一八	
計	五三三、六四三	

水産業

本縣は海に面せざるを以て鹹水魚の生産なしと雖、大小の河川縱横に奔馳し其の延長三百八十餘里、水面積約一萬五千町歩に達す。各河川共に其の沿岸概ね農耕地なるを以て天然飼料に富み魚類の成長に適し、野州香魚として其の名廣く世に知らるゝ鮎を首めとして、鰻・鯉・鱒・鮭其の他淡水魚類の生産尠からず。

昭和十一年末現在水産業者數は五千二百三十三人、内業主五千九人、被傭者二百五十四人にして、業主を各業種に依り見るときは漁撈四千四百十人内女子二人、養殖五百七十三人内女子七人、製造二十六人（總て男子）なり。尙同年末現在漁船數三百五十六隻にして同年中の生産總價額は三十五萬八百五十五圓を示せり。

養殖業に於ては灌漑用の外に用途なき溜池の利用其の他に依り、鯉・鰻・鱒・鮎等の養殖をなす者逐年增加し昭和十一年末現在場數六百一、面積四百十萬千六百六十五坪を有す。

尙本縣に於ては昭和十一年那須郡黑磯町に水産指導所を設け、魚族の增殖に關する試驗及調査、魚卵及魚苗の配付、水産物の加工指導に關する研究及調査、其の他水産業に對する諸般の指導奬勵に努めつゝあり。

【第一八表】 水産物細別 （昭和十一年）

種別	數量	價額	主要生産地	備考
鮭類	七、一六四 貫	九、一一〇 円	須藤、烏山、中川	
鱒類	九、四一九	三三、二九五	日光、鹽原、黑磯	
鮎類	二九、〇四八	一二五、五七七	馬頭、烏山、須藤、那珂	
鯉類	一八、五四八	三八、三三三	宇都宮、玉生、間々田	
鰻類	一六、三八〇	五〇、八三一	宇都宮、那珂、七合	
藻類	四、五五五	五八〇	日光	
養殖場數				年末現在
同 面積				四、一〇一、六六五坪
漁船數				六〇一隻 三五六隻

種別	數量	價額	主要生産地	備考
其ノ他				
前年計				
	一	九三、一二九円	水産業者（業主）	四、四一〇人
	一	三五〇、八五五	漁撈	五七三
	一	三五八、七九五	養殖	二六
			製造	

工業

本縣の工産品は其の種類多く年産百萬圓以上のものゝみにても織物・精練金屬類其の他十三種に及ぶ昭和十一年末現在職工十人以上使用工場數四百二十二、其の所屬職工一萬七千七百九十七人、内男八千百四十六人、女九千六百五十一人、十六歳未滿二千二百十四人、十六歳以上一萬五千五百八十三人を算す。

精練金屬類　本縣工産物の首位に在る精練金屬類は主として上都賀郡日光町に於ける日光電氣精銅所の特産にして足尾銅山より原料を搬入す。銅線・眞鍮條竿其の他を合し年産額五千六百七十三萬千三百六十二圓に達す。

絹織物　絹織物は交織物を合して三千二百五十二萬四千三十一圓に上ぼり足利市を主産地とす。輸出向及内地向の二種あり、前者にはタフタ・琥珀・甲斐絹・繻子・縮緬・紋壁織・富士絹・羽二重・綾織・クレップ・スパンクレープ等・後者には本銘仙・箪台絣・米琉絣・御召其の他數十種あり。就中模樣銘仙は品質の優良・感觸の温雅・意匠の近代化等に依り販路極めて廣し。

綿織物　綿織物は安蘇郡佐野町・植野村地方を主産地とす。昭和十一年の産額四百九十八萬二千七百五十三圓に達し、特に綿縮は品質産額俱に全國に冠たり。原料は綿絲・瓦斯絲を用ひ專ら東京・大阪の供給を受けつゝあり

結城紬　古來結城紬の名を以て産出せらるゝ本縣の紬織は下都賀・河内兩郡の南部地方に産し、高雅なる地風と堅牢にして持久力に富める品質とを有す。年産三十萬六千圓に及ぶ。

製絲　本縣の製絲業は興廢常なく、其の發達遲々たりしも、縣は極力之が奬勵に努めし結果、近時器械製絲業の經營漸次增加し、昭和十一年末に於ける製絲場數は十三、釜數八百九十五を算し、年内生絲産額は五萬三千八百九十五貫、二百五十九萬九千五百一圓を示せり。

陶器　陶器の生産地は所謂益子燒の産地たる芳賀郡益子町にして價額の低廉と品質の堅牢なるに依り、其の販路東京市を始め關東一帶・東北地方・北海道に及び昭和十一年中の産額は十八萬二千五百十三圓にして縣下産額の九割を占む。

清酒　清酒は酒造好適水の湧出と設備操作の改善と相俟つて縣下到るところに優良酒を産出し、昭和十一年に於ける製造價額は六百五萬八千三百五十圓なり。

漆器　漆器は年額五十五萬九千百七十五圓を産出し上都賀郡日光町に於て主に産出せらる。裝飾品・家具・食器類多く特に花鳥山水の撰推朱彫は精巧を極め、觀光外人の購入するもの尠からず。

和紙　和紙は那須郡烏山町・境村・向田村等を主産地とす。年産額五萬四千四百八圓を産出し、製品は西の内・程村・棧留等の厚物並に西五の如き薄物にして、品質の純良と紙の優雅なるとを以て賞揚せらる。近時純楮製の封筒・便箋・禮紙等の所謂民藝品一般の嗜好に投じ生産を增加しつゝあり。

【第一九表】 工産物細別 （昭和十一年）

種別	年末現在 製造戸數	職工數	數量	價額	主要生産地
綿織物	機台數 三、五二四	八三〇	三二、七七七、五一〇碼	四、三一六、一九八円	佐野、山邊、御厨、植野、足利、田沼
		三、〇〇四	四一九、二五反	五〇四、九五九	旗川、三鴨、筑波、宇都宮
			三〇、三五七、八一〇碼	八、八五七、一六三	
			七、一九六、九一反	一、九四八、七九七	
			一、五〇三、〇五三本	一、〇九六、七七九	
絹織物	機台數 四、七一八	一六、五七一	一、九五七、三七〇碼	三一、六一四、七六〇	足利、小俣、三和、佐野、山前、葉鹿
			六九、三五六反	三三六、四〇八	田沼、毛野、赤見、北郷、三重、菱、
			二五、〇三〇本	一三九、四二二	植野、絹、山邊
絹及絹綿交織物	機台數 二二、一八一			三九、〇九四	
絹交織物				三四、三四七	
麻交織物及綿交織物	機台數 九六	一九一	四二一、二七九碼	六三九、〇一二	鹿沼

毛織物及毛交織物	機台數 二	八三	五〇八	一七〇、〇〇〇碼	九三七、七五〇
					三五〇、六〇〇
晒及染物	偽物サラシ 三四二	二九五	一、七一八	五三、八九五貫	三、一九八、三四一
					三三五、八九四
蠶絲類	生糸等數 一三	八九五	一、三五三	一、六四八	二、五九九、五〇一
	屑物				九〇、二四二
綿	三八			一〇〇枚	二、七九八
眞綿	一〇	三七		三七、〇〇〇	二、九〇〇
木綿糸類	一一六			六七、二八七石	六、〇五八、三五〇
酒	六九一	一、〇一八	五〇、八二二	一、四四二、四五五	一、四一七、八五九
醬油		八三八	四、五六九、一〇八	三、四六一、〇五九	三、四六一、〇五九
味噌	六一九				
菓子	一、三四八	二、三三一	五九五、〇八八斤	一六九、九二三	一六九、九二三
植物油	一〇	三二			五五九、一七五
漆器	一一一	四一〇		二〇六、四四〇	二〇六、四四〇
陶磁器	五八	二七九			二、二七四、三六七
木製品	二、三六一	四、一三九			二〇四、一九二
竹製品	八七八	一、三九五			一九、四〇〇
籐製品	一一	二〇			

三重

足利、宇都宮、三重、佐野、御厨

足利、佐野、植野、三重

小山、野木、宇都宮、狩野

宇都宮、西那須野、川西、絹

宇都宮

平石、小山、大田原、烏山、間々田

藤岡、界、大田原、久下田、佐野

栃木、宇都宮、今市、山前(足)、馬頭

宇都宮、小山、鹿沼、栃木、足利

宇都宮、栃木、足利

日光、栃木、宇都宮、田沼、足利

益子、大山田、宇都宮、七井

宇都宮、鹿沼、栃木、足利、大田原

宇都宮、那須、栃木、足利、田沼

宇都宮、栃木、佐野

【第一九表】 工産物細別 （昭和十一年）

種別	年末現在 製造戸數	年末現在 職工數	數量	價額	主要生産地
綿織物	機台數 三、五二四	三、〇〇四	三二、七七七、五一七碼	四、三一六、一九八円	佐野、山邊、御厨、植野、足利、田沼
	八三〇		四一九、二五五反	五〇四、九五九	旗川、三鴨、筑波、宇都宮
絹織物及絹綿交織物	機台數 四、七一八	一六、五七一	三〇、三五七、八一〇碼	八、八五七、一六三	足利、小俣、三和、佐野、山前、葉鹿
	機台數 二二、一八一		七、一九六、九一反	一、〇九六、七七九	田沼、毛野、赤見、北郷、三重、菱、
絹織物			一、五〇三、〇五三本	二、一七一、〇二一	植野、絹、山邊
麻織物及麻交織物	機台數 九六	九一	四二一、二七九碼	三八九、六九八	鹿沼
	一		計	計	
			一	三、一九八、三四一	三重
毛織物及毛交織物	機台數 八三	五〇八	一七〇、〇〇〇碼	九五七、七五〇	
	二			三五〇、六〇〇	
蒟物	三四二	一、七一八	一	三、一九八、三四一	足利、宇都宮、三重、佐野、御厨
サラシ	二四	二九五	三三五、八九四	二、五九九、五〇一	足利、佐野、植野、三重
晒及染物	一三	一、三五三	八九五	九〇、二四二	小山、野木、宇都宮、狩野
蠶絲類	八九五		一〇〇枚	二、七九八	宇都宮、西那須野、川西、絹
生糸	等數		三七、〇〇〇石	二、九〇〇	宇都宮
眞綿	三八	一	六七、二八七石	六、〇五八、三五〇	平石、小山、大田原、烏山、間々田
木綿織類	一一六		五〇、八二二貫	一、四四二、四五五	藤岡、界、大田原、久下田、佐野
酒類	一〇	三七	四、五六九、一〇八貫	一、四一七、八五九	栃木、宇都宮、今市、山前(足)、馬頭
醬油	六九一	一、〇一八	五九五、〇八八斤	三、四六一、〇五九	宇都宮、小山、鹿沼、栃木、足利
味噌	六一九	八三八	一	一六九、九二三	宇都宮、栃木、足利
菓子	一、三四八	二、三三一	一	五五九、一七五	日光、栃木、宇都宮、田沼、足利
植物油	一〇	三二	一	二〇六、四四〇	益子、大山田、宇都宮、七井
漆器	一一一	四一〇	一	二、二七四、三六七	宇都宮、鹿沼、栃木、足利、大田原
陶磁器	五八	二七九	一	二〇四、一九二	宇都宮、那須、栃木、足利、田沼
木製品	二、三六一	四、一三九	一	一九、四〇〇	宇都宮、栃木、佐野
竹製品	八七八	一、三九五			
篠製品	一一	二〇			

種別	年末現在 製造戸數	職工數	數量	價額	主要生産地
藁製品	一八、八二五	二八、八七五		六七一、八七四	小野寺、宇都宮、皆川、阿久津、平石
銅器及眞鍮器	六	五二		一三、〇〇〇	佐野
青銅器					佐野、鹿沼
鐵製鍋釜類	七	一一三		一一三、九〇〇	
鐵製瓶類	二六一	四九八		一四七、四九〇	今市、氏家、鹿沼、宇都宮、田沼
灰類	二八	八九八	八六、七五九、六〇〇貫	二、三七〇、六四五	葛生、寺尾、赤見、三好、加蘇
石物	五三	一三〇	五一八、七八〇打	一四九、一八六	清洲、落合、國府、吹上、家中
懷爐灰（原料）	二五	一八三	一八、五五六、〇〇〇個	六三八、五八〇	栃木、鹿沼、葛生、富山、清洲
懷爐灰（製品）	八四	三四四	五、五八六、五二〇〇箇	二八八、九四四	田沼、皆川、栃木、佐野、野木
瓦及土管	土管 二九	六七	二五、七三〇〇本	二六、四八二	岩舟、靜和、足利、堀米、豐郷
扇子及團扇	九	四九	八四七、〇〇〇	三九、五七〇	宇都宮、佐野、犬伏、久下田
黍箒	六一三	七九八	七三〇、四三九	二九二、〇二四	鹿沼、稻葉、吹上、南押原、赤津
傘	二〇四	四九五	四〇四、四七三	一四三、四一七	宇都宮、植野、佐野、堀米、烏山
紙器	五九	一二六		九七、六一〇	宇都宮、足利、佐野、大田原、栃木
線香（原料）	三八 四四	五九 二六九	一七一、三二一貫	二八、八二七	今市、粟野、富屋、板荷
線香（製品）			一六三、五三〇ケ	一四〇、九四五	鹿沼、今市、大澤、宇都宮、栃木
菅笠	四七九	六六一	一四〇、〇〇八足	二〇、六二七	赤麻、部屋、藤岡
麻裏草履	二九五	八九〇	二、八一四、九〇〇足	三四三、六三六	栃木、宇都宮、鹿沼、赤麻

下駄緒高繩	四、五二八	七、四六〇	三〇七、五七〇貫	一、四一九、二二二	栃木、吹上、鹿沼
紙	一四〇	六二四		一、二四九、四六〇	古里、宇都宮、烏山、境、三重
製茶	一七、六五二		三五、〇四七貫	一三四、六〇一	野木、壬生、板荷、須賀川、南押原
皮革製品	一五六	三三九		三八三、七八七	宇都宮、足利、栃木、佐野、鹿沼
墨表蓆莚花蓆	三八九	五一〇	一〇一、八〇〇枚	一〇、一八〇	小野寺
メリヤス製品	一九	三五		三三、九五六	宇都宮
帽子	八	三五	四、八三〇打	二七、〇八三	宇都宮、栃木、足利、西方
肥料				七六、二五一	宇都宮、栃木、石橋、佐野
小麥粉	二三〇	四八三	六九、八五四、三二一斤	九、〇四一、〇一二	宇都宮、佐野、小山
麵類	四三三	七四六	九九〇、〇二四貫	八六三、〇九七	宇都宮、足利、栃木、鹿沼、川西
蕎麥粉	一一〇	一七七	二、〇一三、〇〇五斤	二二八、四九四	栃木、宇都宮、今市
豆腐類	八二三	一、二二八		四八六、九八一	宇都宮、足利、栃木、大田原、鹿沼
氷	七四	二四〇	一一、五四三、九三六貫	一三三、〇六四	宇都宮、佐野、菊澤、鹿沼
製造物				一〇五、四九〇	宇都宮、足利、鹿沼、日光、栃木
水產製造物				三八一、五九四	氏家、宇都宮、栃木、鹿沼
農具類	一一二	二八一		九四九、三七〇	宇都宮、足利、栃木、大田原、鹿沼
印刷物	一〇八	六〇四		三五九、九四〇	栃木、足利、宇都宮
煉炭	六七	一五二	八〇七、八一四	三八、三〇〇	宇都宮
瓦細工	一四	二九			

種別	年末現在 製造戸數	職工數	數量	價額	主要生産地
下駄	五八四	一、〇二三	四、三〇六、七九六	九二五、八二六	栃木、宇都宮、久下田、鹿沼、足利
紡績類	—	—	—	六、八三〇、四七六	鹿沼、山邊
精煉金屬類	—	—	—	五六、七三一、三六二	日光
電氣及瓦斯類	—	—	—	三、九〇二、九三七	藤原、宇都宮、足利
諸機械器具類	—	—	—	五六、二五八	鹿沼
其ノ他	—	—	—	三、三六〇、〇〇五	
計	—	—	—	一五五、一二二、二四三	
前年	—	—	—	一二四、九二三、三二〇	

商業

本縣の商業は物資の豐富と交通機關の整備とに依り逐年發達し、物資の隣接縣なる始め東京・神奈川・靜岡・京都・大阪の諸府縣並に九州・臺灣・京城の各地方に取引せらるゝもの尠からず。殊に足利及佐野方面の織物は內地のみならず海外に迄販路を有す。

銀行及會社　本縣に於ける諸會社・銀行・無盡業等は近時經濟界の變調に依り相當打擊を蒙りしも、其の數株式會社に在りては年々減少し、他は漸次增加の傾向にあり。昭和十一年末現在會社數六百五十八內株式二百四十三、合資三百三十四、合名八十一にして之が株式會社の割合（三六・九三%）は昭和六年末現在の割合（五三・五七%）に比し著しく減少せり。昭和十一年末現在銀行數は六、內貯蓄銀行一、普通銀行五にして、之が資本金總額千二百八万五千圓、拂込額七百三十九万圓（資本金總額に對し六一・一五%）積立金百七十萬千百七十二圓なり。

【第二〇表】　重要品縣外移出入（昭和十一年）

品目	移入量	移出量	出超及ハ入超（＊印ハ入超）	主要仕入地	主要仕向地
內地米	六〇、三四〇石	五四、六三二石	＊四八、二九二石	茨城、新潟、福島	東京、神奈川、茨城
外國米	二二、四五五	三三七	＊二二、一一八	東京、神奈川、朝鮮	群馬
大麥	二四、三九五	二五八、一七一	二三三、七七六	茨城、群馬	東京、福島
小麥	七一、六三八反	一一四、〇五九反	＊四二、四二一反	神奈川、東京、埼玉	東京、茨城、千葉
木綿織物	一、二九一、八一八	七五八、〇五三	＊五三三、七六五	東京、靜岡、愛知	東京、大阪、兵庫
絹綿交織物	五一一、四五二	一四九、一三八	＊三六二、三一四	東京、靜岡、埼玉	東京、京都、愛知
絹織物	一八〇、一三五	八、九二九、六八七	＊八、七四九、五五二	東京、京都、埼玉	東京、神奈川、福島
小麥粉	二、〇四二、八一三斤	五五、七五七、九〇六斤	＊五三、七一五、〇九三斤	東京、茨城、群馬	東京、茨城、埼玉
酒類	二七、二九九石	二四、三八八石	＊二、九一一石	東京、大阪、福島	東京、茨城、東京
醬油	四〇、二七五	二七、七三九	＊一二、五三六	東京、千葉、茨城	埼玉、茨城、東京
砂糖	一八、五四九、六一三斤	二七一、八〇〇斤	＊一八、二七七、八一三斤	東京、神奈川	福島、茨城、群馬
丸及角材	一三二、六二七石	三七七、五五〇石	＊二四四、九二三石	東京、秋田、福島	埼玉、神奈川、茨城
揑材	二一五、一一七坪	四九二、〇八二坪	＊二七六、九六五坪	東京、秋田、宮城	東京、神奈川

品目	移入量	移出量	出超又は入超（＊印は入超）	主要仕入地	主要仕向地
竹木石石	一七、九九七貫東	一二三、三五一貫東	一〇五、三五四貫東	茨城、群馬	東京、茨城、千葉
材炭炭油	四、四二三、二二二貫	九、一九二、九九一貫	四、七六九、六六九貫	秋田、福島、北海道	千葉、東京
	四〇〇、一七三、五九〇斤	一、〇三二、〇〇〇斤	＊三九九、一四一、五九〇斤	北海道、茨城、福島	埼玉、群馬
	一〇二、六三九箱	七五〇箱	＊一〇一、八八九箱	東京、神奈川	福島、岩手

【第二一表】銀行（昭和十一年）

種別	行数	公稱資本金	同上拂込額	積立金
貯蓄銀行	一	一、〇〇〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円	六七、九五〇円
普通銀行（株式）	五	一一、〇八五、〇〇〇	七、一四〇、〇〇〇	一、六三三、二二二
計	六	一二、〇八五、〇〇〇	七、三九〇、〇〇〇	一、七〇一、一七二
前年	二	一五、九〇五、〇〇〇	九、六七八、三二五	三、九〇六、六二一

【第二二表】會社（昭和十一年）

種別	社數 株式會社	社數 合資會社	社數 合名會社	社數 計	出資金又ハ資本金拂込額	積立金
農業	二	一九	六	二七	四〇五、二〇八円	一、七五九円
工業	六八	一一四	二三	二〇五	九、八二五、三三九	一、二一八、七五二
商業	一二五	一七五	四九	三四九	二六、八〇一、四九七	四、五六六、八九三
運輸業	四八	二六	三	七七	三、六二六、六九七	四一六、〇九五
前計	二四三	三三四	八一	六五八	四〇、六五八、七四一	六、二〇三、四九九
年	二四三	三〇五	七〇	六一八	四三、九七七、二二七	七、〇六六、三〇〇

【第二三表】商工會議所（昭和十一年）

所數	年末現在議員數	選擧有權者數	被選擧權者數	本年度經費
二	六五	一、五八二	一、四〇七	二三、九八八円

産業概況

本縣の産業組合は二宮尊德在縣の遺風に依り古くより各地に報德社の設立を見、勤儉貯蓄の美風を存せしを以て組合運動の唱道せらるゝや、産業組合法の發布に先ち鹽谷郡に矢板信用組合の設立あり、爾來年と共に著るしき發達を遂げ、昭和十一年末に於ける組合數二百二十二組合員數十一萬九千九百三十一、出資總額四百八十八萬九千二百六十五圓に達す。

各種組合　昭和十一年末現在本縣各種組合數を見るに、前掲産業組合の外に耕地整理組合の四百八十五、養蠶

實行組合の二百二十四、煙草耕作組合の百三十八等多數を示し、其の他に於ては重要物産同業組合十四、準則組合二十二、水利組合六十一、漁業組合十四、畜産組合七、酒造組合六、工業組合十五、商業組合二十三等なり。

農業倉庫　本縣に於ける昭和十一年末現在農業倉庫は百六を算し、總て産業組合の經營するところにして倉庫坪數一萬千五百七十一坪に及ぶ。年内の入庫數は米八十九萬五千三十九俵、麥七十萬千四百二十一俵、豆及雜穀九千二百四十四俵なり。

市場　本縣に於ける市場の昭和十一年末現在三十三、創立の古きは栃木市魚市場にして、明治八年の設立に係るものなり。

【第二四表】　農業組合

種別	昭和十一年末前年	種別	昭和十一年末前年
調査組合數	二二二　二一八	貯金年末現在	九、五四八、九〇五円　七、九七七、一四六円
組合員數	一一九、九三一　一一二、二〇〇	借入金年内借入高	一〇、八三三、七七五　一〇、二六七、五七八
出資總額	四、八八九、二六五円　四、五四八、七七五	購買品年内賣却高	五、八二〇、二三六　五、〇六二、五八一
拂込濟出資額	三、六五〇、八五三　三、二八五、六四四	年内販賣高	七、八八一、九七七　五、二四六、六二四
積立金	一、五九三、七三〇　一、四七三、九四二	年内利用料	一一一、七八〇　一〇三、八一九
貸付金年内ノ貸付高	一五、二三〇、九五九　一三、六九四、三二六	組合剩餘金	三九四、六一八　三八四、九八〇
貸付金年末現在	九、七二〇、七三一　九、三七一、〇九五		

【第二五表】　各種組合　（昭和十一年末現在）

種別	組合數	種別	組合數	種別	組合數
水利組合	六一	重要物産同業組合	一四	煙草耕作組合	一三八
工業組合	一五	産業組合	二三	信用組合聯合會	一
商業組合	二三	畜産組合	七	煙草耕作組合聯合會	一
準則組合	二二	養蠶實行組合	二四	耕地整理組合	四八五
酒造組合聯合會	一	養蠶業組合	四	漁業組合	一四
酒造組合	六	養蠶組合聯合會	一	販賣購買組合聯合會	一

【第二六表】　農業倉庫　（昭和十一年末現在）

經營主體産業組合	倉庫坪數	入庫數 米	入庫數 麥	入庫數 豆及雜穀	出庫數 米	出庫數 麥	出庫數 豆及雜穀
一〇六	一一、五七一坪	八九五、〇三九俵	七〇一、四二一俵	九、二四四俵	九二二、二〇五俵	六六三、〇一〇俵	一〇、五二三俵

【第二七表】　農會及市場　（昭和十一年度末現在）

【第二八表】保險（昭和十一年）

農會數 縣	郡	市	町村	經費（昭和十二年度豫算） 縣	郡	市	町村	市場 家畜繭	食料品
二	七	三	一七三	八二、四四一円	七七、〇二四円	一〇、八三五円	三四二、五七二円	一三	二

	人員又ハ件數 新契約	年末現在	金額 新契約	年末現在	死亡	生存	兵傷害	火災 動産	火災 不動産	火災 森林
	一七、四〇二	九三、八七二	二八、五三五千円	一三六、三〇四	三、五四四	九、八二四千円	二、〇六二	六、一八一	八、三六一	四一、七四八千円
	四一、九四四千円	二四、三八九	一九四	一七五千円	三八三千円	二九、二八八	二三、九三六千円	四五、一四〇千円	二六、三六九	四八、〇〇七
	四六、〇九八千円	六一、一六三〇	八七千円	五	五	五	五	五	五	五

耕地整理

明治三十三年耕地整理法施行以來、昭和十一年度末迄に本縣に於て設立施行を認可したる地區數八百六十八、面積三萬四百二十町歩にして、其の内工事の完了せる地區數五百六十一、（六四・六三%）面積二萬千九百七十八町（七二・二五%）換地所分認可地區數四百三十九、面積一萬九千百四十六町、事業終了の地區數百四十、面積五千百四十一町歩なり。

昭和十一年度に於て開墾助成をなしたる地區數五、交付金額六千八百六十八圓、移住奬勵戸數三、交付金額千二百圓にして、之を前年度に比すれば前者に於て地區數二、交付金額千五百八十圓、後者に於て移住奬勵戸數二交付金額八百圓を執も減少せり。

【第二九表】耕地整理地區面積（昭和十一年末現在）

郡	市	認可 地區數	認可 面積	工事完了 地區數	工事完了 面積	換地處分認可 地區數	換地處分認可 面積	事業終了 地區數	事業終了 面積
河内		一六六	三、四八九町	一〇七	二、三九五町	九五	二、二九六町	二八	五六七町
上賀都		四七	一、〇九九	二二	六〇三	一九	五九九	三〇六	三〇六
芳賀		一五四	七、五四六	一二五	六、七〇四	九二	五、三三五	三六	一、五一五
下都賀		九一	六、八一二	六五	四、七七一	五五	四、三七九	一六	三三一
鹽谷		二〇六	五、八九五	一四〇	三、九四四	一一二	三、六八八	二九	五一八
那須		一四八	二、三八二	六七	一、三八七	四〇	一、一五四	一一	二〇三
安蘇		二九	一、〇六〇	一五	三六四	七	一八六	四	六〇
足利		一七	一、九一九	一一	一、五九七	一〇	一、五九六	四	一、四三六
宇都宮		六	二八	六	二八	六	二八	五	二〇
足利		四	一九〇	三	一八五	三	一八五	三	一八五
栃木		一	一	一	一	一	一	一	一
計		八六八	三〇、四二〇	五六一	二一、九七八	四三九	一九、一四六	一四〇	五、一四一
前年		八六二	三〇、一六七	五四九	二一、八二二	四六五	二〇、四三四	一三七	五、〇六二

【第三〇表】　開墾助成其ノ他　（昭和十一年度）（無償ノ部ハ分ハ當該欄ヲ省略セリ）

郡市	開墾助成 地區數	開墾助成 交付金額	開墾移住奬勵 戸數	開墾移住奬勵 交付金額	耕地整理 地區數	耕地整理 交付金額	特殊工事補助 地區數	特殊工事補助 交付金額	耕地擴張補助 地區數	耕地擴張補助 交付金額
河内	一	九〇九円	一	四〇〇円	一	一円	一	一円	一	一円
上都賀	一	一、二三六	一	一	一	一	一	一	一	一
下都賀	一	一、一一九	一	四〇〇	一	一	一	一	一	一
鹽谷	一	二、八一四	一	四〇〇	一	一	一	一	一	一
那須	一	七九〇	一	四〇〇	一	一	一	一	一	一
計	五	六、八六八	三	一、二〇〇	一	一	一	一	一	一
前年	七	八、四四八	五	二、〇〇〇	一	一	一	一	一	一

四、交通・通信

交通・通信

鐵道　縣下に於ける鐵道網の幹線は省線及東武鐵道線にして、省線に屬するものに東北本線・兩毛・水戸・眞岡・日光・烏山・足尾の七線あり。縣の中央を南北に貫通する東北本線を以て主要なるものとす。地方鐵道には東武・東野・下野電氣・日光登山の各鐵道あり。其の内東武鐵道は日光・字都宮・佐野・伊勢崎の四線を以て縣下商工業の中心地并に樞要都市を連絡す。

道路　縣下の道路は國道二線延長十二萬千三百二十四米、縣道二百八十八線延長二百五十八萬八千二百九十一米、市町村道六千九百九十四線千百二萬二千八十二米にして、之に屬する民營定期自動車運輸路線（十一年度末現在）百九十二、此の延長三千百六十三粁一に達し、外に省營自動車運輸路線六（宇都宮、茂木・烏山、中川・烏山、大内・烏山、茂木・西那須野、鹽原・關谷（箒根村）、矢板）此の延長百四十三粁九あり。

河川　本縣に於ける河川法施行のものは渡良瀨・秋山・巴波・思・鬼怒・男鹿・湯西の七川にして、同法を準用するものは逆川其の他三十六河川なり。又縣費支辨のもの四十八河川あり、此等の延長千四百三十九粁にして其の他は市町村費支辨の河川なり。

船車　昭和十一年末現在本縣の小船二百九十隻、自轉車十四萬七千七百五十二輛、人力車四百六十二輛、荷車二萬四千三百三十四輛、荷馬車五千四百六十三輛、荷牛車千百五十九輛なり。

通信　昭和十一年度末に於ける縣下の郵便局數は百三十七、内電信又は電話取扱局八十四、電信取扱所は十五公衆電話所二十一、郵便切手賣捌所千四百三十にして、年度内の郵便物は、内外國通常郵便引受數三千八百四十三萬八千四百九十八、同配達數四千八百四十萬四千五百三十三なり。尙電信は發信數四十三萬千二百七十一、受信數四十七萬五千六百二、電話加入者數九千三百四を算せり。

【第三一表】 道路及縣費支辨河川 （昭和十一年末現在）

種別	路線數	主要延長	縣費支辨河川
國道	二	一二一、三二四・二米	河川數 四八
縣道	七八八	二、五八八、二九一・〇	延粁程 一、四三九粁
市町村道	六、九九四	一一、〇二二、〇八一・七	渡船場數 五五
計	七、二八四	一三、七三一、六九六・九	

【第三二表】 主要停車場貨客 （東武鐵道所屬停車場ヲ含ム）（昭和十一年）

種別	宇都宮	日光	鹿沼	西那須野	小山	佐野	足利
貨物 發	七四、三〇七瓩	四七、九二二瓩	二六、一〇一瓩	一九、三九七瓩	四一、七七九瓩	一四、九四〇瓩	一五、七六四瓩
貨物 着	一五一、六七七	六一、七一九	二七、七一八	一〇、八〇一	五三、九一五	四一、五九五	九三、二八〇
旅客 發	一、〇七六、六二〇	五九六、六〇〇	二三三、〇二四	二〇九、一〇四	三一〇、五八七	四一一、五三〇	七七六、六一八
旅客 着	一、〇七六、九七六	七〇二、六一〇	三〇二、九九八	二二一、一〇八	三一二、五八三	四一三、七七六	八二七、〇四四

【第三三表】 地方鐵道 （昭和十一年末現在）

會社名	同上所在地	營業種目	線路延長 特殊線路	線路延長 營業線路	幅員
東武鐵道株式會社	東京市本所區小梅町	一般運輸	一四三・三八六粁	一四三・三八六粁	三呎六吋
下野電氣鐵道株式會社	同	同	三九・六四〇	三九・六四〇	同
日光登山鐵道株式會社	同	同	一・一八六	一・一八六	一、〇六七粍
東野鐵道株式會社	那須郡川西町	同	七五・九五四	四九・四〇〇	三呎六吋
大谷石材鐵道株式會社	宇都宮市石町	同	九・七二二	—	同

【第三四表】 軌道 （昭和十一年末現在）

會社名	同上所在地	營業種目	線路延長 特殊線路	線路延長 營業線路	幅員
東武鐵道株式會社	東京市本所區小梅町	一般運輸	九・五粁	九・五粁	三呎六吋
日光電氣軌道株式會社	同	同	九・八	九・八	同
鍋山人車鐵道株式會社	下都賀郡寺尾村	同	一五・四	一九・四	六〇六粍

【第三五表】 索道 （昭和十一年末現在）

會社名	同上所在地	目的
		垂直設備延長

華嚴瀧エレベーター株式會社　東京市本郷區駒込千駄木町　遊覽　三二間尺

【第三六表】船車（昭和十一年末現在）

種別	數量	前年	種別	數量	前年
小船	二九〇	三二二	馬車 乘用	—	—
白轉車	一四七、七五二	一三四、〇九五	馬車 荷積用	五、四六三	五、一七三
人力車	四六二	四七五	牛車	一、一五九	九四五
荷車	二四、三三四	二四、五三八			

【第三七表】發電水利使用（昭和十一年）

種別	地點	使用水利	理論馬力	發電力	種別	地點	使用水利	理論馬力	發電力
		合方尺		キロワット					キロワット
竣工箇所					未竣工箇所				
百馬力以上ノモノ	三二	六、二一九	一五一、九九二	八四、九三二		—	—	—	—
百馬力未滿ノモノ	一一八	七四八	八九八	三五二		二	二	—	—
計	一五〇	六、九六七	一五二、八九〇	八五、二八四		三八	三八	—	—
						一三	一三	—	—
						一・五	一・五	—	—

【第三八表】災害（洪水）

種別	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年
土木上ノ損害	六六三、六〇〇円	一、一六〇、七〇六円	一、二七二、九〇一円	一、二二一、六六二円	四三〇、九九四円
建築上ノ損害	一三、八八〇	五、五〇五	三、三一八	三、三六三	一一〇、六〇八
田畑ノ損害	五七三、五三〇	八六一、四五三	二六〇、八四六	二六〇、八二九	三四、七九〇
其他ノ損害	—	四、〇六〇	—	—	八、四一七
計	一、二五一、〇一〇	二、〇三一、七二四	一、五三七、〇六五	一、四八五、八五四	五八四、八〇九

【第三九表】郵便電信電話局所

	郵便局	同上ノ内電信又ハ電話取扱局	電信取扱所	公衆電話所	郵便切手賣捌所	郵便函	郵便私書函
昭和十一年度末	一三七	八四	一五	二二	一、四三〇	一、四八二	四〇八
前年度末	一三二	七七	一一	二一	一、三六三	一、四〇三	四〇八

【第四〇表】 郵便・電信・電話

	郵便物引受數	郵便物配達數	電信發信數	電信受信數	電話加入數	郵便爲替振出金額	郵便爲替拂渡金額
昭和十一年度	三八、四三八、四九八	四八、四〇四、五三五	四三一、二七一	四七五、六〇二	九、三〇四	六、九六七、四一八 円	八、二三三、一四〇 円
前年度	三六、四四三、五四八	四五、三二五、六九五	四一〇、八七八	四四一、八二九	九、〇六七	六、八〇〇、九一七	七、八八三、八二八

五、教育

學齡兒童

本縣に於ける昭和十二年三月一日現在の學齡兒童數は二十五萬四千四百三十四人にして、內就學始期既達者二十二萬千二百八人（八六・九四％）就學始期未達者三萬三千二百二十六人（一三・〇六％）なり。就學始期既達者百人中就學歩合は九十九人八分一厘に當る。不就學の原因は概れ疾病なり。

【第四一表】 學齡兒童 （昭和十二年三月一日現在）

郡市	就學ノ始期ニ達シタル者 就學 男	就學 女	不就學 男	不就學 女	合計 男	合計 女	就學始期未達者 男	就學始期未達者 女	就學歩合 男	就學歩合 女	就學歩合 平均
河內郡	一一、六〇三	一一、二九三	二二	二五	二二、九四三	二八、七八九	一、六三七	一、六五八	九九・八一	九九・七八	九九・八〇
上賀茂都	一四、四〇六	一四、三三七	一九	二七	二八、七八九	二、〇七三	二、〇七九	九九・八七	九九・八一	九九・八四	九九・八〇
芳賀都	一一、六〇二	一一、三一七	一九	一〇	二二、九四八	一、七六三	一、七六九	九九・八四	九九・八三	九九・九一	九九・八七
下賀都	一七、八九〇	一七、五四五	三〇	二一	三五、四八六	二、六〇〇	二、六一三	九九・八三	九九・八六	九九・八六	九九・八六
谷都	九、一二一	八、八九八	二二	三五	一八、〇七六	一、四二〇	一、四七五	九九・七六	九九・六一	九九・六八	九九・六八
須賀都	一七、八〇八	一七、三五三	二三	二五	三五、二〇九	二、七六三	二、六五三	九九・八七	九九・八六	九九・八六	九九・八六
蘇谷都	八、四九八	八、三八八	一九	六	一六、九一一	一、二五四	一、二八四	九九・七八	九九・九二	九九・八五	九九・八五
那須郡	六、八七二	六、八八〇	一五	一六	一三、七八三	一、〇六四	一、〇六一	九九・七八	九九・七七	九九・七八	九九・七八
鹽谷郡	七、二六三	六、八九九	一八	二五	一四、二〇五	一、〇五〇	九九二	九九・七五	九九・六四	九九・七〇	九九・七〇
安蘇郡	三、六〇三	三、五九二	七	七	七、二〇九	五五八	二、〇四二	九九・八一	九九・八一	九九・八一	九九・八一
足利都	二、八一二	二、八一三	一七	七	五、六四九	四二七	一、一一七	九九・四〇	九九・七五	九九・五八	九九・七九
宇都宮都	一一、四七八	一〇九、三一五	二一一	二〇四	二二一、二〇八	一六、六〇九	一六、六一七	三三、二二六	九九・八一	九九・八一	九九・八一
足利都	二、八一二	二、八一三	一七	七	五、六四九	四二七	一六、六一七	九〇一	九九・七九	九九・七九	九九・七九
栃木都	三、六〇三	三、五九二	七	七	七、二〇九	五五八	九九二	二、〇四二	九九・八一	九九・八一	九九・八一
計	七、八六二	六、八八〇	一五	一六	一三、七八三	一、〇六四	一、〇六一	二、一二五	九九・七八	九九・七七	九九・七八
前年	一〇、八二三	一〇九、七三八	二三一	二三四	二二一、〇二六	一六、三〇六	一五、七六九	三二、〇七五	九九・七九	九九・七九	九九・七九

學校

小學校　昭和十二年三月一日現在小學校數（附屬小學校を除き私立を含む）は四百三、內尋常小學校二百二、尋常高等小學校百九十七、高等小學校四にして、外に分教場九十七あり。學級數は四千四百六、在籍兒童數は二十二萬三千三百三十五人を算す。卽一學級平均兒童數五十一人に當る。

教員現在數は四千八百八十三人を算し、平均月俸額を見るに小學校本科正教員の尋常科勤務男六十四圓七十九錢七厘最も高く、以下同高等科勤務男の六十二圓九十二錢、同尋常科勤務女の五十一圓九十三錢八厘、專科正教員の尋常科勤務男の五十一圓五十錢、尋常小學校本科正教員の男四十九圓八十二錢九厘の順位にして最低は代用教員尋常科勤務女の二十七圓七十七錢八厘なり。

中等學校　本縣に於ける中等教育は比較的發達し、校數五十六、內師範學校二、中學校十、高等女學校十、實科高等女學校二、實業學校三十二を算す。其の分布狀態は地勢に適合して入學難を訴ふるが如きこと少し。昭和十二年三月一日現在在籍生徒數は一萬九千四百六十人にして、教員數は千二十六人なり。

青年學校　昭和十二年三月一日現在青年學校數は二百三十一あり、之が學級數六百二十、教員數千五百四十五人、內本務者二百二十六人（一四・六三％）兼務者千三百十九人（八五・三七％）在籍生徒數二萬四千四百九十四人なり。尙財團法人上野原農學寮は芳賀郡祖母井町に於て、昭和八年以來農村經濟の協同化乃至組織化を目標として人材の養成に勵むるところありしが、昭和十三年四月以降縣立淸原農學寮に位置、名稱、組織共變更せられたり。

其の他　本縣には前揭各學校の他に官立高等農林學校一、幼稚園十九、各種學校二十一、青年學校教員養成所一、盲啞學校一、盲學校一あり。

【第四二表】　小學校

△印ハ分教場、本表ニハ師範附屬ノモノヲ除キ私立ヲ含ム

郡市	學校數 尋常	學校數 尋常高等	學校數 高等	學校數 計	學級數 尋常	學級數 高等	學級數 計	兒童數 尋常	兒童數 高等	兒童數 計
河內郡	△			△	三六二	六八	四三〇	一八、六一六	三、四八九	二二、一〇五
上賀郡	△			△	四八八	一一一	五九九	二四、一八五	五、三三六	二九、五二一
芳賀郡	△			△	四〇四	八三	四八七	一九、八六二	四、〇一六	二三、八七八
下谷郡	△			△	五八〇	一三八	七一八	三〇、五七六	六、四六八	三七、〇四四
鹽須郡	△			△	三〇七	六九	三七六	一五、四一一	三、三七八	一八、七八九
那須郡	△			△	六四三	一一四	七五七	三〇、三六八	五、三二四	三五、六九二
安蘇郡	△			△	二八七	五〇	三三七	一四、三五二	二、五一六	一六、八六八
足利郡	△	△		△	二一八	三四	二五二	一一、八二三	一、六二五	一三、四四八
宇都宮市	△	△		△	二〇三	三三	二三六	二二、四三三	一、七六九	一四、二〇二
足利市		△		△	一一四	—	一一四	六、二一九	—	六、二一九
栃木市		△		△	八六	一四	一〇〇	四、八七四		四、八七四
計	△	△		△	三六、六九二	七一四	四四、四〇六	一八八、七一九	三四、六一六	二二三、三三五
前年	△	△		△	三六、六四五	六九六	四四、三四一	一八八、四七〇	三四、〇〇四	二二二、四七四

【第四三表】小學校教員

種別	師範附屬 男	師範附屬 女	市町村立 男	市町村立 女	私立 男	私立 女	計 男	計 女	計
本科正教員	一〇	五	二、八一五	一、三〇一	三三	八	二、八七八	一、三一四	四、一九二
專科正教員	一	一	三〇	一九三	一	三	三一	一九六	二二七
准教員	一	一	一二〇	六一	一	一	一二〇	六一	一八一
代用教員	一	一	一三三	一四八	一	一	一三四	一四九	二八三
計	一〇	五	三、一〇八	一、七〇三	三五	一二	三、一六三	一、七二〇	四、八八三
前年	一〇	五	三、〇八九	一、六五一	三二	一〇	三、一四一	一、六六六	四、八〇七

【第四四表】市町村立小學校教員平均月俸額

種別	尋常科勤務 男	尋常科勤務 女	高等科勤務 男	高等科勤務 女
小學校本科正教員	六四・七九七円		六二・九二〇円	
尋常小學校本科正教員	四九・八二九		四八・六四三	
專科正教員	五一・五〇〇			
准教員	三六・七九五		三二・〇〇〇	
代用教員	三四・〇七四		三七・四一七	
小學校本科正教員		五一・九三八円		四七・一二六円
尋常小學校本科正教員		四三・六九四		三九・二三四
專科正教員		四四・九三八		
准教員		三三・三九三		
代用教員		二七・七七八		三二・二五〇

【第四五表】師範學校

校名	學級數	教員 有資格	教員 無資格	生徒 一部	生徒 二部	入學志願者 一部	入學志願者 二部	入學者 一部	入學者 二部	卒業者 一部	卒業者 二部
縣立師範學校	一〇	✿	✿	一四四	專 六六〇	一四二	專 一九七二	四〇	專 四〇〇	二五	專 二六〇
同女子師範學校	一〇	✿	二二	一三四	專 六四九	八九	專 七四三	三〇	專 四四〇	二五	專 一四七
計	二〇	✿	二二	二七八	專 一三五 六四	二三一	專 二六四 七六	七〇	專 八四〇 六四	五〇	專 五五 六四
兩附屬小學校	二一	✿	二二	一四四	八八四 三八	一	一	四〇	二二四 五三	一七二 一七	
附屬幼稚園	二	四二	三四								

【第四六表】中學校

校名	學級數	教員數 有資格 本務	教員數 有資格 兼務	教員數 無資格 本務	教員數 無資格 兼務	生徒	入學者（一學年）	卒業者
縣立宇都宮中學校	二〇	二九	二	三	一	九一三	一九九	一四七
同栃木中學校	一五	二四	二	二	一	七四七	一六三	一三二
同眞岡中學校	一〇	一六	二	三	一	四四三	一一七	七三
同佐野中學校	一〇	一八	一	一	一	四七九	一〇六	九一

✿ 樂印ハ兼務者

【第四七表】高等女學校（實科及補習科ヲ含ム）

校名	學級數	教員數 有資格 本務	教員數 有資格 兼務	教員數 無資格 本務	教員數 無資格 兼務	生徒	入學者（一學年）	卒業者
縣立大田原中學校	一五	二二	二	一	一	六二九	一六五	八五
同足利中學校	一〇	一六	三	三	一	四三六	一〇二	七三
同烏山中學校	一〇	一八	一	一	一	四二三	九九	六四
同石橋中學校	一〇	一七	二	一	一	四四九	一〇九	六六
同今市中學校	五	一〇	一	二	二	二三八	五二	五一
財團法人下野中學校	八	一三	一	一	一	二八九	七六	二一
計（一〇）	一一三	一八三	一七	一九	八	五、〇四六	一、一八六	八〇三
縣立宇都宮第一高等女學校	一九	二九	二	三	一	八九五	二九二	二一二
同栃木高等女學校	一六	二四	二	一	一	八一五	二〇九	一九二
同佐野高等女學校	一〇	一七	一	一	一	四九九	一四一	一四八
同足利高等女學校	八	一四	一	一	一	四〇七	一〇九	九五

【第四八表】實業學校（甲）（選科及專攻科ヲ含ム）

校名	學級數	教員數 有資格 本務	教員數 有資格 兼務	教員數 無資格 本務	教員數 無資格 兼務	生徒	入學者（各學年）	卒業者
同大田原高等女學校	八	一三	一	一	一	四〇一	一一三	九一
同眞岡高等女學校	八	一三	一	一	一	三九五	一〇二	九一
同氏家高等女學校	八	一五	一	一	一	三九六	一〇七	九一
同鹿沼高等女學校	八	一五	一	一	一	四一一	一〇六	一〇二
同宇都宮第二高等女學校	一二	二〇	二三	一	一	五九七	一五七	一四七
町立日光高等女學校	四	六	一	二	一	一八一	四六	三二
同鹿沼實科高等女學校	五	七	一	六	一	一九一	一一三	九〇
同足尾實科高等女學校	三	四	一	五	一	七八	四六	四七
計（一二）	一〇九	一七七	三五	七	一四	五、二六六	一、五四一	一、三三八
縣立足利工業學校	一一	二二	三	一	一	四八〇	一〇五	九一
同宇都宮工業學校	一五	二二	二	三	一	三八九	八八	五九
同宇都宮農學校	一〇	一八	二	三	一	四六九	一〇四	七八
同矢板農學校	六	一二	一	一	一	二六八	九九	九四

校名	學級數	教員 有資格 本務	教員 有資格 兼務	教員 無資格 本務	教員 無資格 兼務	生徒	入學者（各學年）	卒業者
縣立栃木農學校	五	二二	二	二	二	二三八	五四	四〇
同眞岡農學校	三	一八	二	二	一	一四九	五四	四二
組合立茂木農學校	三	五八	二	一	一	一一三	四一	三一
縣立宇都宮商業學校	一〇	一六	二	三	一	四九二	一〇三	一〇〇
同鹿沼農商學校	八	一六	二	一	一	四〇二	一〇九	一〇一
市立宇都宮市商業學校	一〇	一六	一	一	二	四七七	一一六	七五
同栃木商業學校	一〇	一八	二	二	一	五一四	一一九	八七
町立小山實業學校	四	五	一	三	一	一五一	一五六	一
私立宇都宮實踐女學校	一一	八	三	三	二	四七九	二〇三	五二
市立栃木高等實業女學校	七	九	二	二	一	五〇五	二五〇	二三三
同黑磯實踐女學校	五	六	一	三	三	三五五	一五八	一三四
町立烏山實踐女學校	七	九	三	三	一	二四三	一一二	八五
同矢板實踐女學校	三	五	三	一	一	九一	三八	二五
同小山高等實踐女學校	七	九	一	二	二	一三五	一〇一	一〇一
組合立茂木家政女學校	三	四	六	一	一	一五〇	九三	八五
私立宇都宮女子高等職業學校	一〇	一二	二	二	五	三九七	二〇二	一七八

【第四九表】 實業學校（乙）

校名	學級數	教員 有資格 本務	教員 有資格 兼務	教員 無資格 本務	教員 無資格 兼務	生徒	入學者（各學年）	卒業者
同足利高等家政女學校	四	四	一	八	四四	一八五	一〇〇	一三五
同宇都宮女子實業學校	四	三	四	二	四	一三九	九七	三八
同足利實踐女學校	三	二	八	一	一	三七	二一	一九
計（二五）	一六九	二五八	五一	四四	四四	七〇九三	二一五九七	一九四九

校名	學級數	教員 有資格 本務	教員 有資格 兼務	教員 無資格 本務	教員 無資格 兼務	生徒	入學者（各學年）	卒業者
市立足利市實業學校	男子部六 女子部三	一〇四	六四	一一三	一一	二三一 六六	九四四 三二	六〇 二二
町立佐野商業學校	六	一一	三三	一	一	三一六	一〇九	一〇二
私立葛生農商學校	六	七	三	六	一	二六四	一一四	七三
同足尾銅山實業學校	六	六	一	六	二	一一一	四一	三六
町立今市實業女學校	四	六	一	六	一	一八一	九八	八一
私立足利實踐女學校	四	六	一	六	八	二一〇	六〇	九九
同足利高等家政女學校	四	三	一	一	四	一九九	五〇	五五
計（七）	三九	五三	一七	三三	一五	一五七八	五九八	五一八

【第五〇表】 青年學校教員養成所

【第五一表】青年學校

所名	學級數	教員數 有資格 本務	教員數 有資格 兼務	教員數 無資格 本務	教員數 無資格 兼務	生徒 男	生徒 女	入學者 男	入學者 女	卒業者 男	卒業者 女	生徒	入所志願者	入所者	退所者	卒業者
縣立青年學校教員養成所	一	一	一七	一	二	二〇	一一四	二〇	一	一						
學校數 二三一	學級數 六二〇	二一三	一、一七一	一三	一四八	一九、七一四	四、七八〇	七、七九〇	二、七四六	四、五二九	一、六五三					

【第五二表】各種學校

種別	校數	學級	教員數 男 本務	教員數 男 兼務	教員數 女 本務	教員數 女 兼務	生徒 男	生徒 女	入學者 男	入學者 女	卒業者 男	卒業者 女
小學校ニ類スル各種學校	三	一〇	三	一	一	一	四〇	一七	三六	一五	一九	二
實業學校ニ類スル各種學校	六	三七	一六	三	三	二	七五	八二六	三〇	五〇〇	二五	三六一
其ノ他ノ各種學校	五	一六	五五	一	一	一	一五三	二一一	九〇	一六三	八三	一二九
計	一四	二〇	七六	三	四五	二	二六八	一、〇五四	一五六	六七八	一二七	四九二

【第五三表】盲啞學校（別科ヲ含ム）

校名	學級	教員	生徒 盲 男	生徒 盲 女	生徒 啞 男	生徒 啞 女	入學者 盲 男	入學者 盲 女	入學者 啞 男	入學者 啞 女	卒業者 盲 男	卒業者 盲 女	卒業者 啞 男	卒業者 啞 女
縣立宇都宮盲啞學校	七	七	二六	一二	三〇	一八	八	七	一八	七	七	七	三	一〇
同足利盲學校	七	七	二三	二〇	一	一	一〇	二	一	一	四	六	一	一
計	一四	一三	四九	三二	三〇	一八	一八	九	一八	七	一一	九	一〇	二

【第五四表】幼稚園

圖數	保育滿期者 有資格 男	保育滿期者 有資格 女	保育滿期者 無資格 男	保育滿期者 無資格 女	入園者 男	入園者 女
一九	三二	二〇	六二七	六六三	四三二	四六四	三六七	三九七

公學費・公學資產

昭和十一年度縣內公學費支出總額は六百六十四萬五千九百三十七圓にして、內縣經濟に屬するもの百八十六萬七千五百七十二圓、市經濟に屬するもの四十九萬七千三百七圓、町村經濟に屬するもの四百二十八萬千五十八圓なり。又公學費收入總額は二百八十五萬三百四十一圓にして、內縣經濟に屬するもの七十八萬二千百五十九圓、市經濟に屬するもの十五萬七千八十五圓、町村經濟に屬するもの百九十一萬千九十七圓なり。

昭和十一年度末現在縣內公學資產總額は千六百九十八萬九千五十一圓にして、內土地價額四百五萬七千八百九十九圓、建物價額九百六十一萬六千四百六圓、其の他價額三百三十一萬四千七百四十六圓なり。

【第五五表】公學費

昭和十一年度	縣費	市費	町村費	計	一世帶當	一人當
支出	一、八六七、五七二円	四九七、三〇七円	四、二八一、〇五八円	六、六四五、九三七円	三一・五一円	五・五一円
收入	七八二、一五九	一五七、〇八五	一、九一一、〇九七	二、八五〇、三四一	一	一

【第五六表】公學資產

	縣	市	町村	計
土地價額	九三九、六一七円	一、二四二、五三二円	一、八七四、七五〇円	四、〇五七、八九九円
建物價額	二、一九八、二四七	八五九、五二九	六、五五八、五三〇	九、六一六、四〇六
其ノ他價額	一、二三八、一六三	三四一、八三四	一、七三四、七四九	三、三一四、七四六
計	四、三七六、一二七	二、四四四、八九五	一〇、一六八、〇二九	一六、九八九、〇五一

圖書館

昭和十二年三月一日現在縣下の圖書館數は三十七あり、之が所藏圖書冊數は十萬二千二百四十四冊內和漢書十萬八百六十一冊、洋書千三百八十三冊にして、昭和十一年度內閱覽人員は九萬六千百七十五人なゝ。

【第五七表】圖書館

館數	圖書冊數 和漢書	圖書冊數 洋書	圖書冊數 計	開館日數	閱覽人員
三七	一〇〇、八六一	一、三八三	一〇二、二四四	九、九三〇	九六、一七五

青年團　昭和十二年三月一日現在縣下の青年團體數は男子百八十七、女子二百二にして、正團員は男子三萬六千百四人、女子二萬六十九人なり。而して之が經費は兩團を合し收入五萬四千八十八圓、支出五萬二百九十八圓なり。

【第五八表】　青年團

團體數		正團員 二十五歲以上	正團員 二十五歲未滿	正團員 二十歲未滿	正團員 計	本年度收入總額 補助費	本年度收入總額 團員醵出其ノ他	本年度收入總額 計	本年度支出總額
男子	一八七	四、四八一	一四、六〇二	一七、〇二二	三六、一〇四	一八、五九九円	一八、三六二円	三六、九六一円	三四、八四六円
女子	二〇二	二、四六	五、五五九	一四、二六四	二〇、〇六九	七、八九九	九、二二八	一七、一二七	一五、四五二

青英資金　大正三年御大典記念事業として大正四年度縣豫算中に金三萬圓を以て育英事業に對する特別會計を設置し、次で大正四年以降大正九年に至る毎年の御下賜金を之に編入したり。現在資金積立金總額は十萬四千餘圓あり、資金は本縣に本籍を有する者及十年以上本縣に在住する者の中學資に乏しく、學術優等、品行方正、身體强健なる者にして高等學校及專門學校以上の學校に入學せんとする者及現に在學し居る者に詮衡の上學資を貸費し、尙本縣內中等學校に入學せんとする者及現に在學する者にして前記の如き條件の備はりたる者に學費を給與す。

昭和十二年度貸費生は五十名、新に採用したる者十八名、給與生は十六名にして新に採用したる者五名あり。

六、社寺・徵兵

社寺　神社　本縣には國史に關係深き神社尠からず。隨つて社殿の結構宏壯なるものあり。昭和十一年度末現在神社は國幣中社二、別格官幣社二、縣社十一、鄕社四十九、村社千六十三、無格社二千百八十を算する。

宗教　宗教に於ける本縣人は佛教信徒最も多く、神道之に亞ぐ。昭和十一年末現在寺院九百六十四、祠宇一、佛堂千二百三十三にして、住職數は六百六十二人なり。宗派中首位を占むるものは眞言宗にして、之に亞ぐは曹洞宗、天臺宗等なり。

教會　教會は昭和十一年末に於て二百四十四あり。內神道百七十二、佛道三十九、基督教三十三なり。

【第五九表】　社寺　（昭和十一年末現在）

神社	國幣中社	二	縣社	一一	村社	一、〇六三	神職計	三、三〇七
	別格官幣社	二	鄕社	四九	無格社	二、一八〇		二八三
寺院	寺院	九六四	祠宇	一	佛堂	一、二三三	住職	六六二
會堂又ハ講義所	神道	一七二	佛道	三九	基督教	三三		

徴兵

昭和十一年の徴兵檢査人員は一萬三千三百十四人にして、その身長は平均一米五九、最も多きは一米五五以上一米六〇未滿の三分三厘、之に亞ぐは一米六〇以上一米六五未滿の二分八厘なり。

教育程度は高等小學校卒業及同等と認めらるゝ者の四分三厘最も多く、尋常小學校卒業の者の二分五厘之に亞ぐ。而して中等教育以上を受けたる者の割合は近年著しく增加の傾向を示しつゝあり。

【第六〇表】　徴兵　（昭和十一年）

		一米八〇以上	一米七五以上	一米七〇以上	一米六五以上	一米六〇以上	一米五五以上	一米五〇以上	一米四五以上	一米四〇以上	一米四〇未滿	測定不能	計
壯丁身長	前年	二	三一	三三〇	一、四八三	三、七三七	四、三六一	二、四九八	六六三	一一五	一五	七四	一三、三一四
	一	三六	二九四	一、四三二	三、六七八	四、四五六	二、四四七	六二三	一一〇	九	八六	一三、一八〇	
壯丁體重		七五瓩以上	七〇瓩以上	六五瓩以上	六〇瓩以上	五五瓩以上	五〇瓩以上	四五瓩以上	四〇瓩以上	四〇瓩未滿	測定不能	計	
	前年	一二	三一	一六四	七四六	二、七〇八	四、八六七	三、五七三	九九七	一四二	七四	一三、三一四	
	一	一三	二八	一二六	七五三	二、六一七	四、六七九	三、六八三	一、〇五〇	一三五	八六	一三、一八〇	
壯丁學力	大學卒及同等	一五二											
	高專卒及同等	二六〇											
	中學卒及同等	一、三七二											
	青年學卒	一、六九四											
	高小卒及同等	五、七三二											
	尋小卒	三、三三九											
	尋小中退	六四一											
	稍讀	四一											
	無學	六三											
	計	一三、三一四											
		五九											
		一三、一八〇											

七、社會事業

社會事業

本縣に於ける社會的施設は逐年充實し、之を各關係事業より見れば季節託兒の二百四十四最も多し。

昭和十一年度に於ける軍事救護戸數は七百三十、人員二千六百六十八、救護費四万五千九百六圓を算す。

昭和十一年度に於て新に救護を受けたる行旅病人は三十九人にして行旅死亡人は六十三人なり。昭和十一年中救護法に依る救護者は二千百人にして之が金額は四万三千三百三十三圓なり。

少年救護法に依る委員設置の市町村數は二十一、委員數は五十九名にして毎年委員會を開く。少年救護院として縣立那須學院あり、明治四十一年十二月の創立にして昭和十二年末現在は四十二人なり。

昭和十一年度恩賜財團濟生會本縣救療費配當額は二万四千五百三圓内縣費補助額三千圓にして、取扱患者の實人員は一万八十人、内外來六千九百五人、往診六百六十七人、入院二百五十八人なり。

【第六一表】　各種事業施設　（昭和十一年度末）

事業種別	施設又ハ團体數	事業種別	施設又ハ團体數	事業種別	施設又ハ團体數
育兒	一	季節託兒	二四四	姙産婦保護	一
常設託兒	八	特殊教育	一	小兒保健所	四

事業種別	施設又ハ團體數	事業種別	施設又ハ團體數	事業種別	施設又ハ團體數
住宅組合	三	公益質屋	一〇	醫療救護	五
公營住宅	二	職業紹介所	七	融和事業	四七
生業資金	三	窮民救濟	五	方面委員	一、一三一
宿泊保護	三	釋放者保護	七	方面事業助成	一二二

【第六二表】軍事救護（昭和十一年度）括孤内ノ計數ハ他ト重複ノモノヲ示ス

救護種別	傷病兵 戸數	傷病兵 人員	傷病兵 金額	傷病兵及其家族 戸數	傷病兵及其家族 人員	傷病兵及其家族 金額	下士兵卒ノ家族 戸數	下士兵卒ノ家族 人員	下士兵卒ノ家族 金額	傷病兵ノ遺族 戸數	傷病兵ノ遺族 人員	傷病兵ノ遺族 金額	下士兵卒ノ遺族 戸數	下士兵卒ノ遺族 人員	下士兵卒ノ遺族 金額
生活扶助	四	四	二三八円	二三	八六	一、七五二円	六九四	二、五五五	四二、八一三円	三	七	二〇円	六	一六	四三八円
醫療	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
助産	—	—	—	—	—	—	—	—	四三〇	—	—	—	—	—	—
埋葬	—	—	—	(一)	(八六)	八	(三)	(三)	二三	—	—	—	—	—	—
合計	四	四	二三八	二三	八六	一、七六〇	六九四	二、五五五	四三、二六六	三	七	二〇円	六	一六	四三八円

【第六三表】行旅病人・死亡人（昭和十一年度）

種別	行旅病人	行旅死亡人
新ニ救護ヲ受ケタル者	三五	一〇
死亡者	六	一〇
年末現在	一〇	—
金額	五四三円	一一四
病死	九	八
變死	九	三七
計	一八	四五
金額	二一一五円	五二六
住所詳ナル者	三五	一〇
住所詳ナラザル者	四	—
計	三九	一〇
金額	一七一	六五七
住所詳ナル者	九	八
住所詳ナラザル者	三七	二
計	四六	一〇
金額	六三	七五一

【第六四表】救護法ニ依ル救護（昭和十一年）括孤内ノ計數ハ他ト重複ノモノヲ示ス

種別	生活扶助	醫療	助産	生業扶助	埋葬
居宅收容	一七九円八	一、六八九	三六、三五〇円	二、七〇六円	一、八四九円
居宅收容	五八五円九	六五	一、〇六一円	三〇	七円
居宅收容	—	一九四	—	一二	三四円
居宅收容	—	—	—	—	—
居宅收容	—	—	—	—	—
居宅收容	—	—	—	七	五円
居宅收容	—	—	—	—	—
居宅收容	—	—	—	—	—
居宅收容	—	—	—	—	—

【第六六表】　愛國婦人會栃木縣支部　（昭和十一年末現在）

特別維持會員	二八七	特別會員	四、四四八	通常會員	二二、二三〇
賛助員	一六七	計	二七、一三二		

【第六七表】　帝國軍人後援會栃木縣支會　（昭和十二年末）

會員數							
有功會員	四四	特別會員	一、六一一	賛助會員	二、八九七	救護戸數	四、四六七戸
特殊會員	二六二	通常會員	五、一七四	計	九、九八八	救護人員	二二、四九三人
救護費	六五、二〇〇円						

目的　專ラ軍事扶助ニ該當セザル軍人及其遺家族ノ生活保護其ノ他ニ任ス

移民　本縣よりの滿洲移民は昭和十二年十二月末日現在に於て第一次移民十三戸三十五人、第二次移民十三戸二十六人、第三次移民なし、第四次移民九戸十六人、第五次移民二十四戸三十三人、第六次移民なし、第七次移民先遣隊十九戸十九人あり。尙昭和十一年中に於ける海外への移民者は三人にして孰れもフイリツピンへ移民せるものなり。

八、警　察

警察　昭和十一年末現在警察官署は警察署十七、警部補派出所二、巡査部長派出所十四、巡査派出所二十八、請願巡査派出所十、巡査駐在所三百二十二にして、之に配置せらるゝ警察官は（縣廳の分を含む）警視五、警部二十一、警部補六十、巡査部長百三、巡査六百五十七なり。

火災　本縣の火災は雷火の加はるありて比較的多く損害亦尠からず。昭和十一年中には三百二十五度、損害額八十六萬五千四百九十七圓に達し、前年に比し五十七萬八千百五十圓の增加を見たるは縣廳舍災害の結果に基因す。之を月別に見るときは三月の四十七度最も多く一月の四十一度之に亞ぐ。

犯罪　昭和十一年中に於ける管内發生刑法犯件數は一萬五千百件にして、之に對する檢擧件數は一萬五千三百六十九件に達す。罪種の主なるものは窃盜罪にして六千六百四十五件（四三・九三％）に上ぼる。尙同年中の盜難金額は三十二萬三千二百二十一圓なり。

【第六八表】　警察區劃　（昭和十一年）　×警察調査

警察署	派出所 警部補	派出所 巡査部長	派出所 巡査	巡査駐在所	×所轄 戸數	×所轄 人口	受持巡査一人擔當 市部 戸數	受持巡査一人擔當 市部 人口	受持巡査一人擔當 郡部 戸數	受持巡査一人擔當 郡部 人口
一七	二	一四	三八	三二二	二一五、八三一	一、二〇七、一〇四	三五三	一、七七四	四七五	二、六九四

【第六九表】警察官（昭和十一年末現在）

警視	警視部輔				
課長	署長	課長・署長	課・署僚	署長派出所	課・署僚	巡査部長	巡査
二	三	一六	五	一	二	五七	一〇三	六五七

【第七〇表】火災（昭和十一年）

年次	失火	放火	雷火及不審火	住家全焼	住家半焼又ハ消止	焼失建坪（平方米）	家屋及物品損害見積総額
昭和十一年前年	二七四	八	四三	二九三	二九	五二、〇八一	八六五、四九七円
	二八一	二一	一三	二四七	一九	三〇、一一四	二八七、三四七

月別	失火	放火	雷火及不審火	計	前年
一月	四〇	一	一	四一	三六
二月	二二	一	三	二六	三〇
三月	四四	二	一	四七	四二
四月	二八	一	二	三一	三二
五月	二九	一	一	三〇	三〇
六月	一三	一	一	一四	二五
七月	一二	一	一三	二五	一三
八月	一八	一	一一	二九	二〇
九月	一三	一	七	二一	二四
十月	一三	一	一	一四	一六
十一月	一八	一	三	二一	二一
十二月	二四	二	一	二六	二七
計	二七四	八	四三	三二五	三一五

【第七一表】犯罪（昭和十一年）

種別	發生件數	檢擧件數	種別	發生件數	檢擧件數
刑法	一五、一〇〇	一五、三六九	其ノ他ノ法令違犯	五、六一五	五、六一五
警察犯	九三七	九三七	計	二七、四六三	二七、七三二
處罰令（省令ニテ定メタル）	二六〇	二六〇	前年	三一、五〇七	三二、二八二
處罰令（縣令ニテ定メタル）					
縣令違反	五、五五一	五、五五一			

【第七二表】盜難物（昭和十一年）

年次	貨幣	穀類	衣類	其ノ他ノ	金額計
		數量	代價	數量	代價		
昭和十一年前年	二一〇、四七八円	一一、五〇八円	二、一七七	一一、三七九円	八九、八五六円	三二三、二二一円
	二一一、五〇六	一三、三九二	二、二六五	一五、二四三	八四、六四〇	三二四、七八一

【第七三表】警察賞與（昭和十一年）

種別	警察事務ニ從事スル者 人員	警察事務ニ從事スル者 金額	職務ノ爲ニ非ラサル者 人員	職務ノ爲ニ非ラサル者 金額	計 人員	計 金額
捜査・檢擧・逮捕	七六六	八七五円	二七	三七円	七九三	九一二円
人命救助・保護・災害・災害防禦・救護	二	二	一九五	二八三	一九七	二八五
其他	一五	二七	一	一	一五	二七
前年計ノ	七八三	九〇四	二二二	三二〇	一、〇〇五	一、二二四
	九七三	七〇六	一六五	一九七	一、一三八	九〇三

九、衛生

衛生

死亡者死因　昭和十年中の死亡者一萬九千六百十三人を各死因に就き見るときは下痢及腸炎に因るもの最も多く、一四・五八％（二千八百六十人）を占め、腦出血・腦栓塞に因るもの之に亞ぎ一一・二九％（二千二百十五人）を占む。

傳染病患者　昭和十一年中の法定傳染病發生患者數は千三百二十一人にして、ヂフテリアの四百八十二人（三六・四九％）最も多く、赤痢及疫痢の三百三十一人（二五・〇六％）腸チフスの三百二十四人（二四・五三％）等之に亞ぐ。而して之が死亡者數は三百二十二人（二五・八九％）なり。

衛生機關　昭和十一年末に於ける縣下の病院數（傳染病院を除く）は四十四にして、醫師は六百九人、齒科醫師は二百五十五人、藥劑師は百九十七人、産婆は六百一人、看護婦は千六百七十二人を算す。醫師一人に對する現在人口は千九百八十一人、産婆一人に對する出生兒（死産を含む）數は七十六人なり。

健康保險　昭和十二年三月末現在に於ける健康保險適用工場數は千五百一、被保險者數は二万二千七百五十六人にして、同年度中健康保險の給付は六万百六十五件、給付額六万千六百二十五圓なり。

【第七四表】　死亡者死因（統計局發表中分類）（昭和十年）

死因別	死亡者 男	死亡者 女	死亡者 計	死因別	死亡者 男	死亡者 女	死亡者 計
腸チフス	二五	三二	五七	肺炎	九七四	八六二	一、八三六
癩疹	一一七	九七	二一四	肋膜炎	一七二	一一四	二八六
百日咳	一二三	一六七	二九〇	胃及十二指腸ノ潰瘍	一三七	五四	一九一
ヂフテリア	四二	四四	八六	下痢及腸炎（三才未滿）	六九六	六五二	一、三四八
流行性感冒	二一	一三	三四	同（三才以上）	七〇五	八〇七	一、五一二
赤痢及疫痢	一二七	一〇一	二二八	腎臟炎	三七三	四三二	八〇五
呼吸器ノ結核	五九六	四八五	一、〇八一	畸形及先天性弱質	五七六	四五五	一、〇三一
腦膜炎	三五八	三八四	七四二	老衰	四八三	六七二	一、一五五
腦出血・腦栓塞	一、二四九	九六六	二、二一五	自殺	一七八	九九	二七七
氣管支炎	二七二	二四二	五一四	不慮ノ傷害	三一一	一五三	四六四

【第七五表】傳染病（昭和十一年）

死因別	死亡者 男	死亡者 女	死亡者 計	死因別	死亡者 男	死亡者 女	死亡者 計
其ノ他	二、六八四	二、五六三	五、二四七	前年	一〇、六九六	九、五三〇	二〇、二二六
計	一〇、二一九	九、三九四	一九、六一三				

種別	患者 發生數	患者 人口千ニ付	死亡者 死亡者數	死亡者 患者百ニ付
赤痢及疫痢	三三一	〇・二七四	一七二	五一・九六
腸チフス	三二四	〇・二六九	四六	一四・二〇
パラチフス	八四	〇・〇七〇	四	四・七六
猩紅熱	九七	〇・〇八〇	三	三・〇九
ヂフテリア	四八二	〇・三八〇	九六	一九・九二
流行性腦脊髓膜炎	三	〇・〇〇二	一	三三・三三
前年計	一、三二一	一・〇九五	三二二	一四・三八
	一、三三七	一・二二〇	三六九	二七・六〇

【第七六表】公立病院（傳染病院ヲ除ク）（昭和十一年）

【第七七表】私立病院（昭和十一年）

名稱	所在地	診療スヘキ科名	病床數	入院患者 前年ヨリ越	入院患者 本年入	同上延人員
縣立宇都宮病院	宇都宮市	一般	一三八	六九	一、三四二	三二、一八三
市立宇都宮旭病院	同一	一般	一八	一〇	五三四	二、三五二
縣立診療院	宇都宮、佐野、大田原	花柳病	五九	八	一六八	四、八二七
市立宇都宮療養所	城山村	結核	三〇	三〇	四九	一〇、二九九

病院數	病床數	患者 前年ヨリ越	患者 本年入	同上延人員	備考
三八	八二二	二五四	四、九四四	九八、七七六	市部ニアルモノ 十四 町村部ニアルモノ 二十四

【第七八表】醫師（昭和十一年末）

性別	總數 大學卒業	總數 官公私立醫學專門學校卒業	總數 外國學校卒業	總數 試驗及第	總數 奉職履歷	總數 從來開業	總數 計	同上中診療ニ從事スルモノ 市部	同上中診療ニ從事スルモノ 町部	同上中診療ニ從事スルモノ 村部	同上中診療ニ從事スルモノ 計
男	一三〇	二九三	一	一六七	一	二	五九二	一六二	二五九	一六八	五八九
女	一	一六	一	一	一	一	一七	六	七	三	一六

【第七九表】　齒科醫師（昭和十一年末）

性別		總數	同上中診療ニ從事スルモノ
指定私立齒科醫學專門學校試驗及第計	男	一三八	市部
	女	一三	町部
		九七	村部
		七	計
		二三五	市部
		二〇	町部
		八四	村部
		五	計
		二二七	市部
		一三	町部
		二四	村部
		二	計
		二三五	市部
		二〇	町部
		八六	村部
		一七	計
		二三	市部
		七	町部
		二	村部
		一	計

【第八〇表】　藥劑師（昭和十一年末）

性別		總數	同上中
官公私立藥學專門學校卒業試驗及第計	男	七四	病院其ノ他ノ診療所ニ於テ調劑ニ從事スルモノ
	女	二四	
		九五	賣藥營業ノミニ從事スルモノ
		四	
其ノ業務ニ從事スルモノ市部		一六九	
		二八	
町部		五〇	
		五	
村部		八六	
		一六	
		七	
		一	
		二三	
		七	
		二	
		一	

【第八一表】　產婆・看護婦（昭和十一年末）

種別		總數	同上中
指定學校若ハ講習所卒業試驗及第從來開業限地開業計	產婆	二八	市部
		五六八	町部
		四	村部
		一	計
	看護婦	一、六六一	市部
		準看護婦	町部
		一一	村部
		二三五	計
		二五五	市部
		六〇一	町部
		一一一	村部
		二三五	計
		六〇一	市部
		一、六七二	町部
		看護人	村部
		一	計

【第八二表】　健康保險（昭和十一年度）

年次	法適用工場數	被保險者數	給付（昭和十一年度中）件數 男	件數 女	日數 男	日數 女	費用額 男	費用額 女
昭和十一年度	一、五〇一	二二、七五六	三二、四八七	二七、六七八	四一一、六五一	三四三、九五八	三八、四二〇円	二二三、二〇五円
前年度	一、五一〇	二一、八八九	二四、五五八	二八、〇〇二	三三九、七六八	三二九、〇七五	三五、四五八	二二、一八五

一〇、財政

財政　昭和十二年度縣費豫算總額は八百九萬二百三十二圓にして、其の內經常部費は歲入に五百七十六萬五千五百七十七圓、歲出に四百三十四萬三千七百四十六圓を包含す。縣費歲出中最も多額を占むるは教育費の九十六萬二千八百三圓（一一・九〇％）にして、之に亞ぐは警察費九十三萬二千八百三十七圓（一一・五三％）なり。

市町村費豫算總額は千二十五萬七千百十九圓にして一市町村平均五萬七千九百五十圓を示せり。

昭和十一年度に於ける本縣の國稅調定濟額は六百八十四萬七千百五十圓、內直接國稅二百八十三萬八千七百四十一圓、間接國稅四百萬八千四百九圓にして、昭和十二年度豫算に於ける本縣縣稅總額は四百十二萬六千六百二十五圓、市町村稅額は四百九十七萬二千九百七十四圓なり。之を一世帶に付見るときは直接國稅十三圓四十六錢、縣稅十九圓五十六錢、市町村稅二十三圓五十八錢なり。

昭和十一年十月一日現在縣有財產は土地六十七萬五千二百三十四坪、縣有林七百二十九町六段、建物五萬七千三百十一坪、金圓其の他三百九十萬七千二百九十五圓にして、市町村の基本財產は全般に屬するもの六百二十四萬六千五百五圓、特定に屬するもの二百十九萬三千七百三十五圓なり。尙縣下昭和十一年度末現在に於ける地方債は千九百四十二萬六千六百二十六圓にして內縣債千百三十二萬四千二百圓、市債三百十六萬千二百圓、町村債四百五十八萬三千三百四十二圓、水利組合債三十五萬七千八百八十四圓なり。

【第八三表】縣市町村豫算額（當初豫算）

種別	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度
縣	八、〇九〇、二三二円	六、九五六、二八五円	六、七五六、二八〇円	九、〇七五、四四六円
市	二、一四四、二二七	一、三四九、五三五	一、三八八、四七五	一、三六二、〇八三
町	八、一一二、八九二	九、一〇一、〇五四	七、六二一、二四九	七、六二四、四八一
村	一、三四七、三五一	一七、四〇六、八七四	一五、七六六、〇〇四	一八、〇六二、〇一〇
合計				

【第八四表】縣豫算歲入細別

種別	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度
稅				
地租附加稅	一、五六一、二七三円	一、五七六、七三一円	一、五九二、二三〇円	一、六〇六、七五五円
特別地稅	一三七、一六〇	一三六、一八四	一三五、五三一	一三七、七三一
營業收益稅附加稅	二三四、七二一	二二三、七二〇	二一七、五八六	二一四、六三四
所得稅附加稅	二七六、二〇八	二四二、九三九	二三三、八六二	二一八、二九七
鑛業稅附加稅	九、三九六	九、〇二二	八、九八三	八、七七二
家屋稅	八二六、三二六	八〇五、三二六	八〇五、三二六	八〇五、三二六
營業稅	一四三、三一一	一四二、三七〇	一四三、八〇九	一四四、四五八
雜種稅	九三八、一三〇	八九八、五二一	八九〇、九六三	八九六、七四一
計	四、一二六、六二五	四、〇三四、八一三	四、〇二八、二九〇	四、〇二二、七一四
財產收入	四五、六四七	四〇、〇五七	三九、六四六	四、一八七
國庫下渡金	一五六、五一九	一四〇、三九八	一三九、三九五	一三一、三四五
國庫補助金	六三三、八一五	三九七、七一六	二九一、一二九	二、一九一、九六七
使用料・手數料	三七七、〇五七	三〇七、八三八	三〇三、八六九	二七二、二五〇
寄附金	四七四、八一七	二〇六、九九五	二六一、九六七	一五四、八九三
其他	二、二七五、七五二	一、八二八、四六八	一、六九一、九八四	二、二八八、〇九〇

【第八五表】縣豫算歲出細別

種別	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度
合計	三、九六三、六〇七円	二、九二一、四七二円	二、七二七、九九〇円	五、〇四二、七三二円
計	八、〇九〇、二三二	六、九五六、二八五	六、七五六、二八〇	九、〇七五、四四六
警察費	九三二、八三七円	九二六、六三四円	九〇三、六三三円	八三九、七六三円
土木費	六四九、六〇二	六三五、四〇七	五六六、四一九	五四六、八〇六
會議費	三四、一四〇	三四、一二四	三二、二九八	三二、二九八
衞生及病院費	五一、三九〇	四九、八〇七	四七、一二七	四四、三五三
教育費	九六二、八〇三	九六〇、三一八	九七二、七四五	九五六、八六六
勸業費	三五二、〇三三	三〇二、九七二	三〇二、〇二五	三〇三、二七〇
社會事業及社會教育費	五二、〇〇一	三五、六五九	一二、四六四	一二、四六四
縣稅取扱費	一三七、〇三八	一三三、七九三	一二九、六六六	一二〇、二四五
縣職員費	七〇三、八二八	六八〇、一八六	六七三、五〇三	六四六、六四一
各廳舍建築費	二、四〇〇	八、七一〇	二、四〇〇	三、四〇〇
各廳舍修繕費	一〇、七四四	五、四九七	一二、二七四	一一、五〇七

【第八六表】市町村豫算歲入細別

種別	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度
縣債	一、一二六、六〇六	一、一七二、三三九	一、一二六、五〇一	一、一二二、一八九
衞生費	三〇、四八八	三二、四八八	二〇、九八八	二〇、九八八
補助費	一五、七八〇	一六、六三〇	四五、五五二	五〇、五五二
教育費	一〇四、九五〇	一〇〇、六〇八	九六、九八一	八八、七四〇
勸業費	三五、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
土木費	一一八、一四九	九五、二三四	五三、五六一	五〇、八九七
助成費	三〇四、三六七	二七四、九六〇	二二七、〇八二	二二一、一七七
其他	二、七七〇、四四三	一、七三五、八七九	一、六二三、一四三	四、一一五、四六七
計	八、〇九〇、二三二	六、九五六、二八五	六、七五六、二八〇	九、〇七五、四四六
御下賜金	七、五七一円	七、五八六円	七、五五二円	二一、六八〇円
市町村稅	四、九七二、九七四	四、六五九、一二九	四、五〇九、二四一	四、三三五、六八一
財產收入	二一二、二八三	二一九、〇三八	二三七、九〇〇	二一五、八七四
使用料及手數料	六九一、一一〇	五二〇、〇二八	四九一、六九四	四七八、五二三
徵收國稅	九九、三八四	七七、二三一	七五、五〇〇	七四、二二二
交付金縣稅	九四、九二五	九三、三八一	九一、六三〇	八九、三六一

【第八七表】市町村豫算歳出細別

種別	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度
國庫下渡金及補助金（水利組合其他）	二七、二七〇円	一、三一〇円	一、二二八円	九四八円
縣費補助	一、六五九、七五八	一、六八四、四五三	一、七五一、四〇四	一、七六六、九一五
寄附金	一九三、一五四	一七五、五九六	一七七、二三三	二七九、二四二
市町村債	一〇九、九一二	七二、五五八	七一、二七四	八七、三一八
雜收入其他	五一七、九一四	一八九、一二〇	二九〇、二〇六	四三四、二九〇
前年度繰越金	一、四三〇、七九九	一、二一一、八三五	一、一一四、〇九一	一、〇一五、八七〇
計	二四〇、〇六五	一八九、七八九	一九〇、七七一	一八六、六四〇
	一〇、二五七、一一九	九、一〇一、〇五四	九、〇〇九、七二四	八、九八六、五六四
役場（所）費	一、五三八、三九六円	一、四二七、八六六円	一、三九二、九五〇円	一、三七五、四四八円
會議費	五八、五九五	五三、九九一	五五、九八八	五〇、四三九
土木費	三一三、七三八	二二一、七八九	二四一、四八九	三〇五、五四〇
教育費	五、二二三、二一九	四、五七一、六一六	四、四四六、五〇一	四、五〇二、一六〇
衞生費	二五七、〇七七	一九九、三一〇	二一六、六五七	三六四、三六一

種別	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度
勸業費	六五、三六四	四四、三五八	四六、四三三	四六、三三七
補助及寄附金	二三五、七四八	一九八、三五四	二一〇、六二六	二〇一、〇三三
醫療費	二三八、六七七	二三一、一四〇	二〇〇、六〇六	二一九、二六六
備產費	三七、〇八三	三二、七三三	三八、二八〇	三四、四八八
財產費	六一四、六八五	六八九、八一六	六七六、五九六	六四〇、八五五
公債費	一二三、一六一	一一二、八八一	一〇六、八一六	一〇七、三四七
豫備費	一、五五一、三七六	一、三一六、二〇〇	一、三七六、七八二	一、一三九、二九〇
雜支出其他	一〇、二五七、一一九	九、一〇一、〇五四	九、〇〇九、七二四	八、九八六、五六四

【第八八表】租稅・負擔（直接國稅ハ昭和十一年度調定濟額其ノ他ハ昭和十二年度當初豫算額トス）

稅目	縣稅 直接國稅 稅額	縣稅 直接國稅 一戶當	縣稅 直接國稅 一人當	縣稅 市町村稅 稅額	縣稅 市町村稅 一戶當	縣稅 市町村稅 一人當
	円	円	円	円	円	円
地租	一、一八四、五九三	五・六二	〇・九八	一、五六一、三七三	七・四〇	一・二九
所得稅	九二〇、六八二	四・三六	〇・七六	二七六、二〇八	一・三一	〇・二三
鑛業稅	一一五、一七六	〇・五五	〇・一〇	九、三九六	〇・〇四	〇・〇一
相續稅	二〇六、一四五	〇・九八	〇・一七			
資本利子稅	三四、五五〇	〇・一六	〇・〇三			
營業收益稅	三二四、三一〇	一・五四	〇・二七	二三四、七二一	一・一一	〇・一九
臨時利得稅	五三、二八五	〇・二五	〇・〇四			
役場費	一、五三八、三九六円	六、四三三	四六、三三七	四四、三五八	四六、四三三	四六、三三七
會議費	五八、五九五	二一〇、六二六	二〇〇、六〇六	一九八、三五四	二一〇、六二六	二〇一、〇三三
土木費	三一三、七三八	三八、二八〇	二一一、七八九	二三一、一四〇	三八、二八〇	二一九、二六六
教育費	五、二二三、二一九	六七六、五九六	四、四四六、五〇一	三三、七三三	六七六、五九六	六四〇、八五五
衞生費	二五七、〇七七	一〇六、八一六	二一六、六五七	六八九、八一六	一〇六、八一六	一〇七、三四七
勸業費	六五、三六四	一、三一六、二〇〇	一、三七六、七八二	一、三一六、二〇〇	一、三七六、七八二	一、一三九、二九〇
補助及寄附金	二三五、七四八	一二二、八八一	一一二、一六一	九、一〇一、〇五四	九、〇〇九、七二四	八、九八六、五六四
醫療費	二三八、六七七					
備產費	三七、〇八三					
財產費	六一四、六八五					
公債費	一二三、一六一					
豫備費	一、五五一、三七六					
雜支出其他	一〇、二五七、一一九					
計						

【第八九表】 間接國税 （昭和十一年度調定濟額）

税目	直接國税			縣税			市町村税		
年	税額	一戸當	一人當	税額	一戸當	一人當	税額	一戸當	一人當
前	二、八三八、七四一円	一三・四六円	二・三五円	一四三、三一一円	〇・六八円	〇・一二円	一二二、三六三円	〇・五八円	〇・一〇円
縣税				八二六、三二六	三・九二	〇・六九	四二三、四五七	二・〇一	〇・三五
家屋税				九三八、一三〇	四・四五	〇・七八	八四八、二八九	四・二一	〇・七〇
雜種税							二、三六〇、五五九	一一・一九	一・九五
戸數割税				一三七、一六〇	〇・六五	〇・一一	六三、一〇四	〇・三〇	〇・〇五
特別地税							一〇〇、八四二	〇・四八	〇・〇八
特別税							二二・五八	四・一二	三・九〇
計	二、八三八、七四一円	一三・四六円	二・三五円	四、一二六、六二五	一九・五六円	三・四二円	四、九七二、九七四	二一・八七	三・九〇
前	二、七四八、九二三	一二・九〇	二・三〇	四、〇三四、八一三	一八・九四	三・三八	四、六五九、一二九		

【第九〇表】 縣有財産 （昭和十一年十月一日現在）

税目	税額	一戸當	一人當
酒清涼飲料税	二、三七九、八三三円	一一・二八円	一・九七円
織物消費税	五五、一六〇八	〇・二六	〇・〇五
前計	一、五七三、〇六八	七・四六	一・三〇
年	四、〇〇八、四〇九円	一九・〇〇円	三・三二円
前	三、九五五、七九七	一八・五七	三・三一

年次	物件	土地	建物	縣有林	預金	現金	諸公債券	其ノ他	計
昭和十一年	金額	六七五、二三四坪	五七、三一一坪	七二九・六町	一、八二一、〇三五円	三四〇、五一七円	一、三五八、七〇〇円	三八七、〇四三円	三、九〇七、二九五円
前年		六〇八、九三四	五七、九三七	七二九・六	一、四五四、八八六	六二一、五二五	一、四五八、八五〇	一、二八三、一〇三	四、八一八、三六四

【第九一表】 市町村基本財産 （昭和十二年三月末日現在）

（一） 市町村經濟全般ノ爲ニ設備スルモノ

種別	土地價額	立木價額	建物價額	諸公債株券	現金	其ノ他	計
郡部	八四九、三七七円	一一、四六〇円	三三、七八六円	一四一、九五四円	七八五、七九九円	六、九六〇円	一、八二九、三三六円

（二） 特定ノ目的ノ爲ニ設備スルモノ

種別	土地價額	立木價額	建物價額	諸公債株券	現金	其ノ他	計
郡部	二、八七八、四〇二円	一六〇、九九四円	二三四、七五八円	三四一、八六〇円	一、四七八、九〇八円	一八、五九九円	五、一一三、五二一円
市部	九五四、六三〇			三八、五九五	一三九、七五九		一、一三二、九八四
計	三、八三三、〇三二	一六〇、九九四	二三四、七五八	三八〇、四五五	一、六一八、六六七	一八、五九九	六、二四六、五〇五
前年	三、九〇七、〇四一	一七一、三二三	四四、七九二	二八六、五二六	一、六二〇、九九八	一八一、八八九	六、二一二、五六九

【第九二表】地方債（昭和十二年三月末日現在）（轉貸債ヲモ含ム）

種別	土地價額	立木價額	建物價額	諸公債株券	現金	其ノ他	計
市部前年計	五六八円	一、四六〇円	三三、七八六円	七六、八一〇円	二八七、〇二一円	六、九六〇円	三六四、三九九円
	八四九、九四五	一一、四六〇	三三、七八六	二、八七六、四	一、〇七二、八二〇	六、九六〇	二、一九三、七三五
	八七一、八七三	五一、七七八	四、三四八	一五一、五六五	一、〇三三、一三五	七三、四九八	二、一八六、一九七

事業別	縣債	市債	町村債	水利組合債	計
教育費	円	四〇八、八〇〇円	八四二、七七六円	円	一、二五一、五七六円
衛生費		八〇九、二一七	一八四、一〇九		九九三、三二六
水道事業費		一、三七一、九八三	一五〇、五七五		一、五二二、五五八
勸業費	三二、〇〇〇		一、五一六、三九四		一、五四八、三九四
災害土木費	三、六八一、八〇〇		一三、三三六	六六、〇〇〇	三、七六一、一三六
普通土木費	三、一一一、九〇〇	一四四、九〇〇	四〇二、〇〇〇	二九一、八八四	三、九五〇、六八四
電氣事業費			一六、五〇〇		一六、五〇〇
社會事業費	五一六、五〇〇	一三八、三〇〇	一、一三五、二三三		一、七九〇、〇三三
產業振興及失業救濟事業費	一、四五三、六〇〇				一、四五三、六〇〇
農村振興土木事業費	一、六三五、三〇〇		三〇、〇〇〇		一、六六五、三〇〇
農業土木事業費	一六五、六〇〇				一六五、六〇〇
災害其ノ他應急事業施設費	二三、〇〇〇				二三、八〇〇
農村其ノ他應急土木事業費	三五八、八〇〇	二八八、〇〇〇	九、〇六九		三六七、八六九
舊債償還費			一四二、四四五		四三〇、四四五
其ノ他	三四五、七〇〇		一四〇、一〇五		四八五、八〇五
前年計	一一、三二四、二〇〇	四、五八三、三四二	四、九六六、一三〇	三五七、八八四	一九、四二六、六二六
	一一、〇三七、〇〇〇	二、二八七、九一五	二、一六一、二〇〇	二八〇、七六六	一八、五七一、八一一

一一、議會

議會

本縣の選擧有權者は昭和十年の縣會議員選擧に於て二十二万千六百五十一人、同十二年の衆議院議員選擧に於て二十三万七千二百二十人を示せり。尙昭和十一年末現在議員の定數は貴族院一人、衆議院九人、縣會三十七人、市會九十六人、町會七百人、村會二千百三十人にして參事會員の定數は縣十人、市三十人なり。

【第九三表】衆議院議員選擧（昭和十二年四月三十日執行）

開票區別	選擧人名簿登載人員數	失格者數	有權者數	投票者數	棄權者數	棄權歩合	前回棄權歩合
第一區 宇都宮	一六、一五六	二一四	一五、九四二	一三、四四八	二、四九四	〇・一五六	〇・一四〇
河内	二三、三一九	三二九	二二、九九〇	一八、六〇二	四、三八八	〇・一九〇	〇・一九一
上都賀	三一、〇〇六	四五八	三〇、五四八	二四、七七五	五、七七三	〇・一八八	〇・一七二
鹽谷	一八、五〇七	二三四	一八、二七三	一四、六三八	三、六三五	〇・一九八	〇・一八四
那須（大田原）	二一、一六〇	二八九	二〇、八七一	一五、四一六	五、四五五	〇・二六一	〇・二〇七
那須（烏山）	一四、二三九	一九七	一四、〇四二	一一、二二五	二、八一七	〇・二〇〇	〇・二〇三
計	一二四、三八七	一、七二一	一二二、六六六	九八、一〇四	二四、五六二	〇・二〇〇	〇・一八三
第二區 足利	九、二〇一	一三三	九、〇六八	七、八六三	一、二〇五	〇・一三二	〇・〇八六
栃木	六、二九〇	一〇二	六、一八八	五、一九八	九九〇	〇・一五九	〇・一七四
芳賀	二五、六七七	三五七	二五、三二〇	一九、七〇二	五、六一八	〇・二二一	〇・二一八
下都賀（栃木）	一七、八四三	二八三	一七、五六〇	一三、三五四	四、二〇六	〇・二三九	〇・二三八
下都賀（小山）	二〇、八六二	二五五	二〇、六〇七	一七、〇一五	三、五九二	〇・一七四	〇・一九一
安蘇	一九、五七三	二七〇	一九、三〇三	一四、四二六	四、八七七	〇・二五三	〇・一五九
足利	一六、七二九	二二一	一六、五〇八	一四、一九六	二、三一二	〇・一四〇	〇・一一七
計	一一六、一七五	一、六二一	一一四、五五四	九一、七五四	二二、八〇〇	〇・一九九	〇・一八一
合計	二四〇、五六二	三、三四二	二三七、二二〇	一八九、八五八	四七、三六二	〇・一九九	〇・一八一

【第九四表】縣會議員選擧（昭和十一年九月）

郡市別	確定人員	失格者數	有權者數	投票者數	棄權者數	棄權歩合
河内	二二、六四五	七二九	二一、九一六	一六、六九二	五、二二四	〇・二三八
上都賀	二九、四六三	一、三二四	二八、一三九	二二、三九八	五、七四一	〇・二〇四
芳賀	二四、九一五	七五八	二四、一五七	一八、八〇〇	五、三五七	〇・二二二
下都賀	四三、五四二	一、二六五	四二、二七七	三〇、九一六	一一、三六一	〇・二六九
鹽谷	一七、六五九	五七四	一七、〇八五	一三、五四五	三、五四〇	〇・二〇七
那須	三三、九五七	一、〇三六	三二、九二一	二五、〇三六	七、八八五	〇・二四〇
安蘇	一八、九一四	六八六	一八、二二八	一二、九五〇	五、二七八	〇・二九〇
足利	一五、六四四	五六六	一五、〇七八	一二、三一三	二、七六五	〇・一八三
宇都宮	一四、八五五	七五一	一四、一〇四	一一、一七二	二、九三二	〇・二〇八
足利	八、一九二	四四六	七、七四六	六、四七五	一、二七一	〇・一六四
計	二二九、七八六	八、一三五	二二一、六五一	一七〇、二九七	五一、三五四	〇・二三二

【第九五表】議會（昭和十一年末現在定員）

議員	
貴族院	一
衆議院	九
縣會	三七
市會	九六
町會	七〇〇
村會	二、一三〇

附錄

歷代本縣知事

任官年月日	在職年月數	氏名
明治元年六月四日	一三年五ヶ月	鍋島直彬
同一三年一〇月二九日	一三年一〇ヶ月	藤川義通
同一六年一〇月二三日	一五年二〇日	三島通庸
同一八年一二月一四日	一四年一二ヶ月	樺山資紀
同二三年一一月一七日	一〇年一〇ヶ月	折田平内
同二七年一一月二〇日	一三年一〇ヶ月	佐藤雄美
同三〇年一一月七日	一〇年八ヶ月	江木千之
同三三年一一月一九日	一二年一〇ヶ月	千頭清臣
同三五年一二月一三日	一〇年二ヶ月	萩野左門
同三七年一一月一八日	八年一ヶ月	溝口白巵
同三九年一二月二〇日	二年一〇ヶ月	菅井武
同四四年一二月二五日	四年二ヶ月	白藤美惟
大正三年六月五日	二年五ヶ月	久保田政周
同五年六月二六日	一三年一〇ヶ月	保田仁藏
同一一年一〇月一六日	一二年一〇ヶ月	仁井誠
同一三年一一月二三日	一〇年一〇ヶ月	田中巳代治
同一五年一二月二八日	一〇年一〇ヶ月	山田文次
昭和二年一一月二七日	一一年一〇ヶ月	藤岡直方
同三年一二月二九日	一〇年一〇ヶ月	木村立
同四年一一月一七日	一〇年一〇ヶ月	頭光
同四年一二月一五日	一〇年一〇ヶ月	野村軍
同五年一二月一六日	一〇年一〇ヶ月	部長
同六年一二月二〇日	一〇年一〇ヶ月	井上清
同七年一二月一八日	一〇年一〇ヶ月	鳥藏
同九年一二月二八日	一〇年一〇ヶ月	利吉
同一一年一二月一三日	一〇年一〇ヶ月	田朗
同一二年一二月一〇日	一〇年一〇ヶ月	岡織
同一四年一二月一七日	一一年一〇ヶ月	山一
同一五年一二月二〇日	一一年一〇ヶ月	府太郎
同一五年一二月二四日	一一年一〇ヶ月	總兵一
同一八年一二月二三日	一二年一〇ヶ月	太郎
同二〇年一二月二〇日	一二年一〇ヶ月	平春精
同二二年一二月一三日	一〇年一〇ヶ月	山惟樹
同二六年一〇月一六日	一〇年二ヶ月	大塚春
同二九年一一月二六日	一一年一〇ヶ月	藤岡廣
同三三年一一月二五日	一一年一〇ヶ月	別府信
同三五年一二月一六日	一一年一〇ヶ月	藤原義
同三七年一二月一九日	一一年一〇ヶ月	森從
同三九年一二月二八日	一一年一〇ヶ月	原朗
同四四年一二月二五日	一一年一〇ヶ月	淺織
同四四年一二月二七日	一一年一〇ヶ月	豐吉
同四四年一二月二七日	一一年一〇ヶ月	牛清
同四四年一二月二七日	一一年一〇ヶ月	萱藏
同四四年一二月二七日	一一年一〇ヶ月	松磨
同四四年一二月二七日	一一年一〇ヶ月	足收

歷代本縣々會議長

當選年月	氏名
明治三〇年一一月	榊原經武
同三二・一一	木村半兵衛
同三五・一二	岩崎團吉
同三六・一〇	關田嘉七郎
同四〇・一〇	關田嘉七郎
同四二・九	大和尚一
同四四・一〇	横尾輝吉
大正元・一一	田代周次郎
同四・一一	阿由葉勝作
同八・一〇	原田定助
同九・一〇	松永和一郎
大正一二・一一	高橋元四郎
同一三・一一	森田利一郎
昭和二・一〇	高山林藏
同三・一一	前澤木玄太
同四・一二	坪山彌德
同五・一一	大門恒作
同六・一〇	高山林藏
同七・一一	大門恒作
同九・一一	大岡恒次郎
同一〇・一一	佐久間渡
同一二・一一	菊地恒八郎

警察署管轄區域表

警察署名	位置	管轄區域
宇都宮警察署	宇都宮市	（宇都宮市）（河内郡）横川、瑞穗野、平石、雀宮、姿川、城山、國本、富屋、篠井、羽黑、絹島、古里、豐郷、田原
上三川警察署	上三川町	（河内郡）上三川、本郷、吉田、藥師寺、明治
栃木警察署	栃木市	（栃木市）（下都賀郡）皆川、寺尾、吹上、赤津、大宮、家中、國府、瑞穗、水代、富山、靜和、岩舟、小野寺、中南、犬飼、壬生、稻葉、豐田、部屋、寒川、生井、藤岡、三鴨、赤麻
小山警察署	小山町	（下都賀郡）小山、桑、絹、野木、間々田、大谷、穗積、國分寺、石橋、姿
佐野警察署	佐野町	安蘇郡町村全部
足利警察署	足利市	（足利市）足利郡町村全部
鹿沼警察署	鹿沼町	（上都賀郡）鹿沼、菊澤、北犬飼、北押原、南押原、西方、清洲、粟野、永野、粕尾、南摩、加蘇、東大蘆、西大蘆、眞名子、板荷
日光警察署	日光町	（上都賀郡）日光、今市、小來川、落合（河内郡）豐岡、大澤（鹽谷郡）栗山、藤原、三依
足尾警察署	足尾町	（上都賀郡）足尾
矢板警察署	矢板町	（鹽谷郡）矢板、泉、大宮、片岡、船生、玉生（那須郡）野崎
喜連川警察署	喜連川町	（鹽谷郡）喜連川、氏家、阿久津、熟田、北高根澤（那須郡）上江川

著名市街地概要

郡市	町名	昭和十年十月一日現在 世帯數	人口	宇都宮ヨリノ汽車	摘要
大田原警察署	大田原町	四、六〇三	二二、七九七	一四・三	警察署ノ所在地ニシテ郷社白鷺神社アリ桃ノ産地トシテ名高シ
烏山警察署	烏山町	一、〇四一	六、二五六	一四・一（外ニ陸路一里二〇町）	日光舊例幣使街道ノ一驛ニシテ警察署、税務署、高等女學校、鹿沼及新鹿沼兩停車場アリ又縣社今宮神社及御殿山公園アリ當地方ハ麻ノ産出地トシテ名高シ西方三里ニ在ル粟野町ノ城山公園ハ躑躅ノ名所ナリ
川西警察署	川西町				
黒磯警察署	黒磯町				
眞岡警察署	眞岡町				
茂木警察署	茂木町				

郡市	町名	昭和十年十月一日現在 世帯數	人口	宇都宮ヨリノ汽車	摘要
上河内郡	上三川町				
上	鹿沼町				
都賀郡	今市町	二、七〇一	一三、四七三	三三・九	日光街道ノ一驛ニシテ中學校、實業女學校、今市、上今市、下今市ノ各停車場ヲ有ス尚縣社報德二宮神社ノ所在地ナリ
	日光町	四、一一六	二一、四五二	四〇・五	國幣中社二荒山神社、別格官幣社東照宮、輪王寺及大猷院ノ所在地ニシテ觀光ノ客常ニ絶ユルコトナシ大小ノ旅館軒ヲツラネ土産ノ羊羹、漆器、刻物等ヲ賣ル家特ニ多シ御用邸、警察署、高等女學校、日光及東武日光兩停車場等在リ其ノ他帝國大學理學部日光植物分園、日光精銅所、スケートリンク、スキー場、中宮祠湖、華嚴瀧、男體山、日光溫泉等在リ
	足尾町	五、三九六	二五、四八四	一一・四	警察署ノ所在地ニシテ足尾銅山ヲ以テ名アリ勝地庚申山西北ニ峙テリ
芳賀郡	眞岡町	一、九四〇	一〇、三五七	六一・六	警察署、區裁判所、税務署、中學校、高等女學校、農學校及眞岡停車場等在リ縣社大前神社ハ延喜式ノ古社ニシテ櫻町陣屋跡ハ二宮尊德ガ小田原藩ヨリ櫻町興亡ノ復興ヲ命セラレ惡風ノ矯正ト開發ニ努メタルノ遺跡ナリ
	茂木町	一、七八九	八、六〇六	八七・一	警察署、字都宮專賣局出張所、農學校及茂木停車場等ノ所在地ニシテ縣下ニ於ケル葉煙草ノ産地ナリ荒樞神社境内ニ名木荒樞ノ樫アリ茂木城趾ノ眺望佳ナリ
	益子町	一、五七九	八、三六九	七〇・三	町立陶器傳習所アリ益子燒ヲ産ス
下都	石橋町	八三一	四、五〇四	一四・一	中學校及石橋停車場ノ所在地、縣下ノ特産タル干瓢ノ集散地トシテ知ラル

郡	町				
賀郡	小山町	二、六二〇	一四、一五四	二八・九	國有鐵道兩毛線及水戸線ハ此ノ地ニ於テ東北本線ヨリ分岐ス警察署及蠶業試驗場ノ所在地ニシテ鮎、繭、生糸ノ産地ナリ思川ハ納涼ト鮎漁ヲ以テ名アリ
鹽谷郡	矢板町	一、九二七	一〇、〇二五	三二・二	警察署、農學校及矢板停車場等在リ下野電氣鐵道亦此ノ地ヨリ發ス長峰公園ノ躑躅ハ上都賀郡粟野町ノ城山公園ト俱ニ花時上州館林ヲ凌駕スルノ壯觀ナリ
	氏家町	一、七五六	一〇、一一九	一七・六	高等女學校及氏家停車場ノ所在地勝山城趾アリ
	喜連川町	一、三九八	七、六六三（外ニ陸路一里三五町）	一七・六	警察署ノ所在地、葛城古戰場アリ
那須郡	大田原町	二、三六九	一一、七七八	四六・八	舊奥州街道ノ一驛ニシテ警察署、區裁判所、稅務署、中學校、高等女學校及大田原停車場等在リ蛇尾川ニ臨ミ大田原公園アリ
	黑磯町	一、三六六	七、三三〇	五三・七	警察署所在地ニシテ薪炭ノ移出多シ黑磯停車場ハ那須溫泉ヘノ下車驛トス縣立水産指導所アリ
	烏山町	一、六三〇	八、一三七	三二・一	和紙ノ産地ニシテ警察署及烏山停車場ノ所在地、毘沙門山ハ風光佳ナリ那珂川ハ夏時鮎漁ニ名アリ
	川西町	八九六	五、一一	五五・三	警察署及黑羽停車場ノ所在地、那珂川ノ清流東方ヲ洗フ尙白旗城址アリ
安蘇郡	佐野町	三、六九〇	一八、一七〇	四三・二	警察署、停車場等ノ所在地ニシテ縣下ニ於ケル有名ナル機業地ナリ又鑄物ヲ産ス鄕社朝日森天滿宮、佐野公園アリ

名勝舊蹟

郡	町				
田沼町	宇都宮市	二、四四六	一七、三五五	一	別格官幣社唐澤山神社在リ田沼停車場ヨリ二十八町往時小江戸ノ稱アリシ地ニシテ明治二十九年四月市制ヲ布キ東北本線ノ主要驛ニ衛リ又日光線ノ分岐點タリ東武宇都宮驛亦昭和六年八月ヨリ開通ス縣廳其ノ他官公署、十四師團ノ設置以來市勢頻ニ膨脹シ上水道完備セリ國幣中社二荒山神社、蒲生神社、宇都宮城址、八幡山公園等ノ名所アリ軍道ノ櫻ハ花時ノ曳杖地トシテ著ハル
	足利市	一二、八五四	八、九九九	四八、八七五	五四・八	大正十年一月市制ヲ施行シ警察署、區裁判所、稅務署、中學校、高等女學校、工業學校、工業試驗場及足利停車場等ノ所在地ニシテ近年上水道完備ス昭和九年今上陛下行幸ヲ在ラセラル足利織物ノ産出盛ニシテ足利學校及鑁阿寺等史上ノ遺蹟ト共ニ足利公園ノ名亦高シ
	栃木市	四九・四	六、一〇三	三一、三三五	二七・四	舊縣廳ノ所在地ニシテ警察署、區裁判所、稅務署、中學校、高等女學校、農學校、商業學校及栃木停車場等在リ絞類、繭、麻類、懷爐灰其ノ他ノ商取引盛ナリ大平山ハ海拔一千三百尺八州ノ原野ヲ一眸ニ收ム縣社大平山神社在リ錦着山ハ躑躅ニ名アリ昭和十二年四月市制ヲ施行ス

郡市別	名勝	所在地	摘要
河内郡	大谷觀音	城山村荒針	嵯峨天皇ノ御宇弘法大師ノ開基ニ係リ岩壁ニ丈六ノ千手觀音ヲ彫刻スト云フ坂東十九番ノ靈場ニシテ附近ニ御止山アリ多氣不動アリ奇景ニ富ミ小耶馬溪ノ稱アリ大谷石ヲ截切スル作業場亦到ルトコロニ在リ鑿音寺客遊子ノ耳ニ充ツ字都宮ヨリ二里十一町乘合自動車ノ便アリ
上都賀郡	日光田母澤御用邸及同附屬邸	日光町大字日光	總坪數三万九千坪明治三十二年ノ御竣工ニシテ日光一帶ノ翠巒玉窓ニ迫リ大谷ノ清流苑下ニ激スルノ淨境ナリ大正天皇特ニ當邸ヲ好マセタマヒ三笠宮殿下ガ御幼時所謂童謠ノ宮樣トシテ當邸ニ清純ノ詩興ニ耽ケラセタマヒシトコロナリ
	東照宮	同	德川家康ノ靈祠ニシテ別格官幣社ナリ元和三年駿河國久能山ヨリ改葬シ寛永十一年三代家光社殿ヲ整フ殿堂樓閣輪奐ノ美ヲ極ム國寶建造物トス日光驛ヨリ二十三町東武線日光驛ヨリ二十一町、電車、乘合自動車ノ便アリ
	輪王寺	同	下野第一ノ大寺ニシテ二十六院八十坊ヲ有セシガ維新後火災ニ罹リテ十二院三坊ニ減セリ大伽藍三佛堂アリ當寺ハ天臺宗ニシテ勝道上人ノ開基ニ係ル東照宮ヨリ三町
	二荒山神社	同	大己貴命外二神ヲ祀ル國幣中社ニシテ勝道上人ノ草創ニ係ル社殿、拜殿ハ國寶建造物ナリ東照宮ヨリ二町

		大猷院廟	同	一ニ三代廟トモ稱ス德川家光ノ靈廟ナリ堂宇悉ク金碧五彩ヲ以テ裝飾シ其ノ燦爛タル狀東照宮ニ讓ラズ國寶建造物ナリ二荒山神社ヨリ一町
		中宮祠湖	同	男體山ノ南麓ニ在リテ曾テ中禪寺湖ト稱ス周圍六里二町餘風景絶佳ナリ鯉鮏鱒鮭等繁殖ス湖中ノ上野島ニハ勝道上人ノ遺骸ヲ存スト傳フ湖畔ニ中宮祠及立木觀音アリ西北三里日光驛ヨリ四里五町馬返迄電車馬返ヨリ乘合自動車、ケーブルカーノ便アリ
		華嚴瀧	同	飛流直下三百二十三尺關東第一ノ名瀑ニシテ其ノ壯觀雄大ナルコト日光瀑布中ニ冠タリ源ヲ中宮祠湖ニ發ス最近瀧壺ニ至ル觀勝エレベーター開設セラレタリ此ノ地ヨリ中宮祠湖ニ至ル迄約二町
		報德神社	今市町今市	縣社ニシテ二宮尊德ヲ祀ル此ノ地ハ尊德ガ畢生ノ事業地ナルト俱ニ其ノ病歿地ナリ今市驛ヨリ三町
		古峰原神社	西大芦村草久	日光ノ東南ニ位シ崇敬者多キ神社ナリ鹿沼驛ヨリ七里十四町社前迄乘合自動車通ズ
	芳賀郡	專修寺	物部村高田	眞宗本濃ハ三國傳來ノ黃金三尊佛ニシテ境內七千百坪地域宏濶建築古雅規模壯麗ナリ寺內驛ヨリ一里十五町乘合自動車ノ便アリ
	下都賀郡	出流山觀音	寺尾村出流	出流山腹ニ在リ千手院滿願寺ト號シ眞言宗ニ屬ス勝道上人參籠ノ地ト云フ山中ニ石灰洞多ク鐘乳石、石筍簇出ス栃木驛ヨリ五里乘合自動車ノ便アリ

	岩舟山	山容奇趣アリ頂上ニ地藏尊ヲ安置ス信仰者多シ岩舟驛ヨリ八町
鹽谷郡	鹽原	溫泉ト紅葉トヲ以テ著ハレ箒川ノ清流ニ沿フ風光ノ妙ハ筆舌ノ盡ストコロニアラズ全域ニ亘リテ大網、福渡戸、鹽釜、壺ノ湯、畑下戸、門前、須卷、古町、新湯、湯本ノ十湯アリ全嶺ニ亘リテ七十瀑アリ妙雲寺ハ平重盛ノ姨妙雲禪尼ノ開基ニ係ル西那須野驛ヨリ五里十三町乘合自動車通ズ大部分弱壺類泉ナリ冬季スキー場トシテ好適地ナリ
	鬼怒川溫泉	鬼怒川ノ溪谷ニ沿ヒ各旅館何レモ川岸ノ岩壁ニ秀麗ナル山岳ヲ背景トシテ層樓ヲ設ケ座ナガラ雄大壯濶ナル風光ニ接シ得ル勝地ヲ占ム溫度四十度以上アリ
	佐貫石佛	鬼怒川ノ水源ニ沿ヒ南面セル突兀タル丘陵ノ壁面高サ百二十尺ヲ利用シ線彫ニテ現ハサレタル巨大ナル佛像ナリ弘法大師ノ作ト傳フ指定史蹟地船生驛ヨリ十四町乘合自動車ノ便アリ
	噴泉塔	鬼怒川ノ沿ヒ噴出口ノ周圍ノ沈澱堆積シタルモノニシテ高サ七尺ニ達スルモノアリ學術上貴重ノ資料トシテ大正十一年天然記念物ニ指定サル日光湯元ヨリ徒歩三里半
那須御用邸	那須村西ヶ原	總殿北ニ那須五峰南ニ八溝山、關山等ヲ望ム 今上陛下攝政宮殿下ニ在シマセルトキノ御造營ニシテ土地高爽空氣清澄

那須郡	及同附屬邸	ノ三年登極ノ大禮ヲ擧ゲサセタマフニ際シ文武百官ヨリ建設献納セル澄空、嚶鳴ノ二亭アリ尙附屬邸ハ昭和十年八月ノ御造營ナリ
	雲巖寺	須賀川村雲巖寺 大治年中初央和尙ノ開基ニ係ル臨濟宗ナリ惠心僧都作釋迦ノ座像ヲ本尊トス堂宇宏壯ニシテ古雅愛スベク境內亦幽邃ニシテ楓樹ニ富ミ脫塵ノ淨境ナリ境內ニ後嵯峨天皇ノ皇子佛國々師ノ御墓アリ黑羽驛ヨリ三里乘合自動車ノ便アリ
	那須國造碑	湯津上村湯津上 笠石神社ノ境內ニ在リ日本三古碑ノ一トシテ歷史上著名ナリ持統天皇ノ御宇ノ建設ニ係ルト云フ高サ四尺百五十二字ヲ彫メリ明治四十四年國寶トナル湯津上驛ヨリ二十町乘合自動車ノ便アリ
	那須溫泉	那須村湯本 湯本溫泉ハ海拔約九百米ノ高地ニシテ那須嶽ノ中腹ニ位スルヲ以テ仲夏ニ至リ早春ノ景艷陽ノ觀一時ニ輻輳スルノ奇觀アリ全域ニ亘リテ湯本ノ外新那須、高雄股、辨天、旭、大丸、八幡、北湯、三斗小屋、板室ノ九湯アリ傳說ノ殺生石ハ湯本ニ在リ黑磯驛ヨリ湯本迄四里九町乘合自動車ノ便アリ冬季ハスキー場トシテ名アリ
安蘇郡	唐澤山神社	唐澤山ノ絕嶺ニ在リ藤原秀鄕朝臣ヲ祀リ別格官幣社トス此ノ地ハ秀鄕ノ居城ニシテ眺望開豁袵席ノ下八州ノ沃野ヲ俯瞰スルコトヲ得秋季芋狩ト觀楓トヲ兼ヌル賽客多シ田沼驛ヨリ三十町山頂マデ自動車ヲ通ズ
	出流原	赤見村出流原 古ク磯山ト稱シ山頂ニ辨天堂アリ山麓ノ磯地ヲ中心トシテ附近奇景ニ富ミ納涼ノ好適地ナリ佐野驛ヨリ乘合自動車ノ便アリ

宇都宮市	二荒山神社	馬場町	市ノ中央ナル臼ケ峰ニ鎮座シ豐城入彦命ヲ祀ル國幣中社ナリ境内一千四百坪筑波、加波ノ兩山ヲ初メ天空清朗ノ日ニハ富岳ヲ遙見シ眺望甚ダ佳ナリ宇都宮驛ヨリ十一町東武宇都宮驛ヨリ五町
	宇都宮舊城址	旭町	市ノ南方宇都宮驛ヨリ十九町、東武宇都宮驛ヨリ約十町ノトコロニ在リ舊宇都宮氏ノ築ク所維新前ハ戸田家ノ居城ナリシモ今ハ僅ニ本丸ノ趾ヲ殘スノミナリ本丸ハ明治二十五年大演習ノ際明治天皇親臨酺ヲ賜リタルトコロニシテ今其ノ碑アリ
	鐵塔婆	清水町	清巖寺境内ニ在リ六百餘年前宇都宮第八代ノ城主母ノ十三回忌ニ際シ東勝寺ニ建立セシヲ同時ノ廢滅後當寺ニ移セシモノナリ高サ一丈八寸六分、幅一尺、厚サ二寸、重量五百斤明治四十四年八月國寶トナル宇都宮驛ヨリ六町
	蒲生神社	塙田町	八幡山公園内ニ在リ蒲生君平ヲ祀ル地域高燥遙カニ日光ノ連峯ヲ俯瞰シ清爽ノ氣ニ充テリ宇都宮驛ヨリ十四町、東武宇都宮驛ヨリ六町
足利市	足利學校	昌平町	天長九年小野篁ノ創立セシモノナリト云フ上古州學ノ遺跡ニシテ又本邦最古ノ學校タリ孔子像及和漢ノ珍書ヲ藏ス足利驛ヨリ四町
	鑁阿寺（バンナジ）	家富町	眞言宗ノ大寺ニシテ本尊ヲ大日如來トス寺内ニ足利時代ノ古文書及什器ヲ藏ス本堂及鐘樓ハ國寶建造物トナリ又此ノ地域ハ足利氏宅趾トシテ大正十一年史蹟ニ指定セラレタリ足利驛ヨリ五町

史蹟名勝天然紀念物

（昭和十二年七月末日現在）

栃木市	織姫神社	西ノ宮町	市ノ中央月見ケ丘ニ在リ社殿華麗八千々姫命、及天御鉾命ヲ祭ル
	太平山神社	平井町	鹿社ニシテ太平山上ニ在リ瓊々杵尊、皇太神、豐受大神ヲ祀ル參拜者多ク又山上眺望ニ富ム栃木驛ヨリ一里乘合自動車ノ便アリ

名稱	指定年月日	種目	所在地	管理者又ハ所有者
明治天皇宇都宮行在所	昭和八、一一、二文部大臣指定	史蹟	宇都宮市鐵砲町馬場町	宇都宮市
明治天皇日光行在所	同	同	上都賀郡日光町	日光町
明治天皇小山行在所	同	同	下都賀郡小山町	小山町
明治天皇阿久津行在所御野立所及御講評所	昭和九、一一、一文部大臣指定	同	鹽谷郡阿久津村	阿久津村
明治天皇壬生行在所	昭和一二、七、三文部大臣指定	同	下都賀郡壬生町	壬生町
明治天皇高久御野立所	同	同	那須郡那須村	那須村

明治天皇七里御小休所	昭和一一、一一、二 文部大臣指定	同	上都賀郡	日光町	
明治天皇馬返御小休所	同	同	同	同	
明治天皇山中御小休所	同	同	那須郡芦野町	芦野町	
明治天皇夫婦石御野立所	同	同	同	同	
明治天皇引田原御小休所附御膳水	同	同	同 上江川村	上江川村	
明治天皇鷲巣御野立所	同	同	下都賀郡 岩舟村	岩舟村	
下野藥師寺阯	大正一〇、三、三 内務大臣指定	同	河内郡 藥師寺村	藥師寺村	
下野國分寺阯	同	同	下都賀郡 國分寺村	國分寺村	
足利學校阯（聖廟及附屬建物ヲ含ム）	同	同	足利市 昌平町	足利市	
庚申草自生地	同	天然紀念物	上都賀郡		
足利氏宅阯（鑁阿寺）	大正一一、三、八 内務大臣指定	史蹟	足利市 家富町	足利市	
日光並木街道及並木寄進碑	同	同	上都賀郡 河内郡	栃木縣	

小金井一里塚	同	同	下都賀郡 國分寺村	國分寺村	
湯澤噴泉塔	同	天然紀念物	鹽谷郡 栗山村	農林省	
琵琶塚古墳	大正一五、二、二四 内務大臣指定	史蹟	下都賀郡 桑村	所有者 能野神社境内地、國 畑地 飯塚區	
愛宕塚古墳	同	同	下都賀郡 壬生町	同愛宕神社境内地 舊蹟 國	
車坂古墳	同	同	同	同麥村大字下小山 小林新太	
牛塚古墳	同	同	同	同壬生町中村爲行 同早瀨傳兵衛	
大谷石窟佛	同	同	河内郡 城山村	大谷寺	
佐貫石佛	同	同	鹽谷郡 船生村	所有者 觀音堂境内地、國	
壬生一里塚	昭和三、三、二四 内務大臣指定	同	下都賀郡 壬生町	並木敷地内 塚地 國	
華嚴瀧及中宮祠湖（中禪寺湖）湖畔	昭和六、三、五 文部大臣指定	名勝	上都賀郡 日光町	栃木縣	
櫻町陣屋阯	昭和七、三、二五 文部大臣指定	史蹟	芳賀郡 物部村	報德二宮神社 外三名	

唐御所横穴	昭和九、一二、二八 文部大臣指定	同	那須郡馬頭町	馬頭町
宇都宮ノ大欅	昭和一一、一二、一六 文部大臣指定	天然紀念物	宇都宮市旭町	
金剛櫻	同	同	上都賀郡日光町	
逆杉	昭和一二、四、一七 文部大臣指定	同	鹽谷郡鹽原町	八幡宮

二宮尊德翁遺跡案内

櫻町陣屋趾　芳賀郡物部村大字物井字櫻町

櫻町陣屋ハ小田原藩主大久保侯ノ支族宇津家四千石統治ノ役所ニシテ領内疲弊スルヤ藩主ニ抜擢セラレテ其ノ復興ノ命ヲ受ケ三十六歳赴任シテヨリ二十二年辛苦經營報德仕法創造ノ靈蹟ナリ、東北隅ニ翁ヲ祭レル報德二宮神社アリ、尙附近ニ翁並ニ令孃文子ノ墓アル連城院ヲ初メ三ノ宮及八本堰桑野川ノ整理地區等遺跡多シ

眞岡並東郷陣屋趾　芳賀郡眞岡町大字臺町字城内　仝郡仝町大字東郷字雷

翁ガ幕臣トナリテ眞岡陣屋ニ居ルコト半歳後出府シテ日光御神領村々荒地起返仕法雛形ヲ作製シ終ツテ東郷陣屋附トナリ八年間滯在シタル所ナリ附近ニハ神宮寺、大前堰等ノ遺跡アリ

茂木地方　芳賀郡茂木町

藩主細川侯ノ懇請ニ依リ天保六年ヨリ報德仕法ヲ實施シタル地ニシテ、附近能持院（中川村大字鹽田）ニハ中村勸農衞ノ墓アリ

烏山地方　那須郡烏山町

烏山地方ハ大久保侯ノ領地ニシテ天保七年ノ大饑饉ヨリ仕法ヲ實施シタル所ナリ天性寺（烏山町大字金井町）ニハ圓應和尙及管谷八郎左衞門ノ墓地及御救小屋跡アリ

德次郎附近　河内郡富屋村大字德次郎

寶木堰（元新堀堰）（富屋村大字德次郎地内）及ビ德次郎用水大堰（一名石那田堰）（河内郡篠井村大字石那田地内）ハ共ニ仕法實施ノ用水堰トシテ著名ナルモノナリ

今市役所附近　上都賀郡今市町今市字大堀端

翁ガ最後ノ仕法地タル日光御神領八十九ケ村荒地起返仕法雛形實施ニ際シ東郷陣屋ヨリ移リ約一ケ年半住居ノ地ニシテ實ニ先生終焉ノ遺跡地ナリ

縣社今市報德二宮神社　明治三十年十一月十四日ノ創設ニシテ翁ノ英靈ヲ祀ル所、本殿ノ後方ニハ永安興國ノ御神靈ノ永眠セル奥津城アリ、附近ニハ一村式仕法實施ノ千本木（今市町大字千本木）轟（河内郡豐岡村大字轟）兩村及用水トシテ有名ナル二宮堰（一名五ケ村用水）其他多數ノ遺跡アリ

日光國立公園ハイキングコース

（國立公園協會刊行パンフレットヨリ抄記）

霧降瀧—丸山

神橋—小倉山—霧降瀧（以上バス）2.00—丸山 1.30—鳴澤 1.00—神橋

ハイキングコース

霧降瀧　二段に落る面白い瀧の姿は定評がある。

中禪寺湖南岸—小田代原 .20 中宮祠⇅立木觀音 .20 —狸窪(ムジナ)—八丁出島 .40 —阿世潟 1.00 —モチ和田 1.30 —千手濱 .30 —西ノ湖 .40 —弓張峠 .10 —小田代原 .45 —泉門池⇅湯瀧

立木觀音　中禪寺のこと、輪王寺末、附近を歌ヶ濱といひ男體山をひかへた湖岸の景色は優れてゐる。外人別莊が多い。

半月峠　狸窪より足尾に越える峠、八丁出島を眼下に中禪寺湖をへだてた男體山の眺は湖邊隨一である。

上野島　湖上唯一の島嶼、勝道上人の遺蹟。

千手濱　湖の西岸を言ひ、勝道上人建立の千手觀音がある。千手原の最奥に翠巒に圍まれた西(サイ)ノ湖がある。

小田代(オタシロ)ヶ原　戰場ヶ原の西側、落葉松林に隔てられた濕原。沼野植物と之を圍繞するシラカバ、ミヅナラの森林が美しい。

湯瀧　湯の湖尻より落下し、白布を懸けた樣に遠望される。

湯元⇅切込、刈込湖 1.30 —山王峠 .30 —切込、刈込湖 .30 —涸沼 .30 —山王峠⇅光德沼 1.00

切込、刈込湖　瓢形につながつた小湖で、原始林に包まれて居る。金田峠を越え西澤金山を經て天然紀念物噴泉塔、溫泉八丁ノ湯に達する道はこの附近より分岐する。

光德沼　三岳(ミツダケ)の東麓にある小沼、上手に光德牧場があつて夏冬旅行者に新鮮な牛乳を供給する。

鬼怒林道—尾瀨 2.00 湯元⇅金精峠 1.30 —溫泉(ユセン)岳 1.00 —根名草山 2.30 —手白澤 1.00 —八丁ノ湯(泊) .30 —日光澤 2.30 —鬼怒沼 2.30 —黑岩山⇅尾瀨沼(長藏小屋)

金精(コンセイ)峠　頂上に名高い金精祠がある。標高二、〇二四米

溫泉(ユセン)岳　富次郎新道(金精峠—八丁ノ湯)の開鑿により急に利用する人が多くなつた。スキー登山は容易で展望は絶佳である。初夏山稜の石楠花は美事である。標高二、三三三米

手白澤　溪流沿の硫黃泉で最近氣持のよい山小屋が出來た。

鬼怒沼　鬼怒川日向オソロシ澤の溪頭、分水嶺に發達せる寒性濕原で大沼をはじめ大小六十餘の池塘がある。その濕原植物は植物界の寶庫と言はれる。

戸倉—尾瀨沼 2.40 ●尾瀨原 .30

戸倉—大清水平 2.00 —三平峠 4.00 —尾瀨沼(長藏小屋)

戸倉—硫黃澤 4.00 —富士見峠 .30 —菖蒲平(フヤメダヒラ) 3.00 —尾瀨ケ原(檜枝岐田代)

戸倉—アテ坂 1.30 —鳩待峠 2.00 —尾瀨原(山ノ鼻小屋)

三平(サンペイトウゲ)峠　尾瀨沼に直接に入る最も大衆向のコース、峠より尾瀨沼、燧岳の眺望が得られる。長藏小屋まで半里。

富士見峠　硫黃澤と八木澤の溪頭、武尊赤城方面の眺望がよく時には雲間に富士も望まれる。戸倉より三里、四時間、檜枝岐小屋へ二里、三時間を要する。

菖蒲平(フヤメダヒラ)　富士見峠より往復四十分。海拔千九百米の分水嶺に發達せる濕原、アヤメ(實はキンコウクワ)が多い

のでこの名があり、白根、上越方面、尾瀬ケ原の展望が優れて居る。

鳩待峠（ハトマチ）　笠科、川上の渓頭、アテ坂を除けば比較的緩であるが徒歩が多く冬は全く利用出來ない。戸倉より三里、四時間半を要し、山ノ鼻までは一里半、二時間で達せられる。

三條瀧（2.30）—撫平（ブナ）

尾瀬沼（2.30）↔檜枝岐田代（1.00）—尾瀬原温泉（.30）—平滑（.45）—三條瀧（3.00ウエ）—上田代（.30）—三池田代（.30）—撫平（ブナガヒラ1.30）—赤法華（2.00）—沼山峠（.40）↔尾瀬沼

三條瀧　只見川の上流で、燧岳熔岩が造つた平滑（ヒラナメ）の瀑流が十數町つゞいてその終が三條瀧となつて落下する。高さ百米、幅十米、雄大壯麗な姿は華厳にも匹敵する。

撫平（ブナ）　燧岳北麓の濶葉樹林帶、その間に上田代（ウエ）、三池（ミイケ）田代等大小各種の池塘濕原が散在して居る。

沼山峠　縣道沼田會津若松線が檜枝岐より尾瀬沼に越す峠山火跡の笹生地は一名燒山峠の名を生じ好展望地である。

山嶽

（五千六百尺以上）

（本縣山嶽特長）那須活火山帶ヲ除キ自然林蓊生ス、一般ニ山裾急峻ナリ、北部山岳地方ハ冬期ニ於テスキー可能ナリ、（著名高山植物）白根葵、モウセンゴケ、ツルコケモモ、庚申草、石楠花

名稱	高距	所屬郡（縣）名	登山所要時間	名稱	高距	所屬郡（縣）名	登山所要時間
白根山	八、五〇六尺	上都賀、群馬	日光湯元ヨリ八時間	黒岩山	七、一三七尺	塩谷、福島、群馬	
男體山	八、一九八	上都賀	中宮祠ヨリ六時間	皇海（カイ）山	七、〇七三	上都賀、群馬	
女峯（ニヨホウ）山	八、一二九	上都賀、鹽谷		鬼怒沼山	七、〇六四	群馬、鹽谷	
帝釋（タイシヤク）山	八、〇五五	同		物見山（毘沙門山）	六、九八六	鹽谷、群馬	
錫（スズ）ケ嶽	七、八八〇	上都賀、群馬		山王帽子山	六、八四〇	上都賀、鹽谷	
前白根山	七、八四四	上都賀、		蓼倉高山	六、八二〇	鹽谷、福島	
大眞名子山	七、八三八	同		帝釋山	六、七九六	同	
太郎（タロウ）山	七、八一二	上都賀、鹽谷		赤薙山	六、六三三	上都賀	日光町ヨリ九時間
温泉（ユセン）ケ岳	七、六九八	上都賀、群馬	日光湯元ヨリ五時間	宿堂坊山	六、四九四	上都賀、群馬	
根名草山	七、六八八	鹽谷		大平山	六、四六六	上都賀	
小眞名子山	七、六六五	上都賀、鹽谷		黒檜岳	六、四一八	同	
金精（コンセイ）山	七、三九八	上都賀、群馬	日光湯元ヨリ三時間	三岳	六、四一七	同	
燕（ツバメ）巣山	七、二九九	鹽谷、群馬		長者岳	六、四〇二	那須	大丸温泉ヨリ三時間
外山	七、二二七	上都賀		那須嶺（茶臼嶽）	六、三二六	同	
高薙山	七、一九五	鹽谷		三本檜嶽	六、三二〇	那須、福島	

名稱	所屬郡名	高原平原別	面積	名稱	所屬郡名	高原平原別	面積
大佐飛山	六、二九七	那須		社山	六、〇二七	上都賀	
朝日嶽	六、二七九	同		鹿又嶽	五、九九六	鹽谷、那須	
庚申山	六、二七三	上都賀	川向ヨリ六時間	高原山	五、九二三	鹽谷	川治ヨリ六時間
袈裟丸山	六、一九八	上都賀、群馬		男鹿嶽	五、八六四	鹽谷、那須、福島	新湯ヨリ六時間
大倉山	六、一一八	那須、福島		南月山	五、八六〇	那須	
手白山	六、一〇二	鹽谷		半月山	五、七八五	上都賀	
日留賀嶽	六、一〇一	鹽谷、那須		黑瀧山	五、六九九	那須	
大岳	六、〇八二	上都賀		白笹山	五、六六六	同	
三倉山	六、〇二九	那須、福島		平五郎山	五、六一〇	鹽谷	

（備考）二子山（五、一三六尺）丹勢山（四、八九〇尺）鳴蟲山（三、六四一尺）八溝山（三、三七五尺）石裂山（二、九〇二尺）
箒根山（二、八六五尺）出流山（二、一六四尺）鷄足山（一、五五三尺）羽黑山（一、五一二尺）佛頂山（一、四二二尺）
晃石山（一、三八二尺）鞍掛山（一、二八五尺）多氣山（一、二四四尺）大平山（下都賀郡）（一、一三二尺）
唐澤山（九五八尺）岩舟山（五六七尺）

原野

（面積五十町歩以上）

名稱	所屬郡名	高原平原別	面積	名稱	所屬郡名	高原平原別	面積
那須野原	那須	平原	二、五六九町	西谷原	芳賀	平原	二二一町
大輪地原	同	同	一、五三九	大野原	上都賀	同	一七六
鹽谷野	同	同	一、一四五	白澤原	河内	同	一七四
大野原	芳賀	同	九八八	コカヤ原	上都賀	高原	一七二
戰場原	上都賀	高原	八九一	祇園原	河内	平原	一〇七
野州原	同	同	六〇九	光徳原	上都賀	高原	九三
久下田原	芳賀	平原	五六二	東原	芳賀	平原	七四
北原	同	同	三〇七	野田原	下都賀	同	六三
上野原	同	同	二八三	塚原	那須	同	六二
上野原	上都賀	同	二三七	荒原	上都賀	高原	五四

河川

（管内經過里程十里以上）

名稱	水源地名	管内經過ノ里程	流水地名
鬼怒川	鹽谷郡栗山村大字川俣	二六里・二七町	茨城縣北相馬郡ニ至リ利根川ニ入ル

名稱	水源地名	管内經過ノ里程	流水地名
那珂川	那須郡高林村大字板室	二七・〇七（里町）	茨城縣湊町ニ至リ東海ニ潮ス
渡良瀬川	上都賀郡足尾町	一八・一五	埼玉縣埼玉郡本郷ニ至リ利根川ニ入ル
田川	同　郡日光町大字七里	一八・〇六	茨城縣結城郡久保田河岸ニ至リ鬼怒川ニ入ル
黒川	同　郡同町大字山窪	一四・二九	下都賀郡壬生町ニ至リ小倉川ニ合シ思川トナル
秋山川	安蘇郡氷室村大字秋山	一四・二四	安蘇郡界村大字高山ニ至リ渡良瀬川ニ入ル
箒川	鹽谷郡鹽原町大字湯本	一四・〇〇	那須郡那珂村大字小川、湯津上村大字佐良土ノ間ニ至リ那珂川ニ入ル
荒川	同　郡玉生村大字上寺島	一二・〇六	那須郡向田村大字南向田ニ至リ那珂川ニ入ル
五行川	同郡氏家町大字長久保新田	一〇・三〇	茨城縣眞壁郡川中子ニ至リ小貝川ニ入ル

（備考）委川（九里一八町）蛇尾川（八里）武茂川（七里三五町）大芦川（七里一八町）黒川（那須村）（七里一二町）粕尾川（七里六町）小貝川（六里三〇町）思川（六里二八町）大谷川（六里二四町）

著名釣場

漁場	重ナル漁獲物	漁期	備考
湯ノ湖、湯川	紅鱒、川鱒、ブルツク	六月一日、九月三十日	帝室林野局日光養魚場
那珂川、須藤村、伊王野村	鮎	六月一日ヨリ	那珂川漁業組合
鬼怒川、絹村、植野村	鮎	六月一日ヨリ	鬼怒川漁業組合
湯西川、男鹿川	イワナ、ヤマメ、コス	四月一日ヨリ	湯西、男鹿川組合
鹽原地内箒川	鮎	八月一日頃	鹽原漁業組合
1小倉川、2粕尾川、3粟野川	鮎	1六月一日、2七月一日、3八月一日	粕尾、粟野川組合
永野川（永野村）	鮎	六月一日ヨリ	永野青年團
秋山川（氷室村）	鮎	七月・八月	永野村養魚組合
西大芦川	鮎	七月・八月	西大芦養魚組合
野上村地内	鮎	七月・八月	野上村養魚組合
渡良瀬川、小俣町、足利市内	鮎	七月・八月	渡良瀬川漁業組合
思川小山町區内	鮎	七月・八月	思川漁業組合

（備考）料金ハ年々變更スルモ普通一日約三十錢乃至五十錢、但鹽原地内ハ五圓乃至十圓、湯西川及男鹿川ハ約一圓八十錢ナリ、日光湯元ニ於ケル鱒釣ハ一日四圓半日三圓ナリ

著名釣場

湖沼

名稱	所屬地	周圍	面積	名稱	所屬地	周圍	面積
中宮祠湖（幸湖・中禪寺湖）	上都賀郡日光町大字日光	六・〇二里町	一、二〇五町	狩籠湖	上都賀郡日光町大字日光	〇・七里町	四町
赤麻沼	下都賀郡赤麻村大字赤麻	三・〇〇	二八〇	野瑞湖	同	〇・〇六	五
越名沼	安蘇郡界村大字城名	〇・二九	五六	赤湖	同	〇・〇六	五
湯ノ湖	上都賀郡日光町大字日光	〇・二〇	四一	荒湯湖	同	〇・〇五	三
西湖	同	〇・一五	二三	菱ノ湖	同	〇・〇四	二
魔ノ湖	同	〇・一二	一四	佛ノ湖	同	?	?
鬼怒沼	鹽谷郡栗山村大字川俣	〇・一二	一二				

瀧

名稱	所在地名	最寄驛（地）ヨリ里程	名稱	所在地名	最寄驛（地）ヨリ里程
白糸瀧	上都賀郡日光町	日光驛ヨリ一里六町	山蔭ノ瀧	栃木市平井町	栃木驛ヨリ三十町
霧降瀧	同	一里廿七町	觀音瀧	下都賀郡富山村	大平下驛ヨリ三十町
寂光瀧	同	一里十八町	布引瀧	鹽谷郡栗山村	日光裏見瀧ヨリ四里半
羽黑瀧	同	一里廿二町	回顧瀧	同郡鹽原町	西那須野驛ヨリ四里四町
相生瀧	同	一里三十町	魚止瀧	同	同 四里二十一町
裏見瀧	同	一里三十町	拋雪瀧	同	同 四里二十七町
華嚴瀧	同	四里十二町	布瀧	同	同 四里二十八町
白雲瀧	同	四里十三町	霹靂瀧	同	同 六里餘
阿含瀧	同	三里十二町	兄弟ノ瀧	同	同 五里二十町
般若瀧	同	二里卅二町	父瀧	同	同
方等瀧	同	二里卅二町	母瀧	同	同
龍頭瀧	同	六里二町	七絃瀧	同	同 五里三十五町
湯瀧	同	七里十八町	七瀧	同	同 九里十五町
七瀧	同	六里	龍動瀧	那須郡伊王野村	黑田原驛ヨリ四里
箱瀧	芳賀郡中川村	茂木驛ヨリ一里半	二ッ瀧	同郡川西町	黑羽驛ヨリ二十町
月ノ輪ノ瀧	栃木市平井町	栃木驛ヨリ三十町	龍門ノ瀧	同郡向田村	烏山驛ヨリ二十五町

不動ノ瀧	那須郡 親園村	野崎驛ヨリ 一里半	紅葉瀧	那須郡 那須村
布瀧	同郡 那須村	高雄股溫泉ヨリ一里		高雄溫泉ヨリ 三町
駒ヶ瀧	同	北溫泉ヨリ 五町		

公園及遊園地

（昭和十二年三月末現在）＊印ハ遊園地本表ニハ五千坪以上ノモノヲ揭グ

名稱	所在地 市町村名	設立年月	面積	最寄驛ヨリ里程
八幡山公園	字都宮市	昭和二年四月	三八、六四一野	宇都宮驛ヨリ十八町
足利公園	足利市	明治三十四年？	一一、七五〇	東武足利市驛ヨリ十九町
浩養園	日光町	明治二十六年十一月	一〇、七一四	日光驛ヨリ二十三町
千手山公園	鹿沼町	昭和五年七月	七、三二一	鹿沼驛ヨリ十八町
御殿山公園	同	大正七年十月	八、三三一	東武新鹿沼驛ヨリ十五町
城山公園	栗野町	大正十四年十月	一八、〇〇〇	東武樅山驛ヨリ二里
大平山公園	富山村 栃木市	明治十五年？	二六、三九九	栃木驛ヨリ一里十町
小山遊園地	小山町	昭和三年十月	一五、〇〇〇	小山驛ヨリ六町
長峰公園	矢板町	昭和四年十一月	三五、四八一	矢板驛ヨリ五町
＊時ヶ崎遊園	鹽原町	昭和六年七月	七、〇〇〇	西那須野驛ヨリ約六里
藤原公園	藤原町	大正十三年四月	九、〇〇〇	東武新藤原驛ヨリ三町
御野立場公園	那須村	大正四年十一月	六、二四〇	黒磯驛ヨリ十五町
＊先勝園公園	同	大正十四年六月	三九、〇〇〇	黒磯驛ヨリ四里
烏ヶ森公園	西那須野町	大正六年三月	三三、〇〇〇	西那須野驛ヨリ西二十町
佐野公園	佐野町	明治二十一年七月	一三、三七二	佐野驛ヨリ三町
馬頭公園	馬頭町	大正四年七月	七、八二七	烏山驛ヨリ二里半

著名溫泉

名稱	所在地	泉質	最寄驛（地）ヨリ里程	旅館 收容人員	宿泊料ノ最高最低	茶代廢止ノ有無	主治効能
日光湯元溫泉	日光町	硫黃	日光驛ヨリ七里廿	六 七五〇	自一・五〇 至一〇・〇〇		胃腸病、皮膚病、婦人病、神經痛、外傷、花柳病
鬼怒川溫泉 鬼怒川	藤原町	弱鹽類泉	三町 新藤原驛ヨリ二里	五 八〇〇			火傷、切創、婦人病
鬼怒川溫泉 鬼怒川	同	同	鬼怒川溫泉驛	一〇 一、八〇〇	自一・五〇 至七・〇〇	廢止	胃腸諸病、神經痛、婦人病
鬼怒川溫泉 溪谷	同	同	新高德驛ヨリ五町	二 一〇〇	自一・〇〇 至五・〇〇	廢止	痔疾、皮膚病、其ノ他胃弱症
鬼怒川溫泉 中岩	同	同	川治ヨリ五里半	五 四〇〇	自一・〇〇 至二・五〇		梅毒、胎毒、胃病、神經痛、痲氣
鬼怒川溫泉 湯西川	同	同	今市驛ヨリ十二里	五 五〇〇	自一・〇〇 至二・〇〇		痔疾、切傷、火傷、頭痛、婦人病

大網	鹽原町	同	西那須野驛ヨリ五里乘合自動車便アリ	一	七〇	自一・五〇〇 至三・〇〇〇	廢止
福渡戸	同	同	大網ヨリ二十町	七	一、二二七	自一・五〇〇 至六・〇〇〇	
鹽ノ釜	同	同	福渡戸ヨリ八町	一	五四	自一・五〇〇 至二・五〇〇	
畑下戸	同	同	同 二十町 十三町	三	七八八	自一・五〇〇 至六・〇〇〇	
古町	同	同	畑下戸ヨリ二町	七	三五四	自・八〇〇 至五・〇〇〇	
門前	同	同		六	三二七		
須卷	同	同	同 所ヨリ七町	六	六二二	自〇・八〇〇 至六・〇〇〇	
袖ケ澤	同	同		一	一二三	自一・五〇〇 至五・〇〇〇	
新湯	同	同	古町ヨリ二里	一	五三	自一・〇〇〇 至三・〇〇〇	
元湯	同	同	同 三里半	五	二九七		
高林村	弱鹽類泉	黑磯驛ヨリ六里湯本ヨリ三里		三	一九五	自一・〇〇〇 至四・〇〇〇	
斗小屋	同	同		二	二〇〇	自二・〇〇〇 至四・〇〇〇	
室	酸性硫黃泉	同五里	同三里半	五	三五〇	自一・五〇〇 至三・〇〇〇	
板本	同	同	同 四里九町	一三	三、〇〇〇	自一・八〇〇 至三・〇〇〇	
湯本	那須村	同		一	二〇〇		
大丸	弱鹽類泉	同	湯本ヨリ三十町	一	二〇〇		
辨天	同	同		一	二〇〇		

脂肝病、常習便秘、逆上、月經閉止期障害、リョウマチス、神經痛、皮膚病、外傷、胃腸病、其ノ他

疥癬、其ノ他皮膚病、神經痛、リョウマチス、其ノ他

胃腸病、呼吸器病、リョウマチス、氣管支カタル、其ノ他

中風、神經痛、リョウマチス

梅毒

皮膚病、花柳病、胃病、其ノ他

スキー場及スケート場

北	同	同	辨天ヨリ十八町	一	八〇〇	自一・五〇〇 至二・五〇〇	婦人病
高雄	同	同	同	一	一〇〇		
股	同	同	湯本ヨリ十町	一	三〇〇	自三・〇〇〇 至七・〇〇〇	皮膚病、花柳病、胃病、其ノ他
新那須	同	同		一	一〇〇		
ゴルフ	同	同		一	一〇〇	自三・〇〇〇 至五・〇〇〇	
西山ホテル	同	同		一	一〇〇		

名稱	位置	概要
那須スキー場	東北本線黑磯驛ヨリ四里那須溫泉地帶	十石平、矢倉山、猫山、郭公、清水平ノ各スキー場ニ分ル平均積雪三——一〇尺 旅館收容人員一、五〇〇人
鹽原スキー場	東北本線西那須野驛ヨリ六里鹽原溫泉附近	八郎ケ平ヲ中心トシ、前黑山、鷄頂山、高原山ヘノツーアコースアリ、平均積雪三尺 旅館收容人員三、五〇〇人
男體スキー場	日光驛（省線・東武）ヨリ四里中宮祠附近	男體山麓ノ緩斜面ニ第一、第二スキー場アリ、初心者向平均積雪二 四尺 旅館收容人員二、〇〇〇人
龍頭スキー場	中宮祠ヨリ西一里餘龍頭高山附近	雪質良好、白樺樅梅ノ林間スキー場 平均積雪三尺——六尺 收容人員二〇〇人
湯元スキー場	中宮祠ヨリ三里餘湯元溫泉附近	海拔五、〇〇〇尺以上ノ森林地帶ヲ特徴トスルスキー場、乾粉雪積雪平均五—一〇尺、初心者向第一、第二、第三練習場及ツーアコース、山岳スキーノ適地多、旅館收容一、〇〇〇人冬季バスヲ通ズ

日光スケート場	日光町ヨリ二里、大谷川峠（驛ヨリ自動車二〇分）	國際標準型ニシテ東洋一ト稱シ、年々國内大會ヲ開催ス、平均結氷厚二〇——三〇糎十二月中旬ヨリ二月末迄開場ス

（備考）近年藤原町川治溫泉附近ニ高原スキー場設ケラレタリ

ゴルフ場

那須ゴルフ場	那須溫泉（湯本）域内俱樂部組織（株式）ニシテ入會金ハ一株五百圓、ホール數一八、グーンヒー、ヴエジタースハ平日、日曜、祝祭日トモ三圓、キヤディヒーハナシ	

主要工場會社一覽

名稱	所在地	摘要
保證責任繭絲販賣組合	宇都宮市	生糸製造
聯合會栃木社	同	電燈電力供給
東京電燈株式會社宇都宮支社	同	新聞業・印刷、製本業
下野新聞株式會社	同	
下野印刷株式會社	同	
高崎製紙株式會社	河内古里	紙製造
古河電氣工業株式會社	上都賀日光	分銅、伸銅、其ノ他金屬加工業
日光電氣精銅所	同	麻糸紡織
帝國製麻株式會社鹿沼製品工場	同鹿沼	
飯島製糸第三工場	下都賀野木	生糸製造
昭榮製糸株式會社小山工場	同小山	同
日本製粉株式會社小山工場	同	製粉業
東海製菓株式會社小山工場	同	製菓業
鬼怒川水力電氣株式會社下瀧發電所	鹽谷藤原	發電業
東野鐵道株式會社	那須川西	交通運輸業
鹽那電氣株式會社	那須大田原	電氣業
大和組那須野製糸所	同狩野	生糸製造
日清製粉株式會社佐野工場	安蘇佐野	製粉業
日本綿縮製造株式會社	同	織物製造
株式會社奥澤綿布工場	同	廣幅綿布製造
秋田製織工場	同植野	織物製造
山保毛織物株式會社	足利三重	毛織物及其交織物
兩野工業株式會社	同山前	絹撚糸
明治紡織株式會社福居工場	同御厨	輸出向木綿縮製造
足利綿布株式會社	同	綿縮販賣
足利紡績株式會社足利工場	同山邊	綿糸織布製造

各郡市主要物産

河内	米、麥、酒類、青芋、石材、干瓢、織物、甘藷、菽類、蘿蔔、葉煙草
上都賀	銅、米、麥、大麻、麻織物、麻糸、木材、菓子、繭、薪炭、漆器、黍箒、石灰

芳賀	米、麥、酒類、葉煙草、甘藷、菽類、青芋、陶器
下都賀	米、麥、酒類、繭、大麻、織物、醬油、蠶糸、鼻緒、下駄緒、蕊繩、青芋、菽類、干瓢、蘿蔔、甘藷、履物類、家禽、卵、藁莚、果實、石灰、懷爐灰、製粉
鹽谷	米、麥、葉煙草、薪炭、木材、酒類
那須	米、麥、葉煙草、酒類、薪炭、果實、木材、繭、蠶糸、菽類、青芋、和紙、醬油、甘藷、硫黄
安蘇	織物、米、麥、酒類、石灰、菽類、鑄物、製粉
足利	織物、米、麥、酒類
宇都宮市	製粉、味噌、酒類、菓子、木糸類、油類
足利市	織物
栃木市	蕊繩、カイロ灰、塗下駄、麻裏草履

特産及名産食料品

特産品

品名	主産地	摘要
足利織物	足利市、御厨町、三重村	意匠ノ褄新ト圖案ノ巧妙ニシテ且ツ廉價ナルヲ以テ汎ク世人ノ好尚ニ適ス
佐野綿縮	佐野町、植野村	廣幅物ハ重要ナル輸出品ニシテ皺立、風合、漂白、整理等ノ優良ナルコトハ他地方ノ追從ヲ許サヾル特質ヲ有ス
結城紬	絹村	高雅ナル風地ト堅牢トヲ以テ洽ク世人ニ知ラレ實用向ノ織物トシテノ價値ハ夙ニ定評アル所以ナリ地色ニ正藍ヲ使用セラルヽヲ以テ染色ハ華麗堅牢ニシテ持久力ニ富ムヲ特長トス
製紙	烏山町	那須産紙トシテ汎ク各地ニ取引セラレ原料ハ楮皮ニシテ手漉製ナルガ故紙質極メテ強靱ナリ
益子陶器	益子町	品質ノ堅牢ナルト價格ノ低廉其外觀ノ極メテ風雅ナルヲ以テ特長トス
日光漆器	日光町	日光ノ名木ヲ以テ製造シタルモノニシテ裝飾品、家具類、食器類トシテ推朱彫ハ花鳥山水ヲ彫刻シタル繕巧ナルモノナリ割合ニ廉價ナルヲ以テ觀光外人ニ最モ歡迎セラル
懷爐灰	栃木市	麻殼ヲ以テ製造シタルモノニシテ輕便ナル保溫料トシテ一般ニ賞賛セラレ廉價ニシテ品質優良ナリ
麻及加工品	鹿沼町、栃木市	品質ノ優良强靱ナルハ全國ニ比肩スルモノナシト稱スルモ可ナリ皮麻ハ疊糸、ロープ、麻裏等ニ需要多ク芯繩ハ下駄鼻緒用トシテ其ノ最モ主ナルモノナリ

佐野鑄物	佐野町	古ク天慶年間ニ軍需品ノ製造ヲナシタルニ始マリ現在ニ於テハ鐵瓶、鍋釜、風呂釜火鉢ノ日用品ヲ鑄造ス
木片織	宇都宮市	木絲織又ハ經木織トモ稱シヤマナフシ白楊樹ヲ原料トシテ製造シタル織物ニシテ婦人帽ノ下地其ノ他裝飾用トシテ最モ賞賛セラル海外ノ需要多シ
干瓢	宇都宮市、下都賀郡、河内郡	扁蒲ヲ加工シテ製造シタルモノニシテ品質ノ優良ト産額ノ多キハ全國第一位ヲ占メ美味且滋養ニ富ムヲ以テ食料品トシテ需要多シ
瓢加工品	宇都宮市	茶盆、炭入、煙草盆、菓子器、火鉢、花挿、玩具等種々アリ何レモ雅味ヲ帶ビ一般ニ賞美セラル
鹿沼箒	鹿沼町、栃木市	家庭用座敷用ノ美麗且堅固ナルハ他ノ之ニ及バザル特産品ハ實用向ニシテ割合ニ廉價ナリ
傘	宇都宮市、佐野町、烏山町	原料タル西ノ内ハ本縣ノ特産品ナルガ爲ニ紙質ノ强靱ニシテ且廉價ナル一般ノ嗜好ニ適シタルモノヲ生産ス
履物	黑羽町、佐野町、眞岡町、足利市、宇都宮市、栃木市、鹿沼町	世ノ嗜好ニ應ジ特ニ嶄新ナル意匠ヲ凝シ外觀ノ美ト材質ノ堅緻ヲ以テ一般ニ歡迎セラル殊ニ日光下駄ハ其ノ風雅ヲ好マレ需要多シ
麻裏草履	栃木市	原料タル麻ハ特産品ナルヲ以テ廉價ニ製造セラレ體裁優美ニシテ實用向ナリ
清酒	小山町、栃木市、豐田村、中村（下都賀郡）岩舟村、大田原町	縣下各郡ニ醸造家アリ下都賀郡ハ特ニ關東ニ於ケル酩醸地トシテ一般ニ認メラル
醬油	藤岡町、界村、靜和村	縣下各地ニ亘リ生産スルモ下都賀郡ヲ主産地トス近時品質ノ向上著シク帝都ヲ初メ名地ニ移出スルモノ多シ

石灰	葛生町、寺尾村	品質優良ナルヲ以テ塗壁及漆喰用、染料、肥料用、消毒等ニ供セラル
大谷石（オホヤイシ）	城山村	吸水量少ナク割合質ハ緻密ニシテ耐寒耐火ニ强ク工作ニ容易ナルガ爲建築用材トシテ理想的ナルモノナリ
ステツキ	那須村	地方自然ノ原料豐富ナルト「アツシ」「エゴ」等ノ特種栽培法ニ成功シタルニヨリ近年急速ニ生産發達シ柴木利用ノステツキ産地トシテ有數ノモノトナレリ
山葵	日光町、鍋掛村、栗山村、野上村	昭和五年那須御用邸内御栽田ノ山葵苗種下賜アリ培培熟勃興ス現在開田面積約五千坪ニ達ス

品名	摘要	品名	摘要
宮ノ餅	宇都宮ノ名菓ニシテ白玉粉餅ニ砂糖ヲ塗シテ製シ香味佳良ナリ	日光煉羊羹	日光ノ名物ニシテ土産品トシテ一般ニ嗜好セラル
友白髮	一名干瓢ノ砂糖漬トモ稱シ宇都宮ノ名菓ニシテ長干瓢ノ細切シタルモノニ砂糖ヲ塗シ頗ル美味ナリ	日光餅頭	日光ノ名物ニシテ頗ル美味ナリ
干瓢羊羹	宇都宮ノ名菓ノ一ニシテ羊羹ニ干瓢ヲ混ジタルモノニシテ茶菓トシテ賞用セラル	岩蛤	宇都宮ノ名物ニシテ上菓子トシテ嗜好セラル
		日光蒔椒	蒔椒ヲ紫蘇卷ニシタル漬物ニシテ特有ノ風味ヲ有ス

那須ノ漬	茄子、大根、刀豆等其ノ他數種ノ野菜類ノ漬物ニシテ風味佳良ナリ
都漬	宇都宮ノ名產ニシテ干瓢若實ヲ粕漬トナシタルモノニシテ頗ル美味ナリ
古代瓦煎餅	足利古代ノ瓦十種ヲ型取リ土產品トシテ一般嗜好ニ適ス
不二羊羹	足利ノ名產ニシテ紫蘇ト胡麻ヲ混ジタル美味ナルモノナリ
朝倉でんぶ	鹽原名產ニシテ山椒ノ實及ビ葉ヲ佃煮ニシテ香味良シ
柚羊羹	栃木ノ名產ニシテ柚ヲ含味セシメタル風味良ク茶菓ニ好適ナリ
吉原棒	「どかぼう」トモ稱シ宇都宮ノ名產ニシテ風味佳シ
日光山椒漬	日光ノ名產ニシテ香味良シ
鑛泉せんべい	栃木ノ名菓ニシテ鑛泉ヲ含有セシメ頗ル滋養ニ富ム
椎茸わさび漬	鬼怒川ノ名產ニシテ從來ノわさび漬ヲ改良シ椎茸ヲ含味シ特殊ノ風味アリ

傳說一斑

名稱	所在地	傳說
戰場ケ原（赤沼ケ原）	上都賀郡日光町	上野ノ國赤城ノ神ガ中禪寺湖ヲ奪ハントシテ二荒神ノ子猿麿ノ爲大敗シコノ附近死傷者ノ血ヲ以テ彩ラレタリト云フ
鷲（オシ）鷲（ドリ）塚	宇都宮市	求食（アサリ）沼ニ浮ベル鴛鴦ノ內雄鳥ヲ射歸ヘレル獵師翌日更ラニ雌鳥ヲ射歸ヘレルニ其ノ胸ニ前日捨テ去リシ雄鳥ノ首ヲ固ク抱ケルヲ見テ發心シコノ塚ヲ建テタリト云フ
追分地藏尊	上都賀郡今市町	河原ニ發見セル地藏尊ヲ下町ヨリ如來寺ニ運バントセシニ重量增シ且ツ毎夜怪異起レルヲ以テ再ビ下町ニ之ヲ移セルニ怪異止ミ重量モ減ジタリト云フ

佛ノ山峠	芳賀郡茂木町	峠ノ一軒茶屋ノ孝行娘お仙旅ノ少年ニ身ヲ變ジテ惡事三昧ニ更ケリ居タル父ノ刄ニ死シ之ヲ諫メタルニ父ハ前非ヲ悔イテ佛門ニ入リお仙ノ菩提ヲ弔ヒタルトコロナリト云フ
蜂ノ巢山	那須郡七合村	那須氏ノ祖須藤貞信ガ狐狩ニ大蜂ヲ救ヘルニ二本ノ鏑矢ヲ與ヘラレ歸途大蛇ノ難ヲ逃レシガコノ矢ハ後ニ與市宗高ノ屋嶋ノ浦ニ扇ヲ射タルモノナリト云フ
親子狐	下都賀郡皆川村	城山ト呼ベル、城趾ノ麓ニ在ル觀音堂ニ二匹ノ狐棲ミ作物ヲ荒セル爲メ殺サレントセルヲ救ハレタル百姓夫婦ニ恩報ジトシテ其ノ孫女ヲ將軍家光ノ側女（桂昌院ノ前身）トシタリト云フ
大谷觀音	河內郡城山村	嵯峨天皇ノ御宇人跡未踏ノ深山幽谷ナリシ此ノ地ニ群棲シ人畜ヲ害セル大蜂ヲ弘法大師來リテ掃滅シ一夜ノ中ニ十七尊ヲ彫リ一七日ノ參籠ヲ果サレタルニ依リ里人此ノ寺ヲ建テタリト云フ
片目ノ魚	同上三川町	上三川城主今泉高光ニ唯一人ノ姫アリ隣國ノ芳賀高武思ヲ寄セ拒否セラレタルヲ怨ミ城ヲ落セルニ姫ハ自刄セントシテ過ツテ片目ヲ刺シ貫キ父子相抱キテ投身セルニ其ノ後コノ濠ニ棲メル魚ハ皆片目ナリト云フ
お島田	芳賀郡茂木町	お島ト云ヘル少女慾深キ主人ノ難題ニ依リ男手三人ニモ餘ル三段歩ノ田ヲ一夜ノ內ニ殆ンド植エ終レルヲ曉近ク主人自ラ雞鳴ヲ作ツテ之ヲ無效ナラシメ絕望ノアマリ一握ノ苗ヲ手ニシテ死ス主人モ遂ニ不幸ツヾキテ一家零滅シ其ノ田ハ人手ニ渡リお島田ト呼バレ荒地トナリタリト云フ
室の八島	下都賀郡國府村	孝德天皇ノ御代下野國ニ下ラレタル有馬皇子常陸ノ國司ト婚約ノ身ナリシコノ地ノ長者ノ娘ニ慕ハレシヲ棺中ニ「つなし」ト云ヘル魚ヲ入レテ野邊ニ送リ燒キ娘ハ早逝シタルコトニ僞リ告ゲテ成功セル地ナリト云フ

釜ケ淵	鹽谷郡　氏家町	家臣ノ謀反ニ依リ勝山落城ノ際城主ノ姫二人紅葉姫並ニ雪姫相抱イテコノ淵ニ身ヲ投ゼシニ其ノ後コノ淵ニ紅白ノ鯉二尾住ミ其ノ一ヲ取リ去ラントセル漁師ニ後ヨリ「雪姫々々」ト連呼シタルコトアリタル爲爾來コノ淵ニ網ヲ投ズルモノナシト云フ
千駄塚	下都賀郡間々田町	鎌倉幕府ノ時豪農牧ノ長者ガ有セル黎明ニ至レバ必ズ時ヲ告グル鷄ノ繪ヲ疑ヘル陸奥ノ商人荷物千駄ヲ賭ケテ之ヲ試セルニ果シテ事實ナリシヲ怨ミ再ビ來リテ之ヲ爭ヒ其ノ前夜秘カニ鷄ノ咽喉ニ縫針ヲ刺シ置キテ勝チ去レルガ其ノ時賭ケタル荷物千駄ハ悉ク瓦礫ナリシヲ長者ハ一切ヲ運命ノ神ノ惡戯トシテアキラメ之ヲ埋メタルモノナリト云フ
釣天井	宇都宮市	本多上野介正純三代將軍家光東照宮參拜ノ途次宇都宮城ヲ訪フノ機會ニ於テ暗殺セントシ城下町ヨリ三十六人ノ大工ヲ選ビ普請完成マデハ城外ニ出ヅルヲ禁ジテ釣天井ヲ作リタルニ偶々大工與四郎戀仲お稻ヲ慕フアマリ城ヲ拔ケ出セルニ依リ露顯セリト云フ
山管ノ蛇橋（ヤマスゲ　ジャバシ）（神橋ノ濫觴）	上都賀郡日光町	天平神護二年勝道上人大谷川ノ南岸ニ着キ渡ラントシテ神佛ヲ祈願セルニ赤青ノ二蛇深沙大王ノ手ニ依リ放タレテ橋トナリ遂ニ其ノ背ヨリ山ゲト云ヘル草生ヘ古ビタル橋トナレリト云フ
殺生石	那須郡　那須村	七百餘年前近衞天皇ノ久壽年間千年ノ齡ヲ重ネタル金毛九尾白面ノ老狐天竺ヨリ我國ニ渡リ絶ノ美姫玉藻前ト稱シ關白忠通ニ仕ヘシガ正體ヲ見現ハサレ那須野ケ原ニ現ハレ遂ニ此ノ地ニ射殺サレテ石ト化シ爾來此ノ化石魔性ヲ失ハズ鳥獸蟲魚ヨリ人間ニ至ルマデ近ヅクモノ悉ク之ヲ殺スト云フ
化燈籠	上都賀郡日光町荒神社境内	六百餘年前境内ニ並ビ立ツ數多ノ石燈籠ニ燈火ヲ點ズルニ必ズコノ燈籠ノミ油斷ヘズシテ火ノ消ユルニ全山ノ僧之ヲ怪ミ火ノ淡クナリユク頃躍リ出デテ斬リツクルコト毎夜ニ及ビタルニ怪異ナキニ至レリト云フ
峰崎行者	芳賀郡　市羽村	行者ハ九州某大名ノ落胤ニシテ生誕ノ際ヨリ開カザリシ右手ヨリ生後七年目ニ六字ヲ刻メル黃金ノ寶珠現ハレタリシガ幼ヨリ家ヲ出デヽ難行苦行ヲツヾケツヽ諸國ヲ漂泊シ市塙ノ里ニ移リ住ミ暫々奇瑞ヲ現ハセリト云フ
木の股地藏	那須郡　高林村	八百五十年前安部貞任、宗任兄弟源頼義、義家父子ニ追ハレテ附近ノ山間ニ身ヲヒソメ居タルガ遂ニ見アラハサレ走リ去ル時守リ本尊ナル黃金ノ佛像ヲバ傍ラノ楡ノ木ノ股ニ置キ忘レタルヲ其ノ後年ヲ經テ或ル樵夫ノ夫婦ニ發見サレ祠ニ祀ラレシガ盜難ニ會フニ至リ里人止ムナク石地藏ヲ作リテ之ヲ現在ノ如ク祀レリト云フ

栃木縣ニ關係アル古歌一斑

（宇都宮）

寢さめうき旅の夜床を思ひやれ衣をうつのみやのさと人　北畠准后

花の會は過ぎてもさらに紅花の白ゆふかくるうつのみやしろ　源義長

栃木縣ニ關係アル古歌一斑

（二荒山）

あら玉の年にふたゝびふたら山たち重ねたる春霞かな　橘千蔭

のどかなる春は來にけり玉くしげふたらの山のあくる光りに　加茂眞淵

（歌ケ濱）日光町

敷島の歌の濱べに船寄せて紅葉をかざし月を見るかな　北畠准后

（那須野）

武士の矢並つくらふ小手の上に霰たばしる那須のしの原　源實朝

道おほき那須の御狩の矢さけびにのがれぬ鹿の聲ぞきこゆる　藤原信實

下野や那須野に茂き篠をとりあづまをの子は矢にぞはくなる　下河邊長流

（遊行柳）芦野町

朽殘るあし野の柳末の世もおとなふ法のみちはありけり　遊行上人

みちのべの栃木の柳糸たえて苔のころもに緣りをぞかる　北畠准后

（狐川）喜連川

とにかくに人のこゝろのきつね川影あらはさん時をこそ待て　藤原爲家

（衣川）鬼怒川

きそひつゝ打てど寂しき衣川の築瀨の浪も里のきぬたも　田口河鳥

八重霞しがらみかけてすむ月の光もせくか衣の川つら　物部照庭

（標茅ヶ原）吹上村

下野やしめじの原の草かくれさしもはなしにもゆる思ひを　藤原光俊

（室の八島）國府村

立そひてそれとも見ばや音にきく室の八島の深き煙を　藤原定家

おもひやる室の八島をそれと見ばきくに煙の立やますらん

（寒川）巴波川

けふまでの名にこそあらめうす氷とけて流るゝ春の寒川　源春柳

寒川や卯の花くだす五月雨に夏も雪消の水ぞ流るる　藤原廣善

（安蘇沼）堀米町

ひとりねのをしのふすまによきものは片葉の芦の穗綿なるらん　源正照

（佐野の船橋）

東路の佐野の船橋はじめより思ふ心ありいとひなす君　紀貫之

夕川に駒乘り放し旅人のかちよりぞよく佐野の船橋　下河邊長流

つらなりてさのゝ船橋行く雁も來ん秋までは中絶ゆるかな　三善眞袖

（眞岡の里）

行川の流れとともにつきせぬは眞岡の里にさらすしら布　千種三位有功

—（藤田氏編「下野の古歌」ニ依ルトコロ多シ）—

栃木縣ニ關係アル芭蕉ノ俳句

（野州室の八島にて）

糸遊に結びつきたる煙り哉

（日光山）

あらたうと青葉若葉の日の光り

（日光裏見瀧）

しばらくは瀧にこもるや夏の初

（修驗光明寺にまぬかれて）

夏山に足駄を拜む首途かな

（那須の雲巖寺佛頂禪師の小庵を訪ねて）

留守に來て棚さがしたる藤の花

（同所にて）

啄木鳥も庵は破らず夏木立

（芦野柳）

田一枚植ゑて立ち去る柳哉

（那須野）

野を横に馬ひき向けよほとゝぎす

（殺生石にて）

石の香や夏草赤く露あつし

統計上より見たる栃木縣の地位

（附錄）

統計上より見たる栃木縣の地位

本表は昌めて最近の事實を掲げたる爲、各事實の調査期は必ずしも一致せず尙事實中調査期を掲げざるものは直前事項の調査と同一なり。

	栃木縣	全國中順位	全國 平均	全國 最多	全國 最少
面積	六、四三六・五八五 方粁	二〇	八、一三三・二九六 方粁	北海道	大阪
世帶（昭和十年十月一日）	二一三、〇六〇	二六	二八七、二三三	東京	鳥取
人口總數	一、一九五、〇五七	二四	一、四七三、四九三	東京	鳥取
一人一方粁ニ付人口	一八六	二八	一八一	東京	北海道
婚姻（昭和十年）	九、七〇二	二六	一一、六八三	東京	鳥取
離婚（昭和十年）	五六三	四〇	九八二	東京	山梨
出生	三九、七三五	二四	四四、七二三	東京	鳥取
死產	二、五六〇	一六	二、三六三	東京	沖縄
死亡	二〇、三五三	三三	二六、一七六	東京	鳥取
人口千ニ付 婚姻	八・〇四	二九	七・八二	富山	大阪
離婚	〇・四七	四六	〇・六六	沖縄	茨城
出生	三二・九四	一〇	二九・九二	青森	大阪
死產	二・一二	一	一・五八	栃木	沖縄
死亡	一六・八七	三七	一七・五一	石川	東京
學齡兒童（昭和十年三月一日）總數	二五一、〇七〇	二〇	二七四、五八五	東京	鳥取
男	一二六、一九四	二〇	一三九、一七〇	東京	鳥取
女	一二四、八七六	二〇	一三五、四一六	東京	鳥取
就學率	九九・七六	四	九九・五八	青森	鹿兒島
小學校數（分教場ヲ含ム）	四九八	二四	五四八	北海道	沖縄
小學校教員（昭和十三年一月一日）總數	四、七三一	二六	五、三七二	東京	鳥取
本科正教員數	四、一〇七	二二	四、四九九	東京	鳥取
專科正教員數	二三二	二三	二九一	東京	佐賀
准教員數	一五三	一三	一一九	茨城	大阪
代用教員	二三九	三六	四六五	北海道	佐賀
代用兒童	二一、九八三	二〇	二三八、九三一	東京	鳥取
小學校（補習科ヲ含ム）					

統計上より見たる栃木縣の地位

| | | |

蕎麥	二七八、五四一	九	一六五、八八六	北海道	一、七八三、〇二八	大阪	一五六
玉蜀黍	一一四、〇八五	三	六五、四三六	北海道	一、八〇五、四七六	大阪	一七一
甘藷	一、二六二、六九四	一八	一、八七一、四六七	鹿兒島	一二、三〇五、二一〇	北海道	五、六八七
馬鈴薯	五九八、八四五	二二	八九一、五四三	北海道	一六、二四一、五二六	沖縄	六四二
蒟蒻芋	七〇、五八〇	二三	一七一、四〇三	廣島	一、二四七、七四八	北海道	四八
翡翠合	三四、一二二	一〇	三九、五九五	長崎	四九三、七四四	鳥取	五
百花芋	一、三四九、三四二	二	五七九、九六四	千葉	一、四六九、七七一	北海道	二、五九八
里芋	七一八、二一九	七	三七〇、二九八	東京	一、〇七四、二六一	沖縄	一九、八四七
清菜	六五四、一三三	三二	八二三、二七八	北海道	二、一一一、六五一	沖縄	二二二、七一二
生根大蘿蔔	一三二、九六四	一六	一二四、五五八	北海道	八一二、九八九	佐賀	一九、五八七
牛蒡	二三六、六〇〇	一八	二三二、六四〇	埼玉	七〇三、九三六	沖縄	三七、七九八
南瓜	一三〇、七四三	二六	四一二、七九三	愛知	二、五四一、一九〇	沖縄	二二、一三五
西瓜	一六八、七五三	二四	一四一、一七五	東京	一、二七六、六一七	山梨	四一、一八二
蕃茄	八八、六八二	二八	二四四、八二六	東京	五九三、〇七二	香川	一三、八四五
胡瓜	二四二、五五四	一九	二四四、八二六	東京	八九八、二六一	沖縄	二五、八〇一
葱	二四一、二一七	一八	二一六、六七七	千葉	九四〇、九七一	和歌山	二九、二三七

茄子	三六八、三〇三	一七	三四三、三〇三	東京	一、四五〇、五〇七	沖縄	四、五九二
菜種	四六、二一五	二九	四〇九、四四七	福岡	五、二九四、二一六	東京	二、二七四
大麻	二、二一九、三二八	一	六九、七一五	栃木	二、二一九、三二八	千葉	一二
苧麻	二三、七七四	七	一一、六九三	宮崎	一一、一一〇	岩手	九二
楮麻	五、一八九	三二	六七、二三三	高知	一、〇二七、一四三	秋田	六一
胡麻	三六、二〇七	四	一九、一三〇	茨城	一二五、一七九	北海道	三三四
梅	一四〇、九八六	一二	一〇六、四五九	和歌山	三三四、六三〇	鳥取	三四、八三四
桃	三四、三五五	三二	八三、六九七	神奈川	四九七、六八八	沖縄	六七九
梨	一二二、〇一九	二九	二四〇、六一五	靜岡	一、〇六〇、一五九	山梨	一二、〇三九
日本柿	一二、六五二	四一	二九三、八六五	岐阜	七二七、〇七九	北海道	一四
生柿	六、八九三	四〇	四四、二〇二	廣島	二一、一六八	香川	六八二
乾柿	三二、五五〇	三二	一二六、六七四	大阪	九二八、〇四〇	沖縄	八九
葡萄	五、五七九、五三四	一	八一七、九三八	栃木	五、五七九、五三四	青森	三五
葉煙草	四三二、七二六	五	九〇九、二二三	鹿兒島	二、二五二、九二四	青森	一三、一〇二
繭	四、三二三、二七七	三二	八、二二六、四〇〇	長野	三七、六五一、八二六	北海道	二六、七七八
綠肥用作物	六九四、三八九	四二	四、五五〇、八七七	長野	三四、九七〇、六六六	北海道	五、二二六
蠶種							

| | | |

| | | |

栃木縣内鐵道粁程及賃金表

東北本線

	宇都宮	雀宮	石橋	小金井	小山	間々田	岡本	實積寺	氏家	喜連川	片岡	矢板	野崎	西那須野	東那須野	黒磯
雀宮	七・七 一三															
石橋	一四・一 二四	六・四 一一														
小金井	二一・四 三五	一三・七 二二	七・三 一三													
小山	二八・九 四六	二一・二 三五	一四・八 二四	七・五 一三												
間々田	三六・三 五八	二八・六 四六	二二・二 三六	一四・九 二四	七・四 一三											
岡本	六・二 一一	一三・九 二二	二〇・三 三三	二七・六 四四	一四・三 二五	四二・五 六八										
實積寺	一一・七 一九	一九・四 三二	二五・八 四一	三三・一 五四	二〇・〇 三二	四八・〇 七五	五・五 一〇									
氏家	一七・六 二九	二五・三 四一	三一・七 五〇	三九・九 六一	二六・二 四二	五三・九 八五	一一・四 一九	五・九 一〇								
喜連川	二二・一 三六	二九・八 四七	三六・二 五八	四三・五 六九	二九・八 四七	五八・四 九三	一九・七 三二	一一・四 一二	一〇・四 一八							
片岡	二五・九 四一	三三・六 五四	四〇・〇 六三	四六・七 七四	三三・一 五四	六二・二 九九	二六・〇 四一	一四・二 二四	一〇・四 一八	三・八 七						
矢板	三二・二 五二	三七・九 六〇	四四・七 七〇	五一・一 八一	三七・〇 五八	六八・八 一〇八	三〇・一 四九	二四・三 三三	一八・一 二九	一〇・八 一六	六・三 一一					
野崎	三七・〇 五八	四二・〇 六八	四九・九 七七	五六・八 八八	四二・〇 六八	六八・〇 一〇八	三六・〇 五七	二四・五 三九	一八・〇 二九	一〇・〇 一六	六・〇 一〇	四・八 七				
西那須野	四二・二 六八	四八・八 七五	五六・三 八八	六二・四 九九	四八・八 七五	七五・九 一〇八	五七・〇 八一	三九・五 六二	二九・〇 四六	一六・〇 二六	一〇・一 一六	六・一 一〇	四・九 七			
東那須野	四八・〇 七五	五四・九 八八	六一・四 九九	六八・〇 一〇七	五四・九 八八	七八・〇 一二六	六四・〇 一〇二	四五・〇 七二	三二・〇 五一	二六・〇 四一	一六・〇 二六	一〇・一 一六	七・一 一一	三・〇 五		
黒磯	五三・九 八五	六一・七 九七	六八・九 一〇七	七五・九 一一七	六一・〇 九七	八四・〇 一三五	七〇・〇 一一二	五六・〇 八九	四二・〇 六八	二七・〇 四四	一七・〇 二七	一一・〇 一七	七・〇 一一	三・〇 五		

東武鐵道

	百那須野	成田山前	大田原	中田原	金丸原	黒羽	烏山前	野州山田	足利市	館林	館林
百那須野	三・七 一〇										
成田山前	四・六 一〇	一〇・六 一六									
大田原	五・五 一〇	一二・五 一八	一〇・九 一六								
中田原	六・三 一〇	一三・三 一九	一二・二 一八	一〇・八 一六							
金丸原	九・八 一五	一六・八 二五	一五・七 二四	一四・二 二一	一〇・五 一六						
黒羽	一三・一 二〇	二〇・一 三〇	二〇・〇 三〇	二〇・〇 三〇	一七・〇 二六	一〇・〇 一六					
烏山前	一六・〇 二四	二三・〇 三五	二三・〇 三五	二三・〇 三五	二〇・〇 三〇	一三・〇 二〇	一〇・〇 一六				
野州山田	一八・〇 二七	二五・〇 三八	二五・〇 三八	二五・〇 三八	二二・〇 三三	一五・〇 二三	一二・〇 一八	一〇・〇 一六			
足利市	二〇・〇 三〇	二七・〇 四〇	二七・〇 四〇	二七・〇 四〇	二四・〇 三六	一七・〇 二六	一四・〇 二一	一二・〇 一八	一〇・〇 一六		
館林	二二・〇 三三	二九・〇 四四	二九・〇 四四	二九・〇 四四	二六・〇 三九	一九・〇 二八	一六・〇 二四	一四・〇 二一	一二・〇 一八	一〇・〇 一六	
館林	二四・〇 三六	三一・〇 四七	三一・〇 四七	三一・〇 四七	二八・〇 四二	二一・〇 三二	一八・〇 二七	一六・〇 二四	一四・〇 二一	一二・〇 一八	一〇・〇 一六

通行税

	一等	二等	三等
五〇粁未滿	六	三	一
五〇粁以上	一〇	五	二
一〇〇粁以上	三〇	一五	五
一五〇粁以上	六〇	三〇	一〇
三〇〇粁以上	一二〇	六〇	二〇
五〇〇粁以上	一八〇	九〇	三〇
八〇〇粁以上	二四〇	一二〇	四〇

急行料金

粁程	列車別	特別急行車			普通急行車		
	等級	一等	二等	三等	一等	二等	三等
四百粁迄		四〇〇	二四〇	一六〇	二〇〇	一六〇	一二〇
八百粁迄		六〇〇	四〇〇	二六〇	三〇〇	二四〇	一八〇
八百一粁以上		七二〇	五〇〇	三二〇	三六〇	二八〇	二一〇

東武下野電氣鐵道

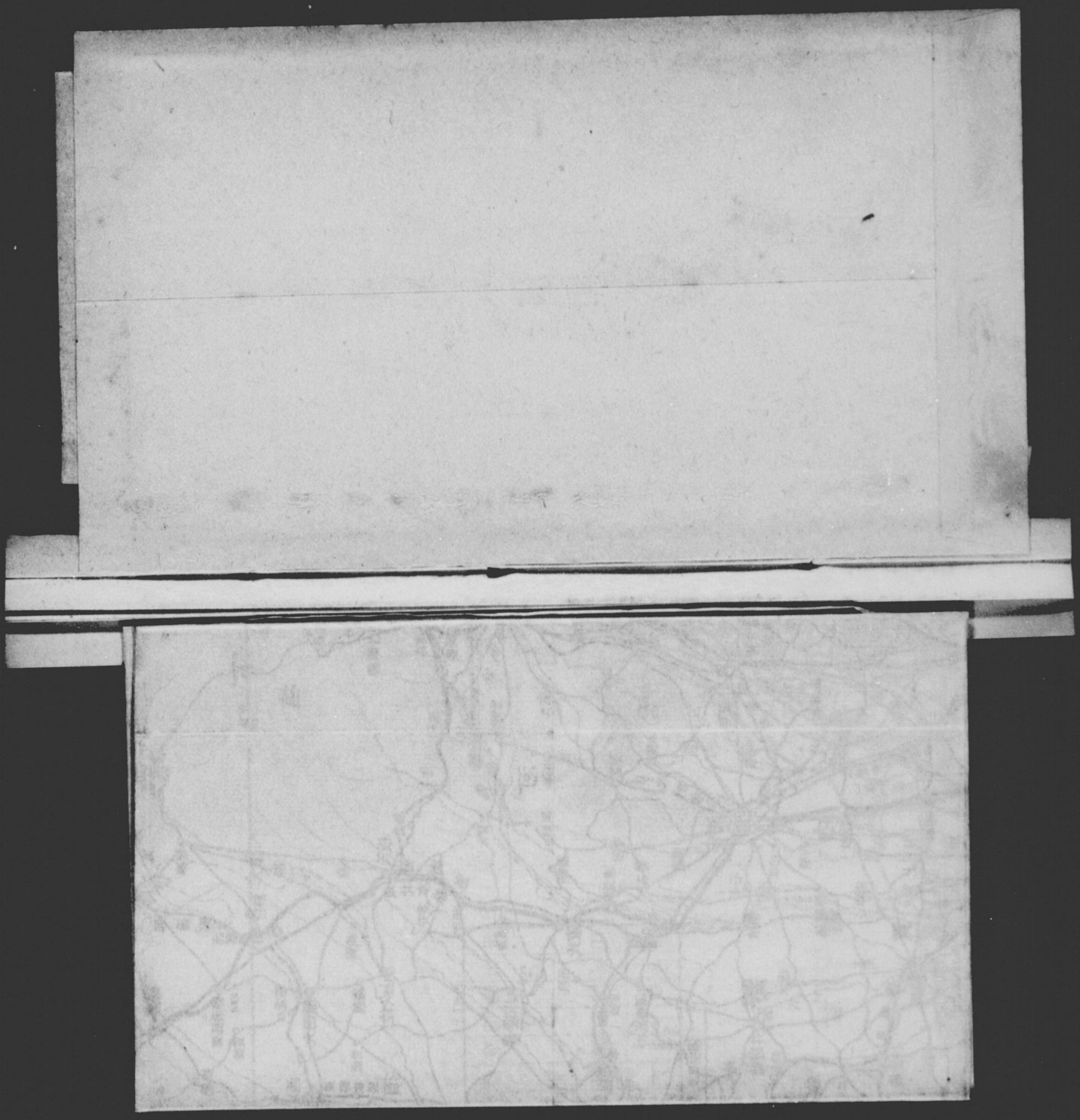
	宇都宮	雀宮	石橋	小金井	小山	間々田	岡本	實積寺	氏家	喜連川	片岡	矢板	野崎	西那須野	東那須野	黒磯
宇都宮																
雀宮	一三・七 一三															
石橋	二四・一 二四	六・四 一一														
小金井	三五・二 三五	一三・七 二二	七・三 一三													
小山	四六・九 五八	二一・二 三五	一四・八 二四	七・五 一三												
間々田	五六・三 六八	二八・六 四六	二二・二 三六	一四・九 二四	七・四 一三											
岡本	六一・二 一一	一三・九 二二	二〇・三 三三	二七・六 四四	一四・三 二五	四二・五 六八										
實積寺	一一・七 一九	一九・四 三二	二五・八 四一	三三・一 五四	二〇・〇 三二	四八・〇 七五	五・五 一〇									
氏家	一七・六 二九	二五・三 四一	三一・七 五〇	三九・九 六一	二六・二 四二	五三・九 八五	一一・四 一九	五・九 一〇								
喜連川	二二・一 三六	二九・八 四七	三六・二 五八	四三・五 六九	二九・八 四七	五八・四 九三	一九・七 三二	一一・四 一二	一〇・四 一八							
片岡	二五・九 四一	三三・六 五四	四〇・〇 六三	四六・七 七四	三三・一 五四	六二・二 九九	二六・〇 四一	一四・二 二四	一〇・四 一八	三・八 七						
矢板	三二・二 五二	三七・九 六〇	四四・七 七〇	五一・一 八一	三七・〇 五八	六八・八 一〇八	三〇・一 四九	二四・三 三三	一八・一 二九	一〇・八 一六	六・三 一一					
野崎	三七・〇 五八	四二・〇 六八	四九・九 七七	五六・八 八八	四二・〇 六八	六八・〇 一〇八	三六・〇 五七	二四・五 三九	一八・〇 二九	一〇・〇 一六	六・〇 一〇	四・八 七				
西那須野	四二・二 六八	四八・八 七五	五六・三 八八	六二・四 九九	四八・八 七五	七五・九 一〇八	五七・〇 八一	三九・五 六二	二九・〇 四六	一六・〇 二六	一〇・一 一六	六・一 一〇	四・九 七			
東那須野	四八・〇 七五	五四・九 八八	六一・四 九九	六八・〇 一〇七	五四・九 八八	七八・〇 一二六	六四・〇 一〇二	四五・〇 七二	三二・〇 五一	二六・〇 四一	一六・〇 二六	一〇・一 一六	七・一 一一	三・〇 五		
黒磯	五三・九 八五	六一・七 九七	六八・九 一〇七	七五・九 一一七	六一・〇 九七	八四・〇 一三五	七〇・〇 一一二	五六・〇 八九	四二・〇 六八	二七・〇 四四	一七・〇 二七	一一・〇 一七	七・〇 一一	三・〇 五		
矢板	三二・二 五二	三七・九 六〇	四四・七 七〇	五一・一 八一	三七・〇 五八	六八・八 一〇八	三〇・一 四九	二四・三 三三	一八・一 二九	一〇・八 一六	六・三 一一					
幸岡	三五・二 六〇	四一・〇 六八	四八・九 七七	五五・八 八八	四一・〇 六八	六七・〇 一〇八	三五・〇 五七	二四・五 三九	一八・〇 二九	一〇・〇 一六	六・〇 一〇	四・八 七				
柄堀	三八・七 六九	四一・七 七六	四四・九 八三	四八・六 八六	四一・七 七六	五四・八 八三	四〇・〇 六六	三三・〇 五四	二七・〇 四四	二一・〇 三三	一六・〇 二六	一〇・〇 一六	七・〇 一一	三・〇 五		
玉生	四一・〇 七〇	四四・〇 七三	四六・〇 七六	四八・〇 八〇	四四・〇 七三	五一・〇 八四	四六・〇 七六	三八・〇 六二	三〇・〇 四九	二四・〇 三六	一八・〇 二七	一二・〇 一八	八・〇 一二	三・〇 五		
声場	四五・九 七六	四八・八 八〇	五〇・六 八三	五二・五 八六	四八・八 八〇	五六・〇 九二	四九・〇 八一	四二・〇 七〇	三五・〇 五八	二八・〇 四六	二一・〇 三五	一四・〇 二三	八・〇 一三	三・〇 五		
天頭	五二・八 八六	五五・七 九一	五七・七 九四	五九・七 九七	五五・七 九一	六二・七 一〇二	五五・〇 九〇	四七・〇 七八	三九・〇 六五	三一・〇 五二	二四・〇 四〇	一六・〇 二七	八・〇 一三	三・〇 五		
矢板	三二・二 五二	三七・九 六〇	四四・七 七〇	五一・一 八一	三七・〇 五八	六八・八 一〇八	三〇・一 四九	二四・三 三三	一八・一 二九	一〇・八 一六	六・三 一一					

氣仙道
武鐵道
東武鐵道
東武線
日光線
岡線
毛線
兩線
道
以下同様
高萩
大桑
下今市
宇都宮
佐野
田島
堀米
青水
田沼
多田
高崎
新藤原
福島
鬼怒川
笠石崎
佐貝土
那須小川
中田原
金丸原
黒羽
湯津上
天頂
鮎生
芦場
高生
新栃木
大平下
岩舟
佐野
富田
東京
金東武
家中
介取巻
新栃木
金崎
日光
光武
上今市
下今市
明神
小代
板荷
北高徳
新高徳
樋山
檜木
檜木
新栃木
思川
茂木
市塙
七井
登子
西田井
鹿沼
寺内
久下田
今市
大谷
文挟
鹿沼
黒田原
黒磯
那須
東野
須賀
野那
下野
鹿沼
下野
大谷
文挟
鹿沼
黒田原
黒磯
須賀
野那
那須
東野
日光
今市

足尾線・烏山線

駅名	武蔵家中	合歓橋	新芳木	大野原	壬生	国谷	安塚	西川田	宇都宮
足尾	二・六	二・四五	二・四一	三・七九	三・六	三・五	三・〇	二・六	二・一
通洞	一・六	一・四	一・二	一・〇	〇・九	〇・八	〇・六	〇・三	〇・一
原向	一・四	一・二	一・〇	〇・九	〇・八	〇・六	〇・四	〇・二	〇・一
小俣	一・二	一・〇	〇・九	〇・八	〇・六	〇・四	〇・二	〇・一	〇・〇
山前	一・〇	〇・八	〇・六	〇・四	〇・二	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
足利	〇・七	〇・五	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
富田	〇・五	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
佐野	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
岩舟	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
足尾	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
間藤	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
仁井田	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
大金	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
烏山	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇

栃木縣管内圖

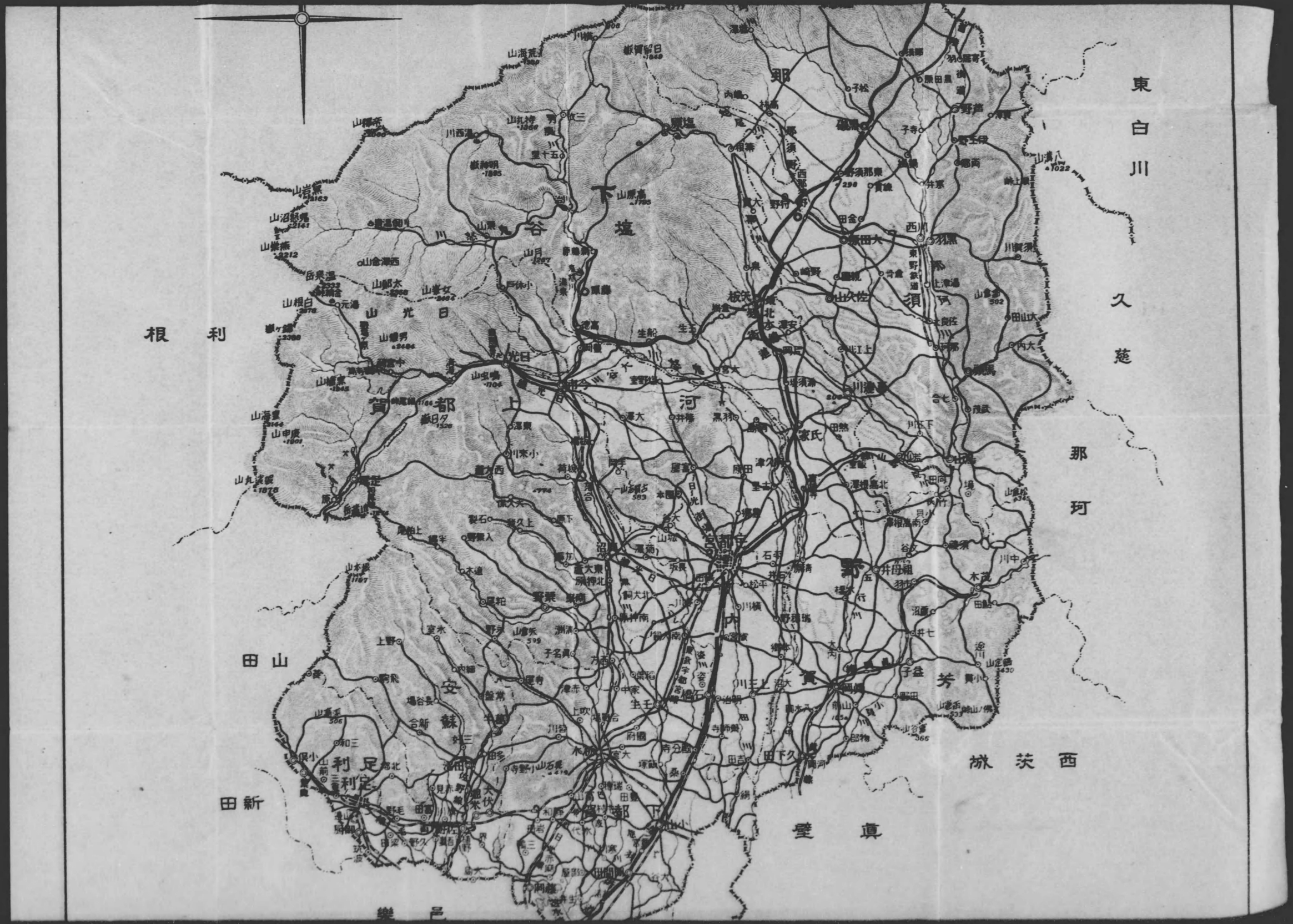


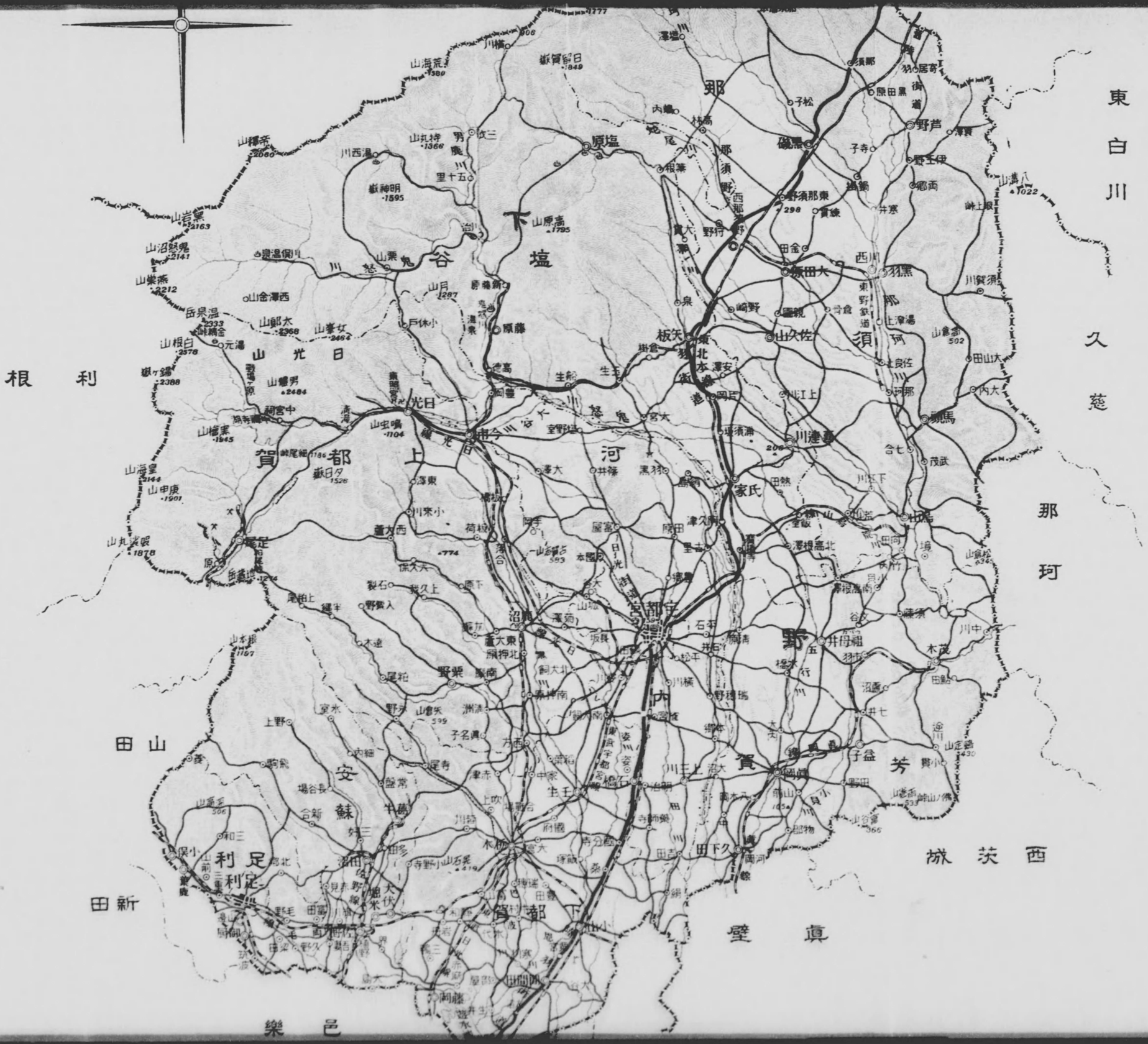
栃木縣管內圖

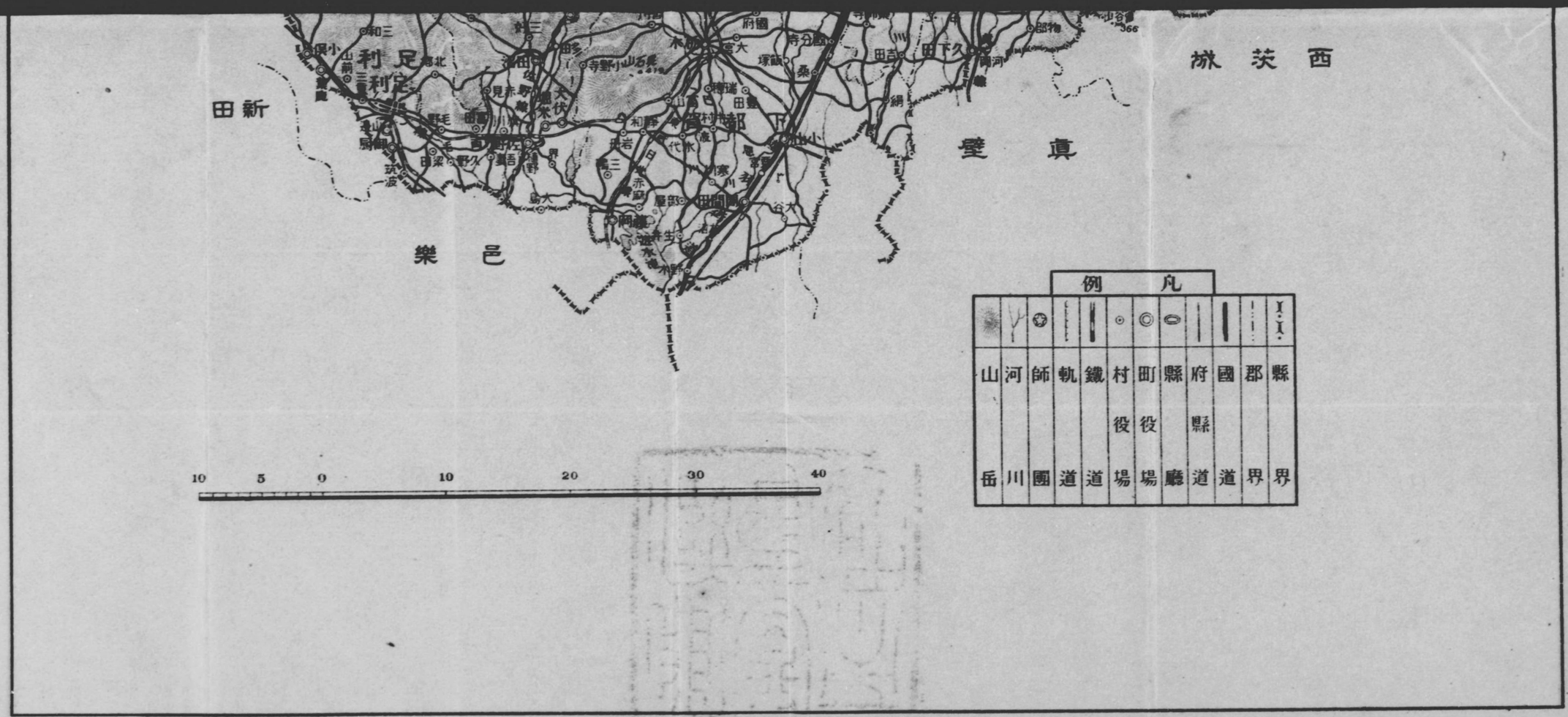
縮尺五拾萬分之壹

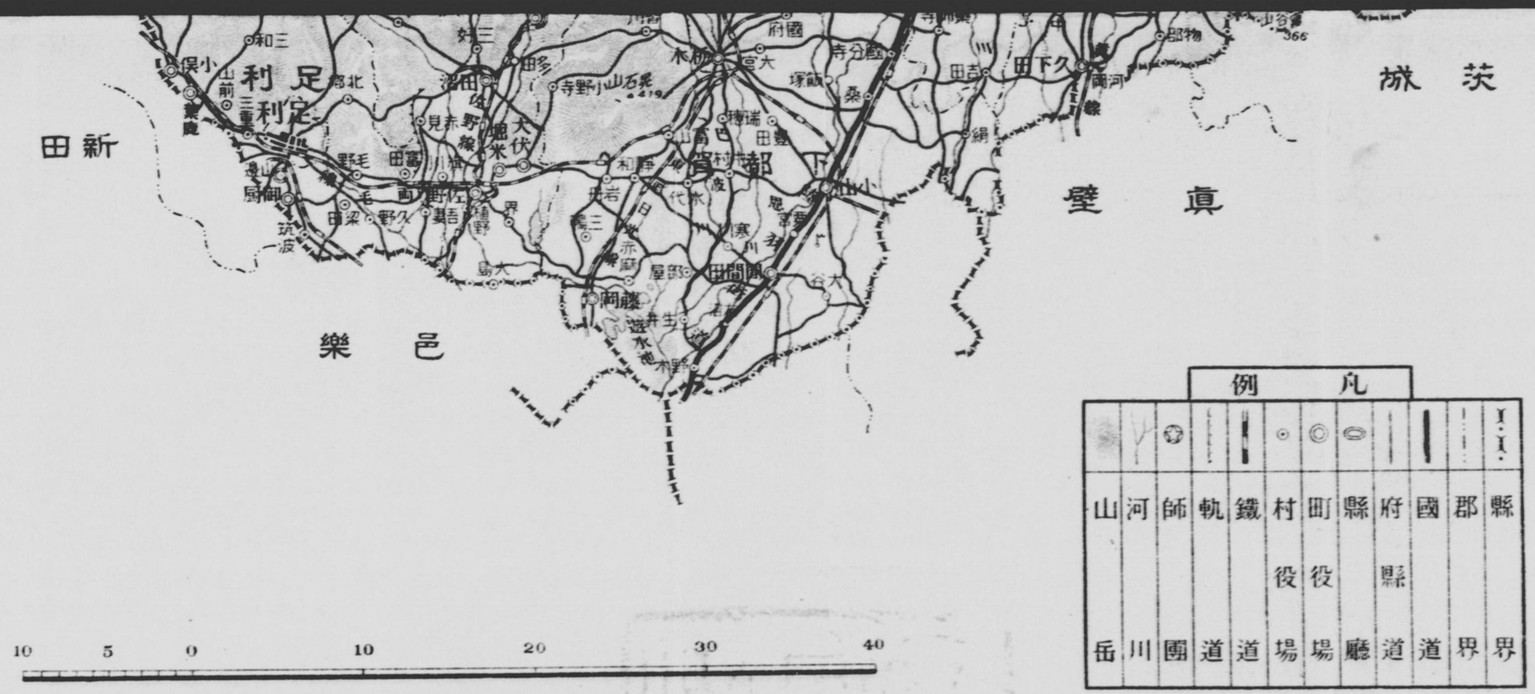
栃木縣管內圖

縮尺五拾萬分之壹


東白川
久慈
那珂
茨城
真壁
芳賀
那須
河内
塩谷
日光
上都賀
安蘇
足利
佐野
栃木
宇都宮
大田原
黒羽
烏山
益子
真岡
下妻
結城
下館
水戸
利根
山田
新田
足利市
佐野市
宇都宮市
日光市
栃木市
大田原市
烏山町
益子町
真岡市
下妻市
結城市
水戸市


東白川
久慈
那珂
西茨城
真壁
芳賀
那須
塩谷
河内
宇都宮
日光
足利
佐野
栃木
小山
下都賀
上都賀
安蘇
新田
山田
邑楽
利根
日光山
鬼怒川
渡良瀬川
那珂川
黒羽
烏山
大田原
矢板
喜連川
氏家
真岡
益子
茂木
馬頭
黒磯
塩原
鹿沼
足利


新田
足利
邑樂
茨城
真壁
10 5 0 10 20 30 40
凡例
山岳
河川
師團
軌道
鐵道
村役場
町役場
縣廳
府縣道
國道
郡界
縣界



凡例

縣界	郡界	國道	府縣道	縣廳	町役場	村役場	鐵道	軌道	師團	河川	山岳